

特62
713

NEW TESTAMENT.

新約全書

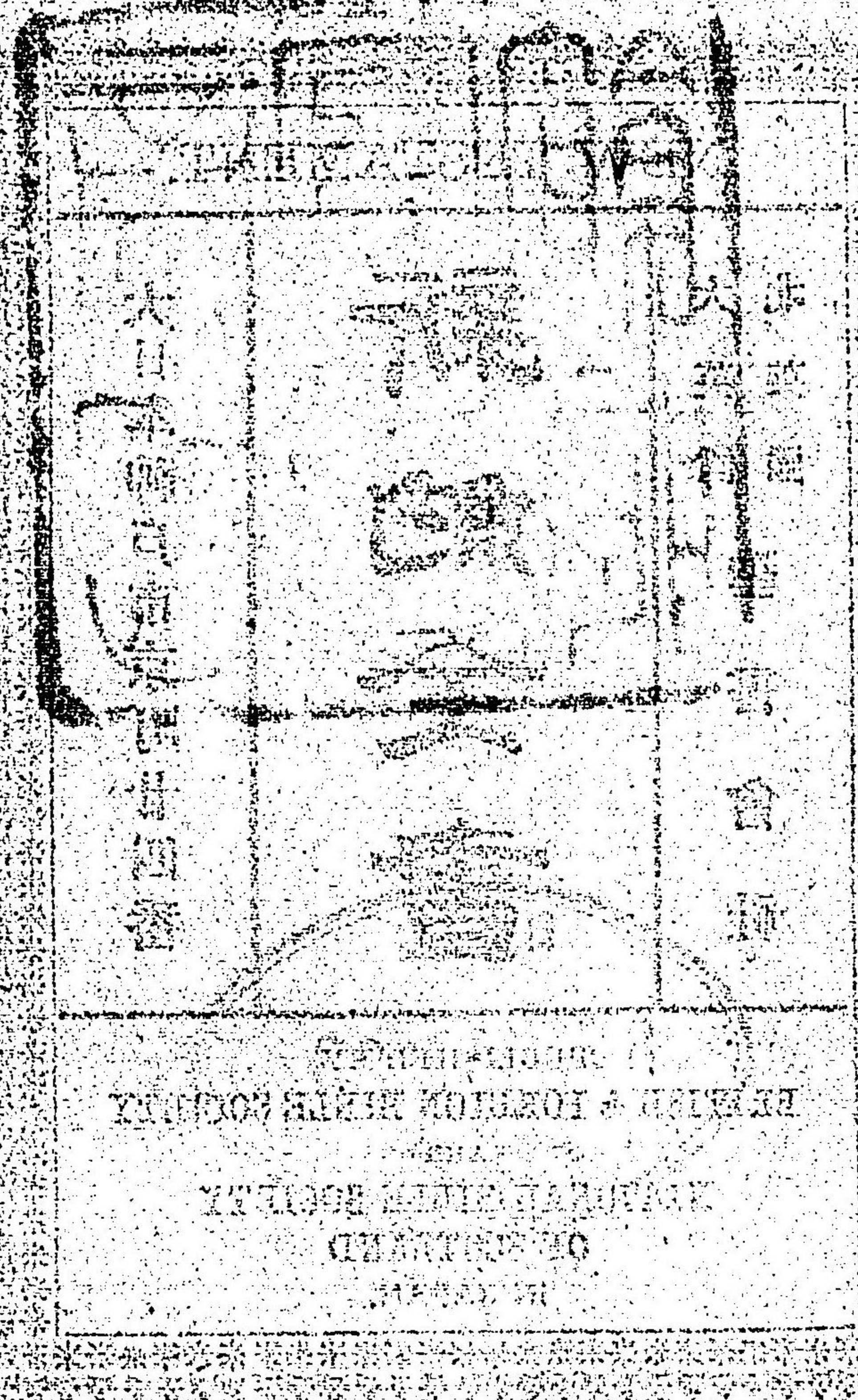
大英國
北英國
聖書會社

大日本
神戶市京町廿四番

3 PUBLISHED BY
BRITISH & FOREIGN BIBLE SOCIETY
AND
NATIONAL BIBLE SOCIETY
OF SCOTLAND
IN JAPAN.

新約全書目錄

馬太傳福音書	一頁	廿八章數	達提摩太前書	六一三	六章數
馬可傳福音書	九三	十六	達提摩太後書	六二五	四
路加傳福音書	一五三	廿四	達提多書	六三三	三
約翰傳福音書	二四九	廿一	達腓利門書	六三九	一
使徒行傳	三二九	廿八	達希伯來人書	六四三	十三
達羅馬人書	四三一	十六	雅各書	六七三	五
達哥林多人前書	四七三	十六	彼得前書	六八五	五
達哥林多人後書	五一五	十三	彼得後書	六九七	三
達加拉太人書	五四三	六	約翰第一書	七〇五	五
達以弗所人書	五五九	六	約翰第二書	七一七	一
達腓立比人書	五七三	四	約翰第三書	七一九	一
達哥羅西人書	五八五	四	猶太書	七二一	一
達帖撒羅尼迦人前書	五九七	五	約翰默示錄	七二五	廿二
達帖撒羅尼迦人後書	六〇七	三			



新約全書馬太傳福音書

アブラハムの裔なるダビデの裔イエスキリストの系圖ニアブラハ

ムイサリを生イサクヤエブを生ヤコブエタその兄弟を生リニエタタマル

に由てジレンとサラを生パレンとヘスロンを生エスロンアラムを生四アラム

アミナダブを生アミナダブアサシを生ナアソンサルモンを生五サルモン

アハサに由てボアズを生ボアズルツに由てオベデを生オベデエツサイを生

六エツサイダビデ王を生ダビデ王ウリヤの妻に由てソロモンを生七ソロモ

ンシメムムを生レハベラムアビヤを生アビヤアサを生八アサヨサパテを

生九ヨサパテヨラムを生ヨラムヨラムを生九ウツズヤヨラムを生ヨラム

アカズを生アカズヨセキヤマナセを生マナセアモンを生ア

モンヨシアを生リ十一バビロンに徙さるる時ヨシアエホヤキンと其兄弟

を生十二バビロンに徙されたる後エホヤキンシアテルを生シアテルゼルバ

ベルを生十三ゼルバベルアビウデを生アビウデアリアキンを生エリアキン

アツルを生うみ十四アツルザドクを生うみザドクアキムを生うみアキムエリウデを生うみ
 十五 エリウデエリアザルを生うみエリアザルマツタンを生うみマツタンヤコブを生うみ
 十六 ヤコブマリアの夫ヨセフを生うみリ此マリアよりキリストを稱よぶるイエス
 生れ給ひうたまき十七 其世系を數ればそのよつぎかぞよアブラハムよりダビデに至るまで十四代
 まで十四代なり○十八 それイエスキリストの生れ給るうたまこと左の如し其母
 マリアはヨセフを聘定いひなづけなせを爲るのみにて未だ憎にくみならずりしとき聖靈せいれいに感かん
 じて孕はらしが其孕はらたること顯あられば十九 夫ヨセフ義人たうしきひとなる故ゆゑに之を辱はづか
 むることこのまひそかりえんを願ねがひて離縁りえんせんと思へり二十 斯かくて此事このことを思おもひ念おもへる時に生うま
 る使者つかひかれが夢ゆめに現れて曰いひけるはダビデの裔こヨセフよ爾妻なんぢつまマリアを娶めとむこと
 を懼おそるなかれ勿なかれははらめどころものせいれいよるなに由より二ふたかれ子こを生うまそのな入いるそのなイエス
 と名なくべし蓋そはその民たみを罪つみより救すくはんとすれば也二三 凡すべて此事このことは預言者よげんしやに託たく
 て主しゆの曰いひたまひし言ことばに二三 處女とこめはらみて子こを生うまそのな入いるそのなインマヌエルと稱よ

べしと有あるかなは應たません爲ためなり其名そのなを譯とひかみ神かみわれらと偕ともに在あるこの義こうなり二四 ヨセ
 フねがり起おきて主しゆの使者つかひの命めいせし言ことばに遵したがひ其妻そのつまを娶めとり
 爾そのまで牀とこを同どうにせざりき其生れし子こをイエスと名なけたり

第三 夫それイエスはヘロデ王わうの時ときエダヤのベテレヘムべに生れ給うたまひ其そのとき
 博士はかせたち東ひがしの方かたよりエルサレムえに來きたり二曰いひけるはエダヤ人の王わうとて生れ給
 る者ものは何處いづこに在います乎かわひがしかたそのほしを見みたれば彼かれを拜はいせん爲ために來きたれ
 り三ヘロデ王わうこれきを聞きて痛いたむ又またエルサレムえの民たみもみな然しかり四凡すべてさいし
 民たみの學者がくしやを集あつめてヘロデ問とけるはキリストの生るべき處ところは何處いづこなる乎や
 答こたへるはエダヤのベテレヘムべなり蓋そは預言者よげんしやの錄しるされたる言ことばに六エダヤの地ち
 べテレヘムべ爾なんぢはエダヤの郡中ぐんちゆうにて至いたり小こきものに非あらず我わがイスラエルの民たみ
 を牧まかふべき君きみその中うちより出いでんことばなり七是こゝに於おいてヘロデ密ひそかに博士等はかせたちを召よひ
 星ほしの現あらはしむ時ときを詳こまかに問とて八彼等かれらをベテレヘムべに遣つかはさんとして曰いひけるは往ゆて
 嬰兒あなごの事ことを細こまかに尋たづねこれに遇あはれ我われも亦またゆきて拜はいすべし九かれら王わうの

命を聞て往り前に東の方にて見たりし星かれらに先ちて嬰兒の居所に
 たり其上に止りぬ十彼等この星を見て其く喜び十一既に室に入れわ
 の其母マリヤと偕に居を見ひれふして嬰兒を拜し寶の盆を開て黄金乳香
 没薬など禮物を獻たり十二博士夢にヘロテへ返る勿きの獄示を蒙りて他
 途より其國に歸れり十三彼等が去るのち主の使者ヨセフの夢に現れて曰
 けるはヘロテ嬰兒を索て殺さんとする故に起て嬰兒と其母とを擧へエジ
 プトに逃て復わが爾に示さん時まで彼處に止れ十四ヨセフ起て夜嬰兒と其
 母とを擧へエジプトに往十五ヘロテの死るまで其所に止れり是主預言者
 に託て我わが子をエジプトより召出せり云給ひしに應せん爲なり十六是
 に於てヘロテ博士に欺かれたるをまり大にいかり人を遣して博士に詳く問
 たる時を度りベテレヘムと其境の内なる二歳以下の嬰兒を盡く殺せり
 十七即ち預言者エレミヤの言に十八歎き悲み甚く憂る聲ラハに聞ゆラケル
 其兒子を歎き其兒子の無によりて慰を得ず云しに應へり十九斯てヘロ

テ死しかば主の使者ヨセフの夢にエジプトにて現れ曰けるハ二十起て嬰兒
 とその母とを擧へイスラエルの地にゆけ嬰兒の生命を索る者ハ已に死り
 二 彼あきて嬰兒と其母とを擧へてイスラエルの地に至しがニアケラチ
 父ヘロテに代てユダヤの王たりと聞ければ彼處に往こを懼る又夢に告を
 蒙りてガリラヤの内に避ニミナザレと云る邑に至りて居り彼はナザレ人
 稱れんと預言者に託て云れたる言に應せん爲なり

當時バプテスマのヨハ子來りてユダヤの野に宣傳へて二曰けるは
 天國は近けり悔改めよ三是は主の道を備その路線を直せよと野に呼る人の
 聲ありと預言者イザヤが言し人なり四此ヨハ子は身に駱駝の毛衣をき腰に
 皮の帯をつかれ蝗蟲と野蜜を食物とせり五此時エルサレム及びユダヤを
 擧またヨルダンの四方より人々出てヨハ子に就六己が罪を悔あらはしヨル
 ダンにて彼よりバプテスマを授られたりセバプテスマを受んとてパリサイ
 及サドカイの人々の多く來れるを見て彼等に曰けるは蠅の齋よ誰なんぢら

に來んとする怒を避へきことを告しや、八然が悔改に符ふ果を結べよ、九爾曹われらが先祖にアブラハム有と云ふことを忘る勿れ我爾曹に告ん神の能の石をもアブラハムの子と爲しめ給ふなり、十今や斧を樹の根に置る故に凡て善果を結ざる樹は斫れて火に投入らるべし、十一我は爾曹を悔改させんさて水を以て爾曹にバプテスマを授く我より後に來者は我に勝て能力あり我は其履を提にも足す彼は聖靈と火をもて爾曹にバプテスマを授ん十二手には箕を持って其禾場を淨め麥は歛て其倉にいれ糠は熄ざる火にて燬べし、十三斯時イエスヨハ子にバプテスマを受んさてガリラヤよりヨルダ

ンに來り給ふ、十四ヨハ子辭て曰けるは我は爾よりバプテスマを受べき者なるに爾、反て我に來る乎、十五イエス答けるは暫く許せ如此すべての義き事は我儕盡す可なり是に於てヨハ子彼に許せり、十六イエスバプテスマを受て水より上れるとき天忽ち之が爲にひらけ神の靈の鶴の如く降て其上に來るを見る、十七又天より聲ありて此の我心に適わが愛子なりと云り

四十夜食ふ事をせず後うゑたり、三試むる者かれに來りて曰けるは爾もし神の子ならば命じて此石をパンと爲よ、四イエス答けるは人のパンのみにて生るものに非ず唯神の口より出る凡の言に因さ録されたり、五是に於て惡魔かれを聖京に携へゆき殿の頂上に立てて曰けるは六爾もし神の子ならば己が身を下へ投よ蓋なんぢが爲に神その使等に命せん彼等手にて支へ爾が足の石に觸ざるやうすべしと録されたり、七イエス彼に曰けるは主たる爾の神を試むべからずと亦録せり、八惡魔また彼を最高き山に携へゆき世界の諸國とその榮華を見せしめ九爾もし俯伏て我を拜せば此等を悉なんぢに與ふべしと曰、十イエス彼に曰けるはサタンよ退け主たる爾の神を拜し惟之にのみ事ふべしと録されたり、十一終に惡魔かれを離れ天使たち來り事ふ

○十二イエスヨハ子の囚れし事を聞てガリラヤに往十三ナザレを去せブルンニナフタリとの界なる海邊のカペナウンに至て此に居り、十四これ預言者

イザヤの言に十五ゼブルンの地ナフタリの地海に沿たる地ヨルダンの外の
 地異邦人のかりラヤ十六此等の幽暗になる民の大なる光をみ死地と死陰に
 坐する者の上に光いでたりと云しに應せん爲なり○十七斯時よりイエス
 始て道を宣傳へ天國の近けり悔改めよと曰たまへり十八イエスガリラ
 ヤの海邊を歩くペテロと云シモンその兄弟アンデレと二人にて海に網を
 てるを見たり彼等の漁者なり十九之に曰ける我に従へ我なんぢら人を
 を漁る者爲ん二十彼等やがて網を棄てイエスに従ふ二一此より進けるに
 又ほかの兄弟二人即ちゼバダイの子ヤコブと其兄弟ヨハ子父ゼベ
 ダイと偕に舟にて網を補へるを見て之を召しに二二彼等も頓て舟と父を
 置いてイエスに従へり○二三イエスガリラヤを徧く巡り其會堂にて教をな
 し天國の福音を宣傳かつ民の中なる諸々の病もろくの疾を醫しぬ二四
 その聲名あまれくスリヤに播りしかば人をすべての患へる者萬殊の病また
 痛惱る者あるひは鬼に憑たるもの癩癩、癩瘋の病に罹れる者を彼に携來

ければ之を醫せり三五ガリラヤとデカポリスエルサレムエタヤヨルダンの
 の外より多の人々きたり従ふ

第五章 イエス許多の人を見て山に登り坐し給ければ弟子等も其下に來れ
 り二イエス口を啓て彼等に教へ曰ける三心の貧き者ハ 福なり天國の即
 ち其人の者なれば也 四哀む者ハ 福なり其人ハ 安慰を得べければ也 五柔和
 なる者ハ 福なり其人ハ 地を嗣嗣こそを得べければ也 六饑渴こそく義を慕
 者のハ 福なり其人ハ 飽こそを得べければ也 七矜恤ある者ハ 福なり其人ハ
 矜恤を得べければ也 八心の清き者ハ 福なり其人ハ 神を見こそを得べけれ
 ば也 九和平を求る者ハ 福なり其人ハ 神の子と稱らる可ればなり十義こ
 この爲に責らるる者ハ 福なり天國の即ち其人の者なれば也 十一我ために
 人なんぢらを詭譎また迫害いつはりて各様の惡言をいはん其時ハ 爾曹
 福なり十二喜び樂め天に於て爾曹の報賞もほければ也 十三爾曹より前の
 預言者も如此せめたりき○十三爾曹は地の鹽なり鹽もし其味を失はば何

を以て故の味に復さん後、用なし外に棄られて人に踐るゝ而已（廿）爾曹の世の光なり山の上に建られたる城の隠るゝことを得ず（廿五）燈を燃して斗の下におく者なし（廿六）燭臺に置いて家に在すべての物を照さん（廿六）此の如く人々の前に爾曹の光を耀かせ然れば人々なんぢらの善行を見て天に在す爾曹の父を榮むべし（廿七）われ律法を預言者を廢る爲に來れり意ふ勿われ來て之を廢るに非ず成就せん爲なり（廿八）われ誠に爾曹に告ん天地の盡さる中に律法の一（廿九）點一畫も遂つゝさすして廢るゝことなし（廿九）是故に人もし誠の至微き一を壞り又その如く人に教なげ天國に於て至微き者謂れん凡そ之を行ひ且人に教る者天國に於て大なる者謂るべし（三十）我なんぢらに告ん學者をパリサイの人の義よりも爾曹の義こそ勝すば必ず天國に入（三十一）古の人に告て殺（三十一）勿れ殺す者審判に干らんと言（三十一）有る爾曹が聞し所なり（三十二）然ぞ我なんぢらに告ん凡て故なくして其兄弟を怒る者は審判に干らん又その兄弟を愚者よといふ者の

集議に干らん又狂妄よといふ者地獄の火に干るべし（三十三）是の故に爾もし禮物を携へて壇に往たる時かしこにて兄弟に恨るゝことあるは憶起さば（三十四）その禮物を壇の前に留まづ往て爾の兄弟と和す後きたりて爾の禮物を獻ふ（三十五）爾を訴ふる者と偕に途間にあん時はやく和げよ恐く訴ふる者なんぢを審官に付し審官また爾を下吏に付し遂に爾獄に入られん（三十六）我まこと爾に告ん分釐までも償はざれば必ず其所を出るゝこと能ざる也（三十七）古の人に告て姦淫するゝことあるは爾曹が聞し所なり（三十八）然ぞ我なんぢらに告ん凡そ婦を見て色情を起す者の中、心すでに姦淫したる也（三十九）もし右の眼なんぢを罪に陥さば抉出して之を棄て蓋五體の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝより勝れり（四十）もし右の手なんぢを罪に陥さば之を断て棄て蓋五體の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝより勝れり（四十一）また曰るゝことあり凡そ人の妻を出さんせばこれに離縁状を與ふべし（四十二）然ぞ我爾曹に告ん姦淫の故ならで其妻を出

する者へ之に姦淫なましむるなり又出されたる婦を娶る者姦淫を行ふなり
 ○三三また古の人告げ偽の誓を立るこゝ勿なんち誓ふ所の必ず主
 に遂へしと言ふこと有る爾曹が聞し所なり三四然と我なんちらに告ん更に
 誓ふこと勿れ天を指て誓ふ勿れ是神の座位なれば也三五地を指て誓ふこと勿
 れ神の足登なれば也エルサレムを指て誓ふこと勿れ大王の京城なれば
 也三六爾の首を指て誓ふ勿そ一すちの髪だに白し黒すること能されば也
 三七爾曹たゞ是々否々こいへ此より過る悪より出るなり○三八目に
 て目を償ひ齒にて齒を償へと言ふこと有る爾曹が聞し所なり三九然と我な
 んちらに告ん惡に敵すること勿れ人なんちの右の頬を批ば亦は左の頬をも
 轉して之に向ふ下す爾を訟て裏衣を取んとする者には外服をも亦さらせよ
 四〇人なんちに一里の公役を強なば之を偕に二里ゆけ四一爾に求る者に
 手へ借入とする者を卻くる勿れ○四二爾の隣を愛みて其敵を感へしと
 言ふこと有る爾曹が聞し所なり四三然と我なんちらに告ん爾曹の敵を愛

四四 如此するの天に在す爾曹の父の子ならん爲なり夫天の父其日を善
 者にも悪者にも照し雨を義き者にも義からざる者にも降せ給へり四六爾
 曹もこれを愛する者を愛する何の報賞あらん税吏も然せざらん乎四七
 安否を兄弟にのみ問へ人より何の過たる事かあらん税吏も然せざらん
 乎四八是故に天に在す爾曹の父の完全が如く爾曹も完全すべし
 四九 天に在す爾曹の父より報賞を得じ二是故に施濟を行き人の榮を得ん爲
 に會堂や街衢にて偽善者の如く紙を已か前に吹しむる勿れ我まこと爾曹
 に告ん彼等既にその報賞を得たり三なんち施濟をするとき石の手の爲に
 さを左の手に知する勿れ四如此するの其施濟の隠れんが爲なり然り隠たる
 に隠たまふ爾の父の明顯に報たまふべし○五なんち祈る時に偽善者の如く
 方勿れ彼等の人に見られんが爲に會堂や街衢の隅に立て祈ることを好われ

誠に爾曹に告ん彼等ハ既にその報賞を得たり六なんぢ祈る時の嚴密なる室にいり戸を閉て隠微たるに在す爾の父に祈れ然らば隠微たるに隠たまふ爾の父ハ明顯に報たまふべし七爾曹祈る時の異邦人の如く重複語を言なかれ彼等ハ言もほきを以て聽れん意へり八是故に彼等に效こす勿れ爾曹の父ハ求ざる先に其需用物を知たまへば也九然らば爾曹が祈るべし天に在ます我儕の父ハ願くは爾名を尊崇させ給へ十爾國を臨らせ給へ爾旨の天に成こく地にも成せ給へ十一我儕の日用の糧を今日も與たまへ十二我儕に負債ある者を我儕がゆるす如く我儕の負債をも免し給へ十三我儕を試探に遇せず惡より逃出し給へ國と權と榮と弱りなく爾の有なればなりアメン十四爾曹もし人の罪を免さば天に在ます爾曹の父も亦なんぢらを免し給へ十五然らばもし人の罪を免さすは爾曹の父も爾曹の罪を免し給はざるべし十六なんぢら斷食するときは偽善者の如き憂容をする勿れ彼等は斷食を人に見ん爲に顔色を損ふ我まことに爾曹に告ん彼等ハ既に其報賞を得たり

十七なんぢ斷食する時の首に膏をぬり面を洗へ十八如此するハ爾の斷食人に見ずして隠微たるに在す爾の父に現れんが爲なり然らば隠微たるに鑿たまふ爾の父ハ明顯に報たまふべし十九盡くひ錆くさり盗うりちて竊む所の地に財を蓄ふるこす勿れ二十盡くひ錆くさり盗穿て竊ざる所の天に財を蓄ふべし二三蓋なんぢらの財の在るこも心に亦ある可れ也〇二三身の光ハ目なり若なんぢの目瞭かならば全身も亦明なるべし二三若なんぢの目眩らば全身暗かるべし是故に爾の中の光もし暗らば其暗こす如何に大ならず乎 四一人ハ二人の主に事るこす能す蓋これを惡かれを愛み是を親み彼を疎べければ也なんぢら神と財に兼事るこす能ハす五是故に我なんぢらに告ん生命の爲に何を食ひ何を飲また身體の爲に何を衣んぞ憂慮こす勿れ生命の糧より優り身體の衣より優れる者ならず乎 六なんぢら天空の鳥を見よ稼こすなく種こすを爲す倉に蓄ふるこすなし然るに爾曹の天の父ハ之を養ひ給へり爾曹之よりも大に勝る者ならず乎

二七 爾曹のうち誰か能くも煩ひて其生命を寸陰も延得んや二八 また何故に衣のこさを思わづらふや野の百合花の如何して長かき思へ勢す紡がざる也二九 われ爾曹に告んソロモンの榮華の極の時だにも其装束の花の一に及ざりき三十神の今日野に在て明日燼に投入らるる草をも如此よせば給へば況て爾曹をや嗚呼信仰うすべき者よ三一 然る何れを食ひ何を飲みに衣を以て思わすらふ勿れ三二 此みな異邦人の求る者なり爾曹の天の父は凡て此等のものよ必 需ことを知たまへり三三 爾曹まづ神の國と其義を求めよ然る此等のものよ皆なんぢらに加はるべし三四 故此に明日の事を憂慮なされ明日の明日の事を思わづらへ一日の苦勞の一日にて足り

二八 人を議すること勿れ恐くハ爾曹もまた議せられん 二九 爾曹が人を議する如く己も議せらるべし 爾曹が人を量ることく己も量らるべし 三〇 なんぢ兄弟の目にある物屑を視て己が目にある梁木を知らざるは何ぞや 四一 己の目に梁木のあるに如何で兄弟にむかひて爾が目にある物屑を我に取せよ

三〇 己の目を得んや 五 偽善者よ先ちのれ目の目より梁木をされ然る兄弟の目より物屑を取取るや 六 明かに見べし 木犬に聖物を與ふる勿また豕の前に爾曹の眞珠を投與る勿れ恐くハ足にて之を踐ふりかへりて爾曹を噬やぶらん 七 求よ然る與られ尋よ然るあひ門を叩よ然る開けらるることを得ん 八 蓋すべて求る者の之尋る者のあひ門を叩く者の開かる可ればなり 九 爾曹のうち誰か其子パンを求めんに石を予んや 十 また魚を求めんに蛇を予んや 十一 然る爾曹 惡き者なり 善賜を其子に與ふるを知まして天に在す爾曹の父の求る者に善物を予ざらん乎 十二 是故に凡て人に爲られんこと欲ことハ爾曹また人に其ことく爲よ是律法と預言者なる也 十三 窄き門より入りし沈淪に至る路の濶その門の大なり此より入りもの多し 十四 命に至る路の窄その門の小し其路を得もの少なり 十五 偽の預言者を謹めよ彼等の綿羊の姿にて爾曹に來れども内ハ殘 狼なり 十六 是其の果に由て知べし誰か荆棘より葡萄をこり蒺藜より無花果を採ことをせん 十七 凡て善樹ハ善果を結び惡樹

悪果を結び十八善樹の悪果を結ばず悪樹の善果を結ぶこと能ざる也
 十九凡そ善果を結ぶる樹の斫れて火に投入らる二十是故に其果に由て之を
 知べし○二一我を召て主よ主よ曰もの盡く天國に入に非ず唯これに入
 者の我天に在す父の旨に遵ぶ者のみなり二三其日われに語て主よ主よの
 名に託てをしへ主の名に託て鬼をひ主の名に託て多く異能を行じに非
 ずやと云もの多からん二三其時われらに告われ嘗て爾曹を知す悪をなす者
 一我を離去せよ曰ん二四是故に凡て我の言を聽て行ふ者を磐の上の家を
 建たる智人に譬ん二五雨ふり大水いで風ふきて其家を撞ごも倒ることな
 し是磐を基礎と爲たれば也二六凡て我の言を聽て行はざる者を沙の上に
 家を建たる愚なる人に譬ん二七雨ふり大水いで風ふきて其家を撞ご終に
 倒てその傾覆おほいなり二八イエス此等の言を語竟たまへるとき集りたる
 人々その教を駭きあへり二九そは學者の如ならず權威を有る者の如く教た
 まへる也

八章 イエス山を下しき多の人々これに従へり三癩病の者きたり拜
 して曰けるハ主もし旨に適さきハ我を潔なし得べし三イエス手を伸かれに
 接て我旨に適へり潔なれと曰ければ癩病たち潔れり四イエス彼に
 曰けるハ慎て人に告る勿れ唯ゆきて己を祭司に見せ且モ一セが命せし禮
 物を献て彼等に證據をせよ○五イエスカベナサンに入しき百夫の長さ
 たり願て曰けるハ主よ我僕癩癩をやみ家に臥めて甚だ憐れり七イエス
 曰けるハ我ゆきて之を醫すべし八百夫の長さたへけるハ主よ我なんぢを
 我が屋下に入奉るハ恐れ多し唯一言を出し給はと我僕ハ愈ん九蓋われ
 人の權威の下にある者なるに我下に亦兵卒ありて此に往と曰ばゆき彼に
 來れと曰ば來る我僕に此を行と曰ば即ち行が故なり十イエスこれ聞て
 奇み從へる人々に曰けるハ我まこと爾曹に告んイスラエルの中にだに未
 だ斯る篤信に遇さる也十一われ爾曹に告ん多の人々東より西より來て
 ナブラハムイサクヤコブと偕に天國に坐し十二國の諸子ハ外の幽暗に逐

出され其處にて哀哭切齒する。三十三有ん。三十三イエス百夫の長に往なんぢが信仰の如く爾に成べしと曰たまへる其時に僕ハ愈たり。○三十四イエス。ペテロの家に入その岳母の熱を煩ひ臥たるを見て。十五その手に押ければ即ち熱されり婦あきて彼等に事ふ。十六日暮たるとき人々鬼に憑れたる者を多く携へ來れば。イエス言にて鬼を逐出し病ある者を悉く醫せり。十七預言者イザヤに托て自ら我儕の恙を受われらの病を負と曰たまひしに應せんが爲なり。○十八諸イエス多の人々の己を環るを見て弟子に命じ向の岸に往んとし給しに。十九ある學者きたりて曰ける。師ハ何處へ行給ふとも我に従へん。二十イエス之に曰ける。狐の穴あり天空の鳥の巢あり然人の子の枕する所なし。二十一また弟子の一人いひける。主ハ先ゆきて父を葬ることを我に容せ。三十二イエス曰けるは我に従へ死たる者に其死し者を葬らせよ。○三十三イエス舟に登れば弟子等も之に従ふ。三十四此とき大なる颶風おこりて舟を激かりなる浪たらしに。イエスの寢たり。三五弟子等これに近きて醒し

曰ける。主を救たまへ我儕亡んすとす。三十二イエス彼等に曰ける。信仰うすき者ハ何ぞ懼るや途に起て風と海とを斥ければ大に平息になりぬ。三七人々奇みて曰ける。此ハ如何なる人ぞ風も海も之に従ひたり。○三八イエス向の岸なるガタマ人の地に至れるとき鬼に憑れたる二人のもの墓より出て彼を迎ふ。三十九甚しくして其途を人の過ること能はざりしほご也。三十九かれら呼叫て曰ける。神の子イエス。我儕なんぢ何の興あらん乎。いままた時いたらざるに我儕を責んさて此處に來るか。四十途はなれて豕の多のむれ食し居ければ。三十一鬼イエスに求て曰ける。若われらを逐出さんならん豕の群に入こを容せ。三十二彼等に往き曰ければ鬼いでり豕の群に入しに惣のむれ山坂より逸て海にいり水に死たり。三十三牧者も邑に逃走て此事を鬼に憑れたりし者の事を告げれば。三十四イエスに逢んさて邑の者擧て出きたり彼を見て此境を出んこを願へり。○三十五

人々昇來れりイエズ彼等が信するを見て癡瘋の者に曰けるハ子よ心安
 けれ爾の罪赦れたり三ある學者たち心の中に謂けるハ此人ハ褻瀆を言
 り四イエズその意を知て曰けるハ爾曹いかなれば心に惡を懷ふや五爾の罪
 赦されたりと言起て歩めと言執り易き六それ人の子地にて罪を赦すの
 權あることを爾曹に知せんさて遂に癡瘋の者に起て床をこり家に歸れと曰
 ければ七起て其家に歸りぬ八人々これを見て奇み此の如き權を人に賜し神
 を崇たり○九イエズ此より進往マタイと名くる人の税關に坐し居けるを
 見て我に従へと曰ければ起て從へり十イエズ彼が家に食するとき税吏罪
 ある人々ほく來りてイエズ及その弟子と偕に坐しければ十一パリサイの人
 これを見て其弟子に曰けるハ爾曹の師ハ何故税吏や罪ある人と偕に食
 する乎十二イエズ聞て彼等に曰けるハ康強なる者の醫者の助を需す唯病
 ある者これに需す十三われ拾恤を欲て祭祀を欲すといふ此ハ如何なる意往
 て學ぶべし夫わが來るハ義一人を招かむに非ず罪ある人を招きて悔改

させんが爲なり○十四其時ヨハ子の弟子イエズに來て曰けるハ我儕とパリ
 サイの人々ハ断食するに師の弟子の断食せざるハ何故ぞ十五イエズ
 彼等に曰けるハ新郎の友その新郎と偕に居うちハ哀むことを得んや將來
 新郎をひきとらるる日きたらん其時にハ断食すべき也十六新き布を以て
 舊き衣を補ふ者ハあらじ蓋つくる所のもの反て之を壞その縫ひ尤も甚だ
 しからん十七また新き酒を舊き革囊に盛る者ハあらじ若しかせば囊はり
 さけ酒もれいで其囊も亦壞らん新囊に新酒を盛なば兩な
 がら存べし○十八イエズ彼等に此事を言る時ある空きたり拜して曰けるハ
 わが女いま既に死りに來て彼に手を按たまへハ生べし十九イエズ起て彼に従ひ
 そのでし其弟子と偕に往二十二年血漏を患へる婦うしろに來て其衣の裾に捫れ
 り二蓋もし衣にだにも捫らば愈んぞ意へばなり三イエズふりかへり婦
 を見て曰けるハ女よ心安かれ爾の信仰なんぢを愈せり即ち婦この時より
 愈三イエズ幸の家に入しに笛ふく者あよび多の人の泣眺を見て二四

凡そ郷邑に至らば其の中の好人を訪て知るまで其處に留れ十二人の家に
 いらば其平安を問十三その家もし平安を得べき者ならば爾曹の願ふ平安は
 其家に至らん若し平安を受へらざる者ならば爾曹の願ふ平安は爾曹に歸
 るべし十四もし爾曹を接す爾曹の言を聽ざる者あらば其家また其邑を去
 るべき足の塵を拂へ十五われ誠に爾曹に告ん審判の日到り羊を狼の中に入る
 地は此邑よりも却て易からん十六われ爾曹を遣す羊を狼の中に
 入らし故に蛇の如く智く鶴の如く馴良かれ十七慎て人に戒心せよ蓋人な
 らんぢらを集議所に解し又その會堂にて鞭つべければ也十八又わが緣故に因
 て侯伯もよび王の前に出るべし是れらと異邦人に證をなさんか爲なり
十九人なんぢらに解さば如何なるを言んと思ひ煩らふ勿れ其言へべき事
 の爾曹に賜るべし二十是なんぢら自ら言に非ず爾曹の父の靈その裏に在て
 言なり二一兄弟の兄弟を死に付し父は子を付し子ハ兩親を訴へ且これ
 を殺さしむべし二二又なんぢら我名の爲に凡の人に惚れん然と終まで忍ぶ

者ハ救へるべし二三この邑にて人なんぢらに責なば他の邑に逃れよ我ま
 ことに爾曹に告ん爾曹イスラエルの諸邑を廻遊さる間に人の子ハ來るべし
二四弟子ハ師より優らす僕は主より優らざる也二五弟子ハ其師の如く僕ハ
 其主の如ならん足らば若し人主を呼てヘルゼブルと云べ況て其家の者
 をや二六是故に彼等を懼るること勿そは掩れて露れざる者なく隠て知れざ
 る者なければ也二七われ幽暗に於て爾曹に告しことを光明に述よ耳をつけ
 て聽しことを屋上に宣播めよ二八身を殺して魂を殺すこと能はざる者を
 懼るよ勿れ唯なんぢら魂と身を地獄に滅し得る者を懼れよ二九二羽の
 雀ハ一錢にて售に非ずや然るに爾曹の父の許なくば其一羽も地に墮るること
 有じ三十爾曹の頭の髪また皆かぞへらる三一故に懼るよ勿れ爾曹ハ多の雀
 よりも優れり三二然らば凡そ人の前に我を識し言ん者も亦天に在す我父
 の前に之を識し言ん三三人の前に我を識し言ん者も亦天に在す我父
 の前に之を識し言ん三四地に泰平を出ん爲に我來れりと思なかれ泰

平を出さんごに非ず刃を出さん爲に來れり三五夫わが來る人其父に背
 かせ女を其母に背かせ媳を其姑に背かせんが爲なり三六人の敵其家の
 者なるべし三七我よりも父母を愛む者我に協ざる者なり我よりも子
 女を愛む者我に協ざる者なり三八その十字架を任て我に従はざる者も
 我に協ざる者なり三九その生命を得る者之を失ひ我ために生命を失ふ者
 之を得べし四十爾曹を接る者の我を接る也また我を接る者の我を遣し
 者を接るなり四一預言者なるを以その預言者を接る者の預言者の報賞をう
 け義人なるを以その義人を接る者の義人の報賞を受四二わが弟子な
 るなもて小き一人の者に冷なる水一杯にても飲する者の誠に爾曹に告ん
 必て其報賞を失はじ

四三イエス彼等に答て曰けるハ爾曹を聞きこる見こころの事をヨハネに律で
 告ふ五賢者のハ跛者ハあやみ癩病人ハ潔まり醜者ハ死たる者ハ復活
 され貧者ハ福音を聞せらる凡そ我ために曠かざる者の福なり○七
 彼等の歸れる後イエスヨハネの事を人々に曰けるハ爾曹何を見んさて野に
 出しや風に動さるも葦なる乎八然ハ爾曹何を見んさて出しや美服を
 着たる人なるが美服を着たる者のハ王宮に在九然ハ何を見んさて出
 じや預言者なるが然われ爾曹に告ん彼ハ預言者よりも卓越たる者なり十夫
 ち是なり十一誠に爾曹に告ん婦の生たる者の中またバプテスマのヨハネ
 より大なる者起らざりき然ハ天國の最小き者も彼よりの大なる也十二
 バプテスマのヨハネの時より今に至るまで人々勵て天國を取んとす勵た
 る者之を取り十三それ凡の預言者ハ律法の預言したるハヨハネの時まで
 なれり也十四若らんち我言を承ることを好まハ來べきユリヤハ是なり

馬太傳第十一章
 自四至十四節
 廿九

十五 耳ありて聽ゆる者ハ聽べし 十六 我この世を何に譬んや童子街に坐し
 其侶を呼て 十七 われら笛ふけども爾曹をこらす 哀をすれども爾曹胸うた
 十八 蓋ヨハ子來て食ふこと飲ことを爲されバ鬼に憑れたる
 者なりと人々言り十九 人の子きたりて食ふことをし飲ことを爲れバ又食
 を嗜み酒を好む人 税吏罪ある者の友也といふ然ども智慧は智慧の子に
 義を爲らるる也 二十 厥時イエス多の異能を行たまひたる諸邑の悔改
 めざるに由て 責いひけるハ 二十一 わる禍なる哉 ユラシム 噫禍なる哉
 二十二 サイダヨ爾曹の中に行し異能を若ツロとシドンに行しならバ彼等
 ハ早く麻をき灰を蒙りて悔改しなるべし 二十三 われ爾曹に告ん審判の日に
 ハツロとシドンの刑罰ハ爾曹よりも却て易からん 二十四 既に天にまで擧られ
 しカペサリム又陰府に落さるべし 蓋なんちに行し異能を若シドムに行
 しならバ今日までも尙保存しならん 二十五 我なんちらに告ん審判の日にソド
 ムの地の爾よりも却て易なるべし 二十六 其ときイエス答て曰けるハ 天地

の主なる父よ此事を 智者達者に隠して赤子に顯したまふを謝す 二六
 父よ然それ此の如ハ聖旨に適るなり 二七 父ハ我に萬物を予たまへり父の外
 に子を識もの無また子あふび子の顯す所の者の外に父を識者なし 二八 凡
 て勞たる者また重を負る者の我に來れ我なんちらを息ません 二九 我ハ心
 柔和にして謙遜者なれば我軛を賣て我に學なんちら心に平安を獲べし
 三十 蓋わが軛ハ易わが荷ハ輕ければ也
 當時イエス安息日に夢の畑を過しが其弟子たち飢て穂を摘食
 はじめたりニパリサイの人これを見てイエスに曰けるハ 爾の弟子ハ安息日
 に爲まじき事を行リ三之に答けるハ 大ビテあふび從に在し者の饑しき事行
 じ事を未だ讀ざる乎 四 即ち神の殿に入て祭司の他ハ已あふび從に在る者も
 食ふまじき供のパンを食へり五 また安息日に祭司は殿の内にて安息日を犯
 せども罪なき事を律法に於て讀ざる乎 六 われ爾曹に告ん殿より大なるもの
 茲に在らわれ矜恤を欲て祭祀を欲すとの如何なることか之を知ら罪なき者

を罪せざるべし。八、その人の子の安息日の主たるなり。九、此を去て彼等の會堂に入しに十一、手なれたる人ありければ、彼等イエスを訴へんとして之に問ひ、
 汝の安息日に醫すことを行へし乎。十二、彼等曰く、汝等曰く、安息日の中に一の羊を有する者あらんに、若その羊、安息日に坑に陥らば、之を擧上ざる乎。十三、人ハ羊より優ることを幾、何ぞや。然る安息日に善を行ひ、宜しき途にその人に爾が手を伸べしと曰ければ、伸べり即ち他の手の如く愈。十四、パリサイの人いて、
 人を殺さん謀れり。十五、イエス之を知りて此を去しに、多の人々これに従ふ。凡て疾病ある者みな愈し。十六、我を人に露すこと勿れと戒たり。十七、
 預言者イザヤの云し言に、十八、視よ我が選し我僕すなり。我心に適たる我が愛む者われに我靈を賦し、彼異邦人に審判を示すべし。十九、彼の競ひなき暗しきなし。人街に於て其聲を聞き、二十、審判をして勝たせしむるまで、傷る聲を折らざる。煙れる麻を憐れ、三十一、異邦人も亦その名に頼べし。有に應せん爲なり。〇三十二、爰に鬼に憑たる聲の瘖なる者を

イエスの所に携來りければ、此聲の瘖を醫して言ひ見るやうに爲り。三十三、衆人みな奇みて曰ける、此のダビデの裔には非ざる乎。十四、パリサイの人きて、
 て曰ける、此人の鬼の王、ベルゼブルを役ふに非ざれば、鬼を逐出することなし。十五、イエスその心を知りて彼等に曰ける、凡て相争ふ國ハ亡び、凡て相争ふ邑や家の立つがらす。十六、サタン若サタンを逐出せば、自ら相争ふなり。然る其國いかに立んや。十七、若われベルゼブルに由て惡鬼を逐出せば、爾曹の子弟の誰に由て之を逐出すや。夫がれらの爾曹の裁判人さなるべし。十八、若われ神の靈に由て鬼を逐出し、ならん神の國ハもや。爾曹に坐れり。十九、また勇士をまつ縛らざれば、如何て其家に入その家具を奪ふことを得んや。縛て後に其家を奪ふべし。二十、我を偕ならざる者の我に背き、我を偕に飲ざる者の散すなり。三十一、是故に爾曹に告ん、人々の凡て犯す所の罪を濟し、この赦せん。然し人々の聖靈を濟し、この赦るべからず。三十二、言を以て人の子に背く者、救るべし。然し言をもて聖靈に背く者の、今世に於ても亦來世に於ても救るべし。

へからす三或は樹をも善とし其果をも善とせよ或は樹をも悪とし其果をも悪とせよ夫樹は其果に由て知るなり三四あく腹の荷ふ爾曹惡にして何て善を言ふを得んや夫心に充るより口に言ふ者なれば也三五善人は心の善庫より善ものを出し悪人のその惡庫より惡ものを出せり三六われ爾曹に告ん凡て人のいふ所の虚言は審判の日に之を訴へざるを得じ三七それ爾その曰さころの言に由て裁せられ又其いふ言に由て罪ありとせらるる也〇三八此時ある學者とパリサイの人答て曰けるは師よ休徴をなして我儕に見せんことを爾に請ふ三九答て彼等に曰けるは奸惡なる世ハ休徴を求されし預言者ヨナの休徴の外ハ之に休徴を興られじ四十夫ヨナが三日三夜魚の腹の中に在し如く人の子も三日三夜地の中に在べし四一二手への人審判の日に共に起て今の世の罪を定めん彼等ハヨナの誨に由て悔改たり夫ヨナより大なる者こそ在り四二南の女王とバビロンの日に共に起て今の世の罪を定めん彼の地の極よりソロモンの智慧を聽んきて來れり夫

ロモンより大なるもの此にあり四三惡鬼人より出て早なる地を巡り安息を求めども得ずして曰けるハ四四我が出し家に歸らん既に來しに空虚にして掃淨り飾れるを見四五遂に往て己よりも惡き七の惡鬼を携へ偕に入て此に居るその人の後の患狀の前よりも更に惡かるべし此あしき世もまた此の如ならん四六イエス人々に語る時その母と兄弟かれに言へん外に立ければ四七或人イエスに曰けるハ爾の母と兄弟なんぢに言へんとして外に立り四八イエス告し者に答て曰けるハ我母ハ誰ぞ我兄弟ハ誰ぞや四九手を伸その弟子を指て曰けるハ是わが母わが兄弟なり五十蓋すべて我が天に在す父の旨を行ふ者は是わが兄弟わが姉妹わが母なれば也

當日イエス家を出て海邊に坐せしに二多の人々彼に集り來ければイエスハ舟に登て坐し凡の人々ハ岸に立り三イエス譬を以て多端の言を入々に語り種まく者播に出しが四播るとき路の旁に遺し種あり空中の鳥きたりて啄み盡せり五また土すき磯地に遺し種あり直に萌出たれど

日の出さき灼れしかば根なきが故に稿たりままた棘の中に遺し種あり
 棘そだちて之を蔽けり八また沃壤に遺し種あり實を結ゆるは或は百倍
 あるひは六十倍あるひは三十倍せり九耳ありて聽ゆる者ハ聽へし十弟子等
 きたりて彼に曰けるハ何故に譬をもて彼等に語り給ふや 十 答て曰けるハ
 爾曹ハ天國の奧義を知んことを予たまへば彼等ハ予ハ給されば也 十二そ
 れ有る者の予られては餘あり無有者ハその有る者をも奪る也 十三彼等
 ハ視ても見ず聽ても聽ず悟ざるが故に我譬を以て彼等に語れり 十四 イザヤ
 の預言に爾曹ハ聽とも悟らば視とも見ず 十五 蓋この民目にて見耳にてき
 心にて悟り改めて我に醫されんことを恐るの心を頑て耳を蔽ひ目を閉たり
 云んは應へり 十六 然る爾曹の目ハ見爾曹の耳ハ聞が故に福なり 十七 惟
 れ誠ニ爾曹に告ぐ多の預言者ハ義人ハ爾曹が見ざるを見んたり 十八
 故に爾曹播種の譬を聽十九 天國の教を聞て悟らされば惡鬼きたりて

そのころまか 其心に播れたる種を奪ふ是路の旁に播たる種なり 二十 礮地に播れたる種
 是教を聽て速かに喜び受れども 二二 日に根なけれは暫時のみ教の爲に
 患難あるひは迫らるる事の起る時ハ忽ち道に礙る者なり 二三 また棘の中に
 播れたる種ハ是教を聽とも此世の思慮を貨財の惑に教を蔽れて實らざ
 る者なり 二四 沃壤に播れたる種ハ是教を聽て悟り實を結ぶ或ハ百倍ある
 ひハ六十倍あるひハ三十倍する者なり 二五 また譬を彼等ニ示して曰ける
 ハ天國ハ人畑に美種を撒に似たり 二六 人々の寢たる間に其敵きたり麥の
 中に稗子を播て去り 二七 苗はえ出て實たるとき稗子も現れたり 二七 主人
 の僕きたりて曰けるハ主よ畑に美種を播ざりしか如何して稗子ある乎
 二八 僕に曰けるハ敵人これを行け僕主人に曰けるハ然らば我儕ゆきて之を
 拔あつむるハ宜か 二九 否あそらくハ爾曹稗子を拔あつめんとて麥をも共
 に拔へし 三十 收穫まで二ながら長敷け我かりけれの時まづ稗子を拔あつめ
 て焚ん爲に之を束ね麥を我が倉に收め 三十一 知者に言ん 三十二 また譬を彼等

に示し曰けるハ天國ハ芥種の如し人これを取て畑に播ぐ三萬の種より
 小ければも長てハ他の草より大にして天空の鳥きたり其枝に宿ほこの樹
 なる也○三三また譬を彼等に語けるハ天國ハ麩酵の如し婦これをこり三
 斗の粉の中に藏せば悉く脹發すなり三四イエス譬をもて凡て此等の
 事を衆人に語たまへり譬にあらざれば語り給はず三五これ預言者に託て
 我譬を設て口を啓き世の始より隠たる事を言出さん云れたるに應せん
 爲あり○三六遂にイエス衆人を歸して家に入り其弟子きたりて曰けるハ
 畑の稗子の譬を我儕に解たまへ三七之に答て曰けるハ美種を播者ハ人の
 子なり三八畑ハこの世界なり美種ハ是天國の諸子なり稗子ハ惡魔の子類ナ
 リ三九之をまく敵ハ惡魔なり收護ハ世の末なり刈者ハ天の使等なり四十
 稗子の斂て火に焚る如く此世の末に於ても此の如くなるべし四一人の子
 その使者たちを遣して其國の中より凡て醒醒なる者また惡をなす人を斂
 て四二之を爐の火に投入べし其處にて哀哭切齒すること有ん四三此とき

義人ハ其父の國に於て日の如く輝かん耳ありて聽ゆる者ハ聽べし○四四
 また天國の畑に藏たる寶の如し人みいださば之を秘し喜び歸り其所有を
 盡く賣てその畑を買なり○四五また天國ハ好眞珠を求んとする商人の如
 し四六一の値たけき眞珠を見出さばその所有を盡く賣て之を買なり○
 四七また天國の海に投て各様の魚をざる網の如し四八既に盈れば岸に曳あ
 げ坐てその嘉ものを器にいれ惡ものを棄るなり四九世の末に於ても此の如
 ならん天の使等いで義者の中より惡者を取わけ五十之を爐の火に
 投入べし其處にて哀哭切齒すること有ん○五一イエス彼等に曰けるハ此事
 をみな悟しや彼に曰けるハ主よ然五二イエス彼等に曰けるハ然ハ天國につ
 いて教られたる學者ハ新しき物と舊き物とを其庫より出す家の主の如し○
 五三イエスこの譬を言畢て此を去ぬ五四その故土にいたり會堂にて教
 しに人々奇み曰けるハ此人の智慧と異なる能ハ何處より來るや五五これ
 木匠の子にあらずや其母ハヤコブヨセシモンユダに

非ずや五六その妹等のみな我儕に在に非ずや然るに此人の凡て此等の事は何處より來しや五七遂に厭て之を棄イエス彼等に曰ける預言者の其故土その家の外に於て辱まれざることをなし五八彼等が信することをなすに由て多の異なる能を此に行給はざりし

第五十四節

其ころ分封の君ヘロデアイエスの聲を聞て二その僕に曰けるは是バプテスマのヨハ子なり彼死より甦りたり故に異なる能を行ふなり三前にヘロデアその兄弟ピロポの妻ヘロデアの事に由てヨハ子を捕へ縛て獄に入たり四此のヨハ子ヘロデアに此婦を娶るの宜しからずと云し五因に彼ヨハ子を殺さん欲と民これを預言者とするにより彼等を懼たりしが六ヘロデア誕生の日を祝ふる時ヘロデアの女その座上にて舞をなしヘロデアを悦せければ何なる物にても求に往て予んこヘロデアに誓たり八女その母の勸めりしに因バプテスマのヨハ子の首を盆に載て此に賜れと曰九王妻ければ既に警たるを席に列れる者の爲に予ることを命じ十即ち人を遣

獄に於てヨハ子の首を斬せ十一その首を盆に載て女に予ければ女の之をその母に捧たり十二ヨハ子の弟子等きたりて屍を取これを葬り往てイエスに告十三イエスこれを聞て人をさけ舟に登て其處を去さびしき處に往給ひしが衆人ききて歩行にて彼に従へり十四イエス出て多の人を見て之を憫み其病る者を醫せり十五日くる時その弟子きたりて曰けるハ此の寂寞のころにして時もはや遅し諸邑に往て自ら食を求させん爲に人々を去しめ十三イエス彼等に曰けるハ人々往すとも可ならん自ら之に食を予よ十七答けるハ我儕此にたゞ五のパンと二の魚あるのみ十八イエス曰けるハ其を此に携來れ十九遂に衆人に命じて草の上に坐しめ五のパンと二の魚をとり天を仰て謝しパンを擘て弟子にあたる弟子これを衆人に予ぬ二十みな食で飽その餘たる屑を拾して十二の筐に盈たり二食し者ハ婦と幼童の外二十三衆人五千人なりき二十四三頓てイエス衆人を歸さんとして其弟子を強て舟にのせ向の岸へ先に渡しむ二十三斯て衆人を歸しければ祈禱せんとして密に

山に上り日くれて獨るに在せり 二四 舟は海中に在て 逆風の爲に浪に漂
 つらる 二五 夜の四時ごろイエス海の上を歩いて之に至しに 二六 弟子その海の
 上を歩るを見て驚き此の變化の物ならんと言て 懼れ叫たり 二七 イエス頓て
 彼等に曰けるハ心安かれ我なり懼る勿れ 二八 ペテロ 答て曰けるハ主よ
 若し爾をば我に命じ水を履て爾の所に至しめ 二九 來き日給ひければペ
 テロ舟より下てイエスの所に至んきて浪の上を歩たれ 三〇 風の烈きを見
 て懼れ沈みりければ主よ我を救たまへ 三二 イエス頓て手を伸これな
 執て曰けるハ信仰うすき者何ぞ疑ふや 三三 船に舟に登ければ風しづまり
 舟 三三 舟に居し者よりて彼を拜し曰けるハ誠に爾ハ神の子なり 三四
 遂に渡てゲマサレの地に到しかば 三五 其處の人々イエスを識て遍く四方
 に人を遣し凡て病の者を携へ來らしむ 三六 只その衣の裾に捫らんことをイ
 エスに願へり 捫し者ハ則ちみな愈されたり
 時にエルサレムの學者さパリサイの人イエスに來て曰けるハ二

爾の弟子古の人の遺傳を犯ハ何故ぞ 蓋食する時に其手を洗ざれば也 三
 答て彼等に曰けるハ爾曹ハ亦なんぢらの遺傳によりて神の誠を犯ハ何故
 ぞ 四 それ神いまして爾の父母を敬へ又父母を罵る者ハ殺さるべしと宣
 給へり 然らば爾曹ハ曰て凡て人父母に對なんぢを養ふ可ものハ 禮物
 なりと言ば 其の父母を敬はずとも可き 斯て爾曹遺傳により神の誠
 を廢くせり 七 偽善者よ イザヤハ能なんぢらに就て預言し 八 此民の口にて我
 に近き唇にて我を敬へども 其心ハ我に遠かり 九 人の誠を教さなして
 徒らに我を拜すと言リ 一〇 イエス人々を召て彼等に曰けるハ 聽て悟れ 一一 日
 に入ものハ人を汚さす口より出るものハ 是人を汚すなり 一二 弟子きたりて
 イエスに曰けるハ パリサイの人この言を聞て 厭棄るを 爾知か 十三 答て
 曰けるハ 我が天の父の植さる者ハ みな拔るべし 十四 彼等を棄るは 醫者の相
 する醫者なり 若めしひのもの 醫者の相せば 二人とも 溝に落べし 十五 ペテロ
 イエスに答て曰けるハ 此譬を我儕に解たまへ 十六 イエス曰けるハ 爾曹も

未だ悟ざる乎十七 凡て口に入ものハ腹を運て厠に落るを未だ知ざる者ハ人
 自より出るものハ心より出たれ人を汚すもの也十九 蓋心より出る所の惡
 念凶 殺姦淫 苟合 盜竊 妄證 謗讟 此等ハ人を汚ものなり
 然も手を洗して食ふハ人を汚さずニイエス此を去てツロビシドンの
 地に往けるはニニ其地に往るガチンの婦いで呼はり曰けるハ主よ外に
 の裔ハ我を憫み給へ我をすめ鬼に憑れて甚く苦めりニニイエス一言も彼に
 答りしは其弟子きたり請て曰けるハ我儕の後より呼はるハ故に彼を去
 せ給へニニ答て曰けるハイエスエルの家の迷へる羊の外に我ハ遣されず
 ニニ婦きたり拜して曰けるハ主よ我を助たまへニニ答けるハ兒女のパンを
 取て犬に投與ふるハ宜からずニニ婦いひけるハ主よ然されど犬もその主人
 の膳より落る屑を食なりニニ遂にイエス答て曰けるハ婦よ爾の信仰ハ大
 なり爾の如く爾に成べし此時より其女いえたたり○二九 イエス此を去ガ
 手ヤの海邊にゆキ山に登りて坐せり三十 多の人ハ跛者 瞽者 瘋者 殘缺者

おふび各様の疾病ある者を伴ひきたりイエスの足下に置ければ即ち之を醫
 しのニニ是に於て瘡者ハものいひ殘疾ハいえ跛者ハあゆみ瞽者ハ見たるを
 頭を見て奇みイヌラエルの神を榮たけ○三三 イエスその弟子を呼て曰ける
 ハ我この衆人を憫む彼等われさ儕に居居三日にして食ふものなし飢させ
 て去しむることを欲す 恐る途間にて憫入ニニ其弟子かれに曰けるハ野
 地に坐せしめ三六七のパンを魚を取て謝し之を撃て其弟子に手しかば弟子
 食るもの婦ハ孩子の外に四千人ありき三九 イエス人々を去しめ舟に登てマ
 ガダラの境に至れり

我儕に見せよと曰ければニ彼等に答けるハ爾曹暮に夕紅に由て暗

らんと言三晨に朝紅また曇に由て今日雨たらんといふ偽善者よ空の景色を別ことを知て時の休徴を別ち能はざる乎 四 姦悪なる世の休徴を求るも預言者ヨナの休徴のほか休徴を予られし途に彼等を離れて去ぬ 〇五 その弟子むかふの岸に到しにパンを携ふることを忘たり 六 イエス彼等に曰ける戒心してパリサイとサドカイの人の麪酵を慎めよ 七 弟子たがひに論じて曰けるは是パンを携へざりし故ならん 八 イエスこれを知て曰けるは信仰する者よ何ぞ互にパンを携へざりしことを論する乎 十 未だ悟らざるか 五千人に五のパンを予しき幾監ひるひし乎 十一 また四千人に七のパンを予しき幾監ひるひしや 爾曹これを記さるか 十二 パリサイとサドカイの人の麪酵を慎めよ 十三 パンにつきて言るに非るを何ぞ悟らざる 十四 是に於て弟子その麪酵にのちりてパリサイとサドカイの人の教を謹めよ 十五 言るあるを悟れり 〇十六 イエスカイザリヤビロビの方に到しき其弟子に問て曰けるは人々の子に誰を言や 十四 彼等いひけるは或人のバプテスマのヨハ子或人の

エリサ或人のエリミヤまた預言者の一人なりと言り 十五 彼等に曰けるは爾曹の我を言て誰とする乎 十六 シモンペテロ答けるは爾はキリスト活神の子なり 十七 イエス答て彼に曰けるはヨナの子シモン 爾は福なり蓋血肉なんちに示せるに非ず 天に在す吾父なり 十八 我また爾に告ん 爾はペテロなり 我が教會をこの磐の上に建べし 陰府の門の之に勝べからず 十九 又われ天國の鑰を爾に予ん 爾が地に於て繫きしもの天に於ても繫なんちが地に於て釋きしもの天に於ても釋べし 二十 遂に其弟子を戒めけるは我をキリストと人に告るること勿れ 〇二十一 此時よりイエスその弟子に己のエルサレムに往て長老祭司の長學者等より多の苦みを受けつ 殺され 第三日に甦る等なすべし 事を示し始む 二十二 ペテロイエスを援ぎめて主よ宜らず 此事なんちに來るまじきと曰ければ 二十三 イエス反顧てペテロに曰たまひけるはサタンよ我後に退け 爾は我に礙く者なり 夫なんちの神の事を思はず 人の事を思へり 二十四 此時 イエスその弟子に曰けるは若われに従はんき 欲ふ者ハ己を棄その十

學架を賣て我に從へ二五その生命を保全せんとする者へ之を失ひ我ために
 其生命を失ふ者へ之を得べければ也二六もし人全世界を得ても其生命を
 失へば何の益あらん乎また人なを以て其生命に易んや二七それ人の子ハ
 父の榮光を以てその使等と偕に來らん其時ものくの行に由て報ゆ
 べし二八誠に爾曹に告ん人の子その國を以て來るを見までハ此に立もの
 中に死ざる者あるべし

第二十一節 六日の後イエスペテロヤコブその兄弟ヨハ子を伴ひ人を選て高
 山に登り給しが二彼等の前にて其容貌がハリ其面目の如く輝き其衣ハ白
 光れり三モリスセロヤ現れてイエスと偕に語ぬ四ペテロ答てイエスに
 白じりの主我儕に居り善し尊貴に適う我儕に三の廬を建てたま
 へ二の主のため一ハモリスの爲にせん五如此いへる時
 雲がける雲われちを蔽ふ聲雲より出て言けるハ此ハ我旨に適ふわが愛子な
 り爾曹これに聽べじ六弟子これを聞て大におそれ倒れ伏たり七イエス來り

て彼等に手を按おき懼るる勿れと曰ければ八其目を擧しに惟イエスのほ
 かに一人をも見ざりき九山を下る時にイエス彼等に命じて人の子の死より
 甦るまでの爾曹の見し事人告へがらす言り十其弟子さぶて曰ける
 ハ然ハモリスハ先に來へしと學者の云るの何ぞや十一イエス答て曰ける
 ハ實にエリスの來て萬事を改むべし十二然と我なんちちに告んエリヤハ既
 に來しに人これを知らざる意の任に彼を待へり此の如く人の子もまた彼等
 より苦難を受へし十三是に於て弟子バテネスのヨハ子を指て曰たまへる
 悟れり十四彼等おほくの人の居る所に來しに或人イエスの所にきた
 り跪き十五曰けるハ主我子を憫みたまへ癩癩にて屢々火に倒れ水に倒れ
 甚だ苦めり十六之を爾の弟子に携往たれと醫すことを得ざりき十七イエ
 ス答て曰けるハ臆ぢなき曲れる世ある哉われ何時まで爾曹と偕に居んや我
 くのまで爾曹を怒んや彼を我もこに携來れ十八遂にイエス鬼を斥め給へば
 鬼いでて其子の時より愈たり十九其こき弟子ハそのヨハ子に來り曰け

爾ハ我儕ニこれを逐出すコト能ハざリシハ何故ぞ三十一エヌ彼等に曰けるハ
 爾曹信なき故なり我まコトに爾曹に告んもし芥種の如き信あらば此山に
 此處より彼處に移れ命も必ず移らん又あんぢらに能ざるコト無るべし
 二二 然レ此類ハ祈禱ニ斷食ニ非ざれば出ることなし〇二三 カリヤヤを周流
 せしエヌ彼等に曰けるハ人の子人の手に解され二三 かつ殺されて第三日
 に甦るべし弟子これを聞て甚だ哀めり〇三四 彼等カペナワンに來れるとき
 納金を集る者もペテロに來て曰けるハ爾曹の師ハ納金を出さざる乎
 二五 然らず曰てペテロ家に入しときエヌまづ彼に曰けるハシモン爾ハ如
 何もふや世界の王たちの稅あふび貢を誰より徵か己の子よりか他の者よ
 二六 ペテロ彼に曰けるハ他の人より徵せりイエヌ彼に曰けるハ然らず
 二七 然レ彼等を礙かせざる爲に爾海に往て釣を垂ふ初に
 つる魚を取てその目を啓け金一を得べし其を取て我ま爾の爲め彼等に納

第十八章

其とき弟子イエヌに來て曰けるハ天國に於て大なる者ハ誰ぞや
 二三 エヌ嬰兒を召われちの中立て三曰けるハ我まコトに爾曹に告んもし
 改まりて嬰兒の若くあらざれば天國に入ることを得じ四 然レ凡そこの嬰兒の若
 く自ら謙る者ハこれ天國に於て大なる者なり五 又わが名の爲に此の如き
 一人の嬰兒を接る者ハ我を接るなり六 然レ我を信する此小子の一人を
 礙かす者ハ磨石をその頭に懸られて海の深に洗られん方ハ益あるべし
 七 此世ハ禍ある哉その礙かする事をすればなり礙く事ハ必ず來らん然レ
 礙かす來らす者ハ禍ある哉八 若し爾の手あんぢの足を礙かさば斷て
 之を棄ふ兩手兩足ありて煮ざる火に投入られんよりの跛またハ殘缺に
 て生に入ハ善あり九 もし爾の眼ものれを礙かさば拔出して之を棄ふ兩眼あ
 りて地獄の火に投入られんよりの一眼にて生に入ハ善あり〇十 爾曹この小
 子の一人をも憐みて輕視せられ我あんぢらに告ん彼等ハ天の使者ハ天にあ
 りて天に在す吾父の面を常に觀るあり十一 され人の子ハ亡たる者を救はん

爲に來れり。十三爾曹に意ふや。人とし百匹の羊あらんに其一匹まゝの
 九十九を山に置ゆきて迷し一を尋る乎。十三若たづねて之に遇はば我ま
 かに爾曹に告ん迷する九十九の者より尚その一を喜ん十四是の如くこの
 小子の一人の亡るゝ天に在す爾曹が父の尊旨に非ず。十五もし兄弟あ
 ぢに罪を犯しその獨ある時に往て諒ふも爾の言を聽ばその兄弟を復へ
 し十六もし聽すゝ爾三人の口に由て證をなし凡の言を定んが爲に一人
 二人を伴ひ往す七もし彼等にも聽すゝ教會に告ふも教會に聽すゝ之を
 異邦人が稅吏のこゝろ者とすべし十八我まこゝに爾曹に告ん凡そ爾曹が
 地に於て繫ぎたる天に於てもつなき爾曹の地に於て釋ぎたる天に於ても釋べし
 十九我また爾曹に告んもし爾曹のふも二人のもの地に於て心を合せ何事に
 ても求め天に在す吾父の彼等の爲に之を成たまふべし二十蓋わが名の爲に
 二三人の集れる處にへ我も其中に在らざり。二十一厥時テテロイエスに來り
 て曰く。へ主よ幾度まで我兄弟の我に罪を犯すか。七次まで乎。二三

イエス彼に曰ける。爾に七次までと言ひ七次を七十倍せ。二三是故に天國の
 王の臣を會計を調んとするが如く。二十四調之始しき于萬金の負債し
 たる者を王に曳來りしに二十五償ひ方なきはけり之に命じて其身その妻孥
 とあらゆる所有をみな賣りて償ふと曰り二十六その臣俯伏て拜し曰ける。請
 われを寛し給へ。皆償ふべし。二十七是に於てその臣の主憐みて之を釋そ
 の負債を免したり。二十八其臣いでて曰り銀一百の負債したる友に過
 ければ之を執へ喉を切り負債を返せ。二十九その友足下に俯伏て求ひひけ
 る。我を寛し給へ。皆償ふべし。三十然るに之を肯らずして往その負債を償
 ふまで彼を獄に入ぬ。三十一外の友その爲る事を見て甚だ哀み往て此事を皆
 その主に告し。三十二主がねを召て曰ける。惡き臣よ爾われに求しにいで
 我その負債を悉く免したり。三十三我まんちを憐みし如く爾も亦友を憐むべ
 きに非ずや。三十四その主いかりて負債をみる償ふまで彼を獄に付せり。
 三十五若ものく其心より兄弟を赦すべ我が天の父も亦あんちらに此の如く

行給ふべし

三十三節 答て彼等に曰けるハ元始に人を造り給ひし者ハ之を男女に造
 出する宜し 然るに人父母を離れて其妻に合二人のもの一體を爲ありと云るを未
 だ讀ざるハ 然るに二に非ず一體あり神の合せ給へる者ハ人これに離
 すべからず 然るに二に非ず一體あり神の合せ給へる者ハ人これに離
 せし何ぞや 彼等に曰けるハ モーセハ爾曹の心の不情に因て妻を出すと
 を容したる也されど元始に如此あらざりき 我なんぢらに告んじ 姦淫の
 故ならで其妻を出し他の婦を娶る者ハ姦淫を行ふなり 又いだされたる婦を
 娶る者ハ姦淫を行ふなり 弟子等イエスに曰けるハ 若し大妻に於て此の如
 くば娶らざるに若す 彼等に曰けるハ 此言ハ人みを受納ること能はず 唯

賦られたる者のみ之を爲すべし 然るに母の腹より生來たる寺人あり 又人
 にせられたる寺人あり 又天國の爲に自らされる寺人あり 之を受納ること能
 得ものを受納べし 十三 其とき人々イエスの手を按て祈らんことを求ひ 嬰
 兒を彼に携來りければ 弟子等 是を阻たり 十四 イエス曰けるハ 嬰兒を容せ 我に
 來ること禁しむる勿れ 天國に在る者ハ此の如き者あり 十五 即ち彼等に手
 を按て此を去め 十六 或入きたりて彼に曰けるハ 善師よ 我がざりき生を
 得んが爲に 何の善事を行へきか 十七 彼に曰けるハ 何故われを善と稱や 一
 人の外に善者ハ多し 即ち神あり 若し生命に入んことを欲ハ 誠を守るべし 十八
 彼に曰けるハ 何 イエス曰けるハ 殺す勿れ 姦淫する勿れ 盜む勿れ 妄りの
 證を立る勿れ 十九 爾の父と母を敬へ 又己の如く爾の隣を愛すべし 二十 少
 者かれに曰けるハ 是のみを我いさげ奉り守れりものあり 何の虧たること
 なる我にある乎 二 イエス彼に曰けるハ 全からん事を欲ハ 往て爾が所有を
 售て貧者に施せ 然れば 天に於て財あらん而して 來り我に従へ 三 少者

の言を聞て驚入る者彼の産業をばばりければ也○二三イエスその弟子に目けるハ誠ニ爾曹に告ん富者の天國に入ること難し○三四また爾曹に告ん富者の神の國に入りよりの駱駝の針の孔を穿て却て易し○三五弟子之を聞て甚く驚き曰けるハ然らば誰か救を受へん乎○三六イエス彼等を見て曰けるハ是人に能はざる所なり然る神に能はざる所を○三七此をきテテロ答てイエスに曰けるハ我儕一切を棄て爾に従へり然らば何を得ん乎○三八イエス彼等に曰けるハ我儕は爾曹に告ん我に従へる爾曹の世あらたまり人の王榮光の位に坐する時せんらん○三九の位に坐してイエスエルの十二の支派を鞠へん○四〇凡て我名の爲に家室あるひの兄弟あるひの姉妹あるひの父母あるひの母あるひの妻あるひの子あるひの田疇を棄る者の百倍を受むの眞の眞を嗣えん○四一多の先ある者は後にあり後ある者は先にあるべしと云ふ

四二 爾れ天國の朝は出て爾爾園に王人人を雇ふ主人の如し二王一人に一日に銀一枚を予えん約束をなし彼等を爾爾園に遣せり三

また九時ごろ出て街に往く立る者を見て 爾曹も爾爾園にゆけ相當の價を予えん彼等に曰ければ則ち往り五時と十二時と三時と出で前の如く行り五時ごろ出で又ほかの立る者に遇て曰けるハ何ゆゑ終日ここに往く立や之に答て曰けるハ我儕を雇ふ者をききに因てなり彼等に曰けるハ爾曹も爾爾園にゆけ相當の價を得べし 八日暮るるとき爾爾園の主人その家宰に曰けるハ勢力たる者等を呼んで後に雇へる者を始とし先の者にまで價を給へよ九時と五時と雇はれし者も來りて銀一枚づつを受たり 十先の者も來りて我儕の多く受るならんと思ひしに亦銀一枚づつを受十一これを受て主人を怨つばやまけるハ十二の後至者の勢力たるハ一時ばかりなるに終日くるしみを任あつさに當る我儕は均しく之をせり 十三主人その一人に答て曰けるハ友よ我をんちに不義をせず爾れ銀一枚の約束をなしたるに非ずや十四爾のものを取て往れ亦この後至者にも爾の如く予ふべし十五我物を以て我もも如く行ハ宜らず乎わが善に因て爾の目あしき乎十六此の如く

後の者ハ先に先の者ハ後にあるべし夫よばるる者は多しと雖も選るる者ハ
 少き○十七 イエスエルサレムに上るとき途間にて人を離れ十二弟子を伴
 ひて彼等に曰けるハ十八我等エルサレムに上り人の子ハ祭司の長と學者等
 に賣されん彼等これを死罪に定め十九また凌辱鞭ち十字架に釘ん爲に異邦
 人に解すべし又第三日に甦へるべし○二十其時セベダイの子等の母その子
 共偕にイエスに來り拜して彼に求ること有ければ二之に曰けるは何を欲
 ぶかイエスに曰けるハ此二人の我子を爾の國に於て一人ハ爾の右一人ハ
 爾の左に坐ることを命ぜよ三 イエス答て曰けるハ爾曹は求ところを
 知す爾曹ハ我が飲んさする杯をのみ又わが受んさするバプテスマを受得
 るや彼等いひけるハ能すべし三三 イエス彼等に曰けるハ誠ニ爾曹ハ我が
 杯を飲また我うくるバプテスマを受べし然し我左右に坐ることハ我賜
 べきに非ず只わが父に備られたる者ハ賜らるべし三四 十人の弟子これを聞
 て二人の兄弟を憤れり三五 イエス彼等を召て曰けるハ異邦の領主ハそ

の民を主と知り大 人にもハ彼等の上に權を操これ爾曹が知ところ也 二六
 然し爾曹の中にてハ然すべからず爾曹のうち大あらん欲ふ者ハ爾曹に役
 るる者さあるべし二七 また爾曹のうち首たらん欲ふ者ハ爾曹の僕さある
 べし二八 此の如く人の子の來るも人を役ふ爲には非ず反て人に役れ又
 ほかの人に代て生命を予その 贖さあらん爲なり○二九 彼等エリコを出し
 時おほくの人々イエスに従へり三十二人の醫者路の 旁に坐をりしがイエ
 スの過るを聞て呼叫いひけるハダビデの裔主よ我儕を憫み給へ三一 衆人こ
 れに黙れと戒むれども愈さけび曰けるハダビデの裔主よ我儕を憫みたま
 へ三二 イエス立止て之を呼びひけるハ爾曹われに何を爲られんか願ふや
 三三 イエスに曰けるハ主よ我儕目の啓んことを願ふ三四 イエス 憫みて其
 目に手を按ければ直に見こ事を得イエスに従へり
 二人の弟子を遣さんとして三 彼等に曰けるハ爾曹むかふの村に往やがて繫

たる驢馬の其子を憐にあらはし遇ん夫を解て我に牽きたれ 三若あんぢらに何
 言のありが主の用ありと曰さらば直に之を遣すべし 四預言者の言に
 視る爾の王は柔和にして驢馬するありち驢馬の子に乗らんちに来るとシオン
 の女に告ふと云るに應せん爲に如此させる也 六弟子ゆきてイエスの命で
 と如くをも七驢馬の其子を牽きたり己の衣をその上に置ければイエスこれ
 に乗り大衆人おほく其衣を途に布のるひの樹枝を伐て途に布ぬ九つ
 前にゆき後に従ふ人々呼ひひけるハダビデの裔ホザナよ主の名に託て來
 者者の福あり至上 處にホザナよ 十イエスエルサレムに至れるとき
 都城のそりて疎動のひけるハ是誰ぞや 十一衆人ひひけるハ此ハガリヤの
 ナザレより出たる預言者イエスなり 十二イエス神の殿に入て其中なる凡
 の賣買する者を逐出し兒銀者の案檯をうる者の椅子を倒し 十三彼等
 曰けるハ我家の祈禱の家と稱らるべしと録さる然るに爾曹これを盜賊の
 巢とせり 十四警者跛者の人々殿に入てイエスに來りければ之を醫しぬ

十五 祭司の長を學者たり其行たまへる 奇事を見また兒童輩の殿にて呼
 はりダビデの裔ホザナよと云を聞て怒を合 十六イエスに曰けるハ彼等が言
 こを聞やイエス 答て曰けるハ然り嬰兒乳哺者の口に讚美を備たりと録
 されしを未だ讀ざる乎 十七遂に彼等を離れ都城を出てベタニヤに往そに
 宿れり 十八翌あさ都城へ返るとき飢ければ 十九路の旁にある一の無花果
 の樹を見て其處に來りしに葉の他に何も見ざりしかば今よりのち永久も
 果を結ぶことを得されと之に曰たまひければ無花果立刻に枯ぬ 二十弟子
 これを見て奇み曰けるハ無花果の枯ること何に速や 二一イエス答て彼等に
 曰けるハ我まことに爾曹に告んもし信仰ありて疑はずば此無花果に於るが
 如耳 さらす此山に命じ此より移されて海に入よと云さも亦成ん 二二且る
 んぢら信じて祈らば求ふ所ごとく得べし 二三イエス殿に入て教たるを
 祭司の長および民の長老たち來り曰けるハ何の權威を以て此事をなさや
 誰この權威を爾に予しや 二四イエス答て彼等に曰けるハ我も一言あんぢ

らに問ん我にその事を告るべ我も何の權威をもて之を行さいふことをせん
 ぢらに曰べし二五ヨハ子のマプテスマへ何處よりぞ天よりか人よりの彼等
 たがひに論じ曰けるハ若し天よりぞ云ば然る何ゆゑ信ぜざるか云ん二六
 もし人よりぞ云ば我儕民を畏る蓋みなヨハ子を預言者と爲るなり二七遂に
 答て知すぞ曰イエス彼等に曰けるハ我も何の權威を以て之を行か爾曹に語
 らじ二八爾曹に意ふや或人二人の子ありしが長子に來りて曰けるハ子
 よ今日わが葡萄園に往て働け二九答て否と曰しがのち悔て往たり三十ま
 た次子にも前の如く曰けるに答て君よ我往べしと曰しが遂に往ざりき三一
 此二人の物の孰か父の旨に遵ひし彼等いひけるハ長子なりイエス彼等に曰
 けるハ誠に爾曹に告ん 稅吏あよび娼妓ハ爾曹より先に神の國に入べし
 三二 夫ヨハ子 義 道をもて來りしに爾曹これを信ぜず稅吏娼妓ハ之を
 信じたり爾曹これを見てなほ悔改めず彼を信ぜざりき〇三三また一の譬
 を聞ある家の主人葡萄園を樹り籬を環らし其中に酒樽をほり塔をたて農

夫に貸て他の國へ往しが三四 果 期ちかづきければ其果を收ん爲に僕を農
 夫のものに遣せり三五 農夫も其 僕 等を執へ一人を鞭ち一人を殺し一人
 を石にて撃り三六 また他の僕を前よりも多く遣しけるに之にも前の如くあ
 せり三七 我子の敬ふならんを謂て終に其子を遣し去り三八 農夫等その子を
 見て互に曰けるハ此ハ嗣子あり奉これ殺して其 産業をも奪へしと 三九
 即ち之を執へ葡萄園より逐出して殺せり四十 然る葡萄園の主人きたら
 ん時にこの農夫に何を爲べき乎四一 彼等イエスに曰けるハ此等の 惡人を
 甚く討滅し期に及てその果を納る他の農夫に葡萄園を貸予ふべし 四二
 イエス彼等に曰けるハ聖書に工匠の棄たる石は家の隅の首石となれり是
 主の行給るにこそにして我儕の目に奇とする所なりと録されしを未だ讀さ
 る乎 四三 是故に我なんぢらに告ん神の國を爾曹より奪その果を結ぶ民に予
 らるべし 四四 この石の上に墜るものハ壞この石の上に墜れば其もの碎かる
 べし 四五 祭司の長等あよびパリサイの人かれの譬を聞あるれらを指て言る

を識しり四六イエスを執とらへんと欲おもひ謀はかりし。唯ただ民たみを畏おそれたり蓋おほ人ひと々ごとかれを預言よげん者しやとすれば也なり

第二十二節 イエス彼等に答こたへてまた譬たとへを語りける。天國てんこくの或王あるわうその子の爲ために婚筵こんえんを設おくが如ごとし三婚筵こんえんに請まねかける者を迎むかへたためしむべし。彼等かれらきたるこそを好このまず。四又またほかの僕しもべを遣つかはさんとして曰いひける。我が婚筵こんえんに來きたれ。すでに備そなはり我が牛うしまた肥こえた畜たく畜ぶも宰こりて盡つくく備そなはりたれば婚筵こんえんに來きたれ。請まねかたる者に言いふ。然しかれども彼等かれらへりみすして去さり。其一人そのひとりの己おのれの田はたけにゆき一人ひとりの己おのれの貿易かりに往ゆり。六他ほかの物等ものの僕しもべを執とらへ辱はづかして殺ころせり。七王わうこれを聞きて怒いかぐんせいつかは。其處そのところに於おいて其殺ころせる者を亡なし。又またその邑まちを燒やたり。八是こゝに於おいてその僕等しもべに曰いひける。婚筵こんえんすでに備そなはりども請まねかたる者は客きやくなるに堪たざる者ものなれば九衛ちゆうゑに往ゆて遇あはさるる者ものを婚筵こんえんに請まねけ。十その僕しもべ途みちに出いで善よき者ものも惡あしき者ものも遇あはさるる者ものを悉ことごとく集あつめられれば婚筵こんえんの客きやく充み満みす。十一王わう客きやくを見みんとて來きたりけるに茲こゝに一人ひとりの禮服れいふくを着きざる者ものあるを見て十二之これに曰いひける。友ともよ

如何いかなれば禮服れいふくを着きずして此處こゝに來きたる乎か。然しかなり。十三途みちに王わう僕しもべに曰いひける。彼の手足てあしを縛しばりて外そとの幽暗くらに投なげだせ。其處そのところにて哀哭あなしみまた切齒きやくする。十四それ召よる者もの多おほし。雖いへども選えらるる者もの少すくなし。○十五此時このときパリサイの人ひといで。如何いかして彼等かれらを言い誤あやらせん。相謀あひはかり。十六その弟子でしとヘロデの黨とうを遣つかはして云いはせる。師しよ爾なんぢの眞まことなる者ものなり。眞まことをもて神かみの道みちを教おしふ。また誰たれにも偏かたらざるこそを我儕われらの知しる。容貌かたちにより。ひととら。我儕われらに告つげふ。十八イエスその惡あくを知しり。イエザルに納あざるの善よきや惡わるきや爾なんぢの意おもふ。我儕われらに告つげふ。十九貢みつぎの銀錢かねを我われに見みせよ。彼等かれらデナリて曰いひける。偽善ぎぜん者ものよ。何ぞ我われを試こむるや。十九貢みつぎの銀錢かねを我われに見みせよ。彼等かれらデナリて曰いひける。イエスに携もち來きたりしに二十之これに曰いひける。然しからばカイザルの物ものハカイザルに歸かへす。是こゝに於おいてイエス彼等かれらに曰いひける。然しからばカイザルの物ものハカイザルに歸かへす。また神かみの物ものハ神かみに歸かへす。三三彼等かれら之これをきく奇きとして。四日ひイエスにきたり。問とて。四日ひける。師しよモーセの云いはるに人ひともし子こなくして死しなぶ。兄弟きやくだ。その妻つまを娶めとりて

子をうみ兄弟の後を嗣すべしと二三 茲に我儕の中に兄弟七人ありしが兄めとりて死子なきが故に其妻を次子に遺れり二六 その二三の三その七まで皆然す二七 後つひに婦もまた死たり二八 甦るべきハ此婦七人のうち誰の妻を爲べきは是みな彼を娶し者なれば也二九 イエス答て彼等に曰けるハ爾曹聖書をも神の能力をも知ざるに由て謬れり三十 それ甦るべきハ娶らす嫁す天にある神の使等の如し三一 死し者の甦るべきに就てハ爾曹に神の告たまひし言に三二 我ハアブラハムの神イサクの神ヤコブの神なりとあるを未だ讀ざる乎そもく神の死し者の神に非ず生る者の神なり三三 人々これを聞て其訓を驚けり○三四 イエスサドカイの人をして口を塞がしめたりと聞てパリサイの人一處に集りけるが三五 その中なる一人の教師師イエスを試みん爲に問て曰けるハ三六 師ハ律法のうち何の誡が大なる三七 イエス答けるハ爾曹心と靈と精神を盡し 意を盡し主なる爾の神を愛すべし三八 此第一にして大なる誡あり三九 第二も亦

これに同じ己の如く爾の隣を愛すべし 四十 凡の律法と預言者ハ此二の誡に因り○四一 パリサイの人の集れる時イエス彼等に問て曰けるハ三三 爾曹キリストについて如何あらふ乎これ誰の子なるか 彼等イエスに曰けるハダビデの裔なり 四三 彼等に曰けるハ然ばダビデ靈に感じて何故これを主と稱へし乎ダビデ言 四四 主わが主に曰けるハ我あんぢの敵を爾の足踏さすまで我みぎに坐すべしと 四五 然ばダビデ既に之を主と稱たれば如何その子あらん乎 四六 誰一言これに答ること能はず此日より敢て又さふ者なかりき

第二十三節 厥時イエス人々を弟子と告て曰けるハ 二學者をパリサイの人ハモーセの位に坐す三故に凡て彼等が爾曹に言ころを守て行ふべし然し彼等が行ふ所を爲と勿れ蓋われらハ言のみにして行ハされば也 四また彼等ハ重かつ負がたき荷を括て人の肩に負せ己ハ一の指をもて之を動すことすら好す 五 彼等の行ハ凡て人に見れんが爲にする也 六 其の佩經を幅濶し其衣の裾を大にし 七 又また筵席の上座會堂の高座 七 市上の間安人々

よりラビ、ラビと稱られんを好む。八爾曹ハラビの稱を受ること勿れ蓋な
 んぢらの師一人すなはちキリストあり爾曹のみを兄弟あり九また地に
 ある者を父と稱ること勿れ爾曹の父一人すなはち天に在す者あり十また
 導師の稱を受ること勿れ蓋あんぢらの導師一人すなはちキリストあり
 十一爾曹のうち大なる者の爾曹の僕と爲べし十二凡そ自己を高する者の卑
 せられ自己を卑する者の高せられん十三噫あんぢら禍あるか偽善を
 る學者とパリサイの人蓋あんぢら天國を人の前に閉て自ら入す且いらん
 する者の入をも許さざれば也十四噫あんぢら禍あるか偽善をる學者
 とパリサイの人蓋あんぢら廢婦の家を吞いつはりて長き祈をなす之に由
 て爾曹最も重審判を受べければ也十五あゝ禍あるか偽善をる學者
 とパリサイの人蓋あんぢら徧く水陸を歴巡り一人をも己が宗旨に引入ん
 べし既に引入れば之を爾曹よりも倍したる地獄の子と爲り十六噫あんぢら
 禍あるか偽善をる相爾曹はいふ人もし殿を指て誓はざる事し殿の金

を指て誓はざる事し殿の金を聖からしむ
 る殿を執り尊き十八又いふ人もし祭の壇を指て誓はざる事し其上の禮
 物を指て誓はざる事十九愚にして誓ある者も禮物を聖
 物からしむる祭の壇を執り尊き二十それ祭の壇を指て誓ふ者も祭の壇を
 其上の凡の物を指て誓ふあり二一また殿を指て誓ふ者も殿を其の中に
 在す者を指て誓ふあり二二また天を指て誓ふ者も神の寶座を其の上に坐
 する者を指て誓ふあり二三噫あんぢら禍あるか偽善をる學者とパリ
 サイの人蓋あんぢら薄荷、茴香、馬芹の十分の一を取納て律法の最も
 重き義と仁と信とを爾曹の廢これ行ふ可もの也かれ亦廢べからざる者あ
 り二四警者ある相者も爾曹ハ蠅を漉出して駱駝を吞らる也二五あゝ禍
 あるか偽善をる學者とパリサイの人蓋あんぢら杯と盤の外を潔して内に
 貪欲と淫欲とを充せり二六警者あるパリサイの人蓋あんぢら杯と盤の内
 を潔せば然るの外も亦きよまるべし二七噫あんぢら禍あるか偽善をる

る學者をパリサイの人よ爾曹の白く塗たる墓に似たり外は美しく見れども
 内は骸骨と諸の汚穢にて充つ二八此の如く爾曹もまた外は義く人に見れども
 も内は偽善と不法にて充つ二九噫んちら禍をなすかな偽善なる學者をパリ
 サイの人よ爾曹預言者の墓をたて義人の碑を飾れり三十又いふ我儕もし
 先祖の時にあらば預言者の血を流すことと與せざりしを三十一然る爾曹の
 預言者を殺し者の裔なることを自ら證す三二なんちら先祖の量を充せ三三
 蛇虺の類よ爾曹いかに地獄の刑罰を免れんや三四是故に我爾曹に預言
 者と智者と學者を遣さん或は之を殺し又十字架に釘或は其會堂にて
 之を鞭ち或は邑より邑へ逐苦めん三五是は義なるアベルの血より殿と祭
 の壇の間にて爾曹が殺しバラキアの子ザカリアの血に至るまで地に流した
 る義人の血の凡て爾曹に報來らんが爲なり三六われ誠に爾曹に告ん此事
 みな此代に報來るべし三七噫エルサレムよエルサレムよ預言者を殺し附
 に遣さるる者を石にて撃ものよ母雞の雛を翼の下に集る如く我なんちの赤

子を集んとせしこと幾次や然る爾曹の好ざりき三八視よ爾曹の家は荒地
 となりて遺れん三九われ爾曹に告ん主の名に託て來る者の福なりと爾曹
 の云んごき至るまで今より我を見ざるべし

第廿四章

イエス殿より出ければ其弟子すくみて殿の構造を彼に觀せん
 ことしたりしに二イエス彼等に曰ける爾曹すべて此等を見ざるか我まこと
 に爾曹に告ん此處に一の石も石の上に圮れずしての遺らじ三イエス殿
 櫓山に坐し給へるごき弟子ひそかに來りて曰ける何の時このこと有や又
 爾の來る光と世の末の光の如何なるぞや我儕に告たまへ四イエス答て彼等
 に曰ける爾曹人に欺がれざるや慎よ五蓋おほくの人がわが名を冒さ
 たり我のキリストなりと云て多の人を欺くべし六又なんちら戦と戦の風聲
 をきかん然る慎て懼るる勿れ此等の事の皆ある可なり然るも末期未だ
 至らず七民おこりて民をせめ國の國をせめ饑饉、疫、病、地震とこころくりに
 有ならん八是みな禍の始なり九其ごき人なんちらを患難に付し爾曹を殺

すべし又なんぢら我名の爲に萬民に憎まれん 十此とき許多のものを礙がつ互に付し互に憐むべし 十一また偽預言者もほく起て多の人を欺かん 十二また不法みつるに因て多の人の愛情ひやぶかに爲べし 十三然終まで忍ぶ者の救あるべきを得ん 十四また天國の此福音を萬民に證せん爲に普く天下に宣傳られん然るのち末期いたるべし 十五是故に預言者ダニエルに託て言れたる所の殘業にくむべきもの聖處に立を見ん(讀者よく思ふべし) 十六厥時ユダヤに在る者の山に遁れよ 十七屋上に在るもの其家の物を取んきて下る勿れ 十八田に在る者の其衣を取んきて歸り勿れ 十九其日に孕める者乳を飲する婦の福なる哉 二十爾曹冬また安息日に逃ることを免れん爲に祈れ 二一其とき大なる患難あり此の如き患難の世の始より今に至るまで有ざりき又後に有じ 二二若その日を少くせられずば一人だに救る者なかりん然選れし者の爲に其日の少くせらるべし 二三其時もしキリスト此處にあり彼處にあり 爾曹にいふ者あるも信する勿れ 二四その偽

キリスト偽預言者たら起て大なる休徵を異能を行ひ選れたる者をも欺くことを得べ之を欺く可れば也 二五われ預じめ爾曹に之を告 二六若キリスト野に在るいふ者あるも出る勿れ 室に在る云もの有さも信する勿れ 二七その電の東より出て西にまで閃くが如く人の子も來るべければ也 二八それ屍のある處に驚あつたらん 二九此等の日の患難の後たよりに日晦く月の光を失ひ星の空よりあち天の勢ひ震ふべし 三十其とき人の子の兆天に現るまた地上にある諸族の哭 哀み且人の子の權威さ大なる榮光をもて天の雲に乗來るを見ん 三一又その使等を遣し 彼の大きな聲を出しめて天の此極より彼極まで四方より其選れし者を集むべし 〇 三二 夫なんぢら無花果樹に由て譬を擧べ其枝すでに柔かにして葉萌めば夏の近きを知 三三此の如く爾曹も凡て此等の事を見ん時ちかく門口に至ることを知 三四われ誠に爾曹に告ん此等の事 三十五成まで此民の廢さめへし 三五 天地の廢ん然我言の廢じ 三六その日その時を知もの唯わが父のみ天

の使者も誰もしる者なし三七ノアの時の如く人の子の來るも亦然らん三八
 それ洪水の前ノア方舟にいる日までハ人々飲食嫁娶なごして三九洪
 水の來り悉く之を滅すまで知ざりき此の如く人の子も亦きたらん四十其
 さき二人田に在んに一人ハ取れ一人ハ遺さるべし四一二人の婦磨ひき居
 んに一人ハさられ一人ハ遺さるべし四二是故に爾曹の主いつれの時きたる
 かを知らざれば怠らすして守れ四三爾曹之れを知らし家の主人ぬすび何の
 時きたるかを知り其家を守て破らすまじ四四然ハ爾曹もまた預備せよ意さ
 る時に人の子きたらんご爲のなり四五時に及て糧を彼等に予さる爲に主
 人がその僕等の上に立たる忠義にして智僕ハ誰なる乎四六その主人
 の來らん時々の如く勤るを見るハ僕ハ福なり四七我まごに爾曹に告
 ん其所有をみな彼に習らすべし四八苦その惡僕おのの心に我が主人
 の來るハ遅らんご意ひ四九その朋輩を打撻きて酒に酔たる者ごもご共に飲
 食し始なハ五十その僕の主人もハさるの日しらさるの時に來りて五十一之

を斬殺し其報を偽善者と同じすべし其處にて哀哭切齒すること有ん
 べし二その中の五人ハ智く五人ハ愚かり三愚なる者ハ其燈をさるに油を
 携へざりしが四智者者ハ其燈を兼に油を器に携へたり五新耶もそかり
 ければ皆假寐して眠れり六夜半ハに叫びて新耶きたりぬ出て迎よと呼聲あ
 りければ七この童女ごも皆おきて其燈を整へたるに八愚なるもの智き
 者に曰けるハ我儕の燈熄んとす願くハ爾曹の油を我儕に分予よ九智き
 もの答て曰けるハ我儕も爾曹ごに恐くハ足まじ爾曹賣者に往て己が爲に買
 十かれら買んごて往しごき新耶きたりければ既に備たる者ハ之ご借に婚筵
 に入しハ門ハ閉られたり十一斯て後その餘の童女きたりて曰けるハ主よ
 主よ我儕の爲に開たまへ十二答て我まごに爾曹に告ん我ハ爾曹を知らざ
 曰り十三然ハ怠らすして守れ爾曹その日その時を知らざれば也○十四また天
 國ハ或人の旅行せんごして其僕をよび所有を彼等に預るが如し十五各人

の智慧に従ひて或者に銀五千或者に銀二千或者に銀一千を予ふま直に
 旅行せり十六五千の銀を受し者往て之を貿易し他に五千を得たり十七二
 千を受し者もまた他に二千を得たり十八然るに一千を受し者往て地を堀
 その主の金を藏せり十九歴久て後その僕等の主がへりて彼等と會計せし
 二十五千の銀を受し者その他に五千の銀を携來りて主よ我に五千の銀を預
 じが他に五千の銀を儲たりと曰ければ三三主に曰けるはあふ善かつ忠
 なる僕ぞ爾算る事に忠あり我あんちに多ものを督らせん爾の主人の
 歡樂に入ふ三三二千の銀を受し者きたりて主よ我に二千の銀を預しが他に
 二千の銀を儲たりと曰ければ三三主に曰けるはあふ善かつ忠なる僕ぞ
 あんち算る事に忠あり我あんちに多ものを督らせん爾の主人の歡樂に入
 る二日また一千の銀を受し者きたりて曰けるは主よ爾の主人の歡樂に入
 るより獲ちらざる處より歛る事を我の知二五故に我懼てゆき主の一千
 の銀を地に藏し置り今あんち爾の物を得たり二六その主こたへて曰けるは

悪かる情れる僕ぞ爾わが播さる處よりかり散さる處より歛ることを知
 り二七然らば我が金を兌換に預置べきなり然らば我が歸たるとき本と利
 を受べし二八是故に彼の一千の銀を取て十千の銀ある者に予ふ二九それ
 有る者の予られて尙あまりあり無有者その有る物をも奪る也三十無益
 なる僕を外の幽暗に逐われ其處にて哀哭切齒すること有ん〇三一人の子お
 のれの榮光をもて諸の聖使を率來る時その榮光の位に坐し三三
 萬國の民をその前に集め羊を牧者の綿羊と山羊とを別が如く彼等を別ち
 三三綿羊をその右に山羊をその左に置べし三四斯て王その右に在る者に云
 ん吾父に惠る者よ來りて創世より以來なんちらの爲に備られたる國を
 嗣三五蓋なんちら我が飢し時われに食せ渴しとき我に飲せ旅せし時われを
 宿らせ三六裸なりし時われに衣せ病しとき我をみまひ獄に在しとき我に就
 れがなり三七是に於て義者われに答て云ん主よ何時なんちの飢たるを見
 て食せまた渴たるに飲し乎三八何時主の旅したるを見て宿らせ又裸なる

に衣しや三九何時主の病また獄に在を見て爾に至りし乎 四十王たて彼等に白ん我まこと爾曹に告ん既に爾曹わび此兄弟の最徴者の一人に行へるは即ち我に行しなり 四一遂にまた左になる者曰ん罰せらるべし者我を離れて惡魔其使者の爲に備たる燧さる火に入 四二蓋なんぢら我が飢し時われに食せず渴しき我に飲せず 四三旅せし時われを宿らせず裸なりし時われに衣す病また獄に在し時われを顧されば也 四四是に於て彼等また答て曰ん主よ何時なんぢの飢また渴また旅し又裸また病また獄に在を見て生に事ざりし乎 四五其とき王たて彼等にいへん我まことに爾曹に告ん此最徴者の一人に行へざるは即ち我に行へざりし也 四六此等の者ハ窮なき刑罰にいり義者ハ窮なき生命に入べし

四七 諸の言を言竟りて其弟子に曰けるハ 二三日のうち逾越節なるハ爾曹が知さる也 四八 爾人の子ハ十字架に釘らる爲に付さるべし 四九 此最徴者の長らるハ民の長老等カヤハ云る祭司の長の

邸の庭に集り四詭計をもてイエスを執へ殺さん共々に謀いひけるハ 五祭司の日にハ行へからず恐くハ民の中に亂ちこらん 〇六 イエスベタニヤの癩病人シモンの家に住たまへる時もある婦 燧石の器物に價たぎ香膏を盛てイエスの食する所に携來り其首に斟しかば 弟子等之を見て怒を合曰けるハ 此糜費のこを爲ハ何故ぞや 九 若之を賣ハ多の金を得て貧者に施すことを得ん 十 イエス知て彼等に曰けるハ 何ぞ此婦を惱すや 彼は我に善事を行へる也 十一 貧者ハ常に爾曹を憐にあれど我は常に爾曹を憐に在す 十二 彼がこの香膏を我體に斟しは我の葬の爲に行る也 十三 われ誠に爾曹に告ん天の下いづくにても此福音の宣傳らる處には此婦の行し事もその記念の爲に言傳らるべし 〇十四 其とき十二弟子の一人あるイエスカリオテのユダと云るもの祭司の長等の所に往て曰けるハ 十五 我あんぢらに彼を賣さば幾何を與るハ 遂に銀三十にて約したり 十六 此時よりイエスを賣さん機を窺ひぬ 〇十七 除酵節の首の日弟子イエスに來り曰けるは我

儕すきこの食を爾の爲に何處に備ふべき乎十八イエス曰けるは京城にい
 り某に至ていへ師いふ我が時近きければ我弟子と偕に逾越の節筵を爾が家
 に行べしと十九弟子イエスに命ぜられし如して逾越の食を備ふ二十日くる
 る時イエス十二弟子と偕に席に就き食する時いひけるは我まことに爾曹
 に告ん爾曹のうち一人われを賣なり二三彼等いたく憂て各イエスに曰出
 けるは主よ我なる乎二三答て曰けるは我と偕に手を盂に着る者は即ち我を
 賣す者なり二十四人の子は已について録されたる如く逝ん然し人の子を賣す
 者は禍ある哉その人生れざりしならん反て幸なりしならん二十五彼を賣す
 エ答て曰けるはラビ我なるや之に曰けるは爾の言る如し二十六かれら食す
 る時イエスパンを取て祝し之をさき弟子に與て曰けるは取て食これ我身
 なり二十七また杯を取て謝し彼等に與て曰けるは爾曹みる此杯より飲二八
 これ新約の我血にして罪を赦さんさて衆の人の爲に流所のもの也二十九われ
 爾曹に告ん今より後なんぢらと偕に新しき物を吾父の國に飲ん日までは再

びこの葡萄酒にて造れる物を飲じ○三十かれら歌を謳てのち橄欖山に往り
 三十一其時イエス彼等に曰けるは今夜なんぢら皆われに就て寝かん蓋われ牧
 者を撃け群の綿羊ならんを録されたれば也三十二然し我甦りて後なんぢら
 に先ちかりラヤに往べし三十三ペテロ答てイエスに曰けるは皆なんぢに就て
 寝くとも我の終に寝かじ三十四イエス彼に曰けるは我まことに爾につけん今
 夜鶏なかつる前に爾三次われを知らずと言ん三十五ペテロ彼に曰けるは我の主
 と偕に死るとも爾を知らずと言じ弟子みな如此いへり○三十六厥時イエス彼等
 と偕にゲッセマ子といふ處に至て弟子等に曰けるは爾曹ここに坐われ彼處
 に往て祈らん三七ペテロ及セバタイの二人の子を携へ憂へ哀みを催し
 三十八彼等に曰けるは我心いたく憂て死るばかり也ここに待て我と偕に目を
 醒しなれ三十九少し進往てひれふし祈いひけるは吾父よ若かならば此杯を
 我より離ち給へ然し我心の従を成んとするに非ず聖旨に任せ給へ四十而し
 て弟子に來り其寢たるを見てペテロに曰けるは此如一時も我と偕に目を醒

をるこ能はざる乎四一感に入らむ目を醒めつ祈その靈に願ふなれど
 肉體よわきなり四二二次ゆきて復いのり曰けるハ吾父よ若われに此一杯
 を飲まで離つこ能すハ聖旨に任せ給へ四三來りて又われらの寢たるを見
 これ彼等の目疲たる也四四彼等を離れて又ゆき第三次も同言をもて祈れ
 り四五遂に其弟子に來りて曰けるハ今の寢て休め時近し人の子罪人の手
 に付されん四六起よ我儕往へし我を賣す者近きたり四七此知いへるまき
 十二の一人なるエズ劍と棒とを持たる多の人々と偕に祭司の長と民の長老
 の所より來る四八イエスを賣す者かれらに號をなして曰けるハ我が接吻す
 る者の夫なり之を執へよ四九直にイエスに來りラビ安がと曰て彼に接吻す
 五十一イエス彼に曰けるは友よ何の爲に來るや遂に彼等すも來り手をイエ
 スに措て執へぬ五一イエスと偕に在し者の一人手をのへ劍を拔て祭司の長
 の僕を撃その耳を削めさせり五二イエス彼に曰けるは爾の劍を故處に収め
 凡て劍をさる者は劍にて亡ぶべし五三我いま十二軍餘の天使を吾父に請て

受るこ能はずと爾曹ももふ乎五四もし然せば如此あるべき事を録し聖書
 に如何で應はん乎五五此時イエス人々に曰けるは劍と棒とを持て盜賊を
 執ふる如して我を執にきたる乎われ日々爾曹と偕に殿に坐して講しに爾曹
 われを執ざりし五六然る此の如なるは皆預言者の録たる所に應成せん爲な
 り遂に弟子等みなイエスを離れて逃去ぬ五七イエスを執たる者これを曳
 て學者と長老の集れる所の祭司の長カヤパに携ゆ五八ベテロ遠く離れて
 イエスに従ひ祭司の長の庭にまで至その結局を見んさて内にいり僕と偕に
 坐せり五九祭司の長等もよび長老すべの議員ももにイエスを殺さんとし
 て妄證を求めども得ず六十多の妄りの證者きたれども亦えず後ま
 た妄りの證者二人きたりて曰けるは六十一この人靈に言ることあり我よく
 神の殿を毀ちて三日の内に之を建うべし六十二祭司の長たちてイエスに曰
 けるは爾きたる言なき乎この人々の爾に立る證據は如何六三イエス默然
 たり祭司の長きたへて彼に曰けるは爾キリスト神の子なるか我なんぢを

活神に警せて之を告しめん 六四 イエス彼に曰けるは爾が言る如し且われ
 爾曹に告ん此のち人の子大權の右に坐し天の雲に乗て來るを爾曹みるべし
 六五 是に於て祭司の長その衣を裂て曰けるは此人は褻瀆ことを言り何ぞ外
 に證據を求人や爾曹も今その褻瀆たるを聞 六六 なんぢら如何にもふ
 乎かれら答て曰けるは彼は死に當れり六七 是に於て彼等その面に唾し且
 拳にて撃りまた或人がれを批いひけるは六八 キリストよ爾を撃者は誰が我
 儕に預言せよ 〇六九 ペテロ庭に坐ぬけるに或婢きたりて爾もガリラヤの
 イエスと儲なりと曰ければ七十 ペテロ凡の人の前に此言を肯はずして
 我なんぢが言ることを知すと曰り七一 出て門口に至れる時また他の婢これ
 を見て其處に在る者に曰けるは此人もナザレのイエスと儲に在し七十二
 口また肯はずして警ふ我この人を知すと七三 暫くありて旁らに立たる者す
 るみ近てペテロに曰けるは誠に爾もその黨の一人なり蓋なんぢの方言
 なんぢを顯せり七四 此に於てペテロ言り且警て我その人を知すと曰し

が傾て鶏鳴ぬ七五 ペテロイエスの鶏なきざる前なんぢ三次われを知
 すといはん云たまへる言を憶起し外に出て悲み哭けり
 殺さんとし 二既に彼を縛ひきゆきて方伯のポンテオピラトに解せり 〇三是
 に於てイエスを賣しユダ彼の死に定められしを見て悔その銀三十を祭司
 の長長老等に返して四曰けるは無辜の血を付し我は罪を犯しぬ彼等いひ
 けるは我儕に於て何ぞ與らんや爾みづから當べしユダその銀を殿に投棄
 て其處を去ゆきて自ら縊たり六祭司の長等この銀を取て曰けるは此は血の
 價なれば賽銭の箱に入べからずとて七 共に謀この銀をもて旅客を葬る爲に
 陶工の田を買入故に其田は今に至るまで血田と稱らる九 是に於て
 預言者エレミヤに託いはれたる言にイスラエルの民に估られ估られし者の
 價の銀三十を取十主の我に命ぜし如く陶工の田を買ぬと有に應べり 〇
 十一 儲イエス方伯の前にたつ方伯イエスに問て曰けるは爾はユダヤ人の王

なるかイエス之に曰けるは爾の言る如し十二祭司の長老たち彼を訴ふれ
 ども何の答もせず十三是に於てピラト彼に曰けるは此人々なんぢに立る
 證のかく大なるを顯さざる乎十四方伯の甚奇とするまでにイエス一言
 も答せざりき十五この祭の日には方伯より民の頭に任せて一人の囚人を釋
 の例あり十六時にバラマ云る一人の名高き囚人ありければ十七ピラト民
 の集りしとき彼等に曰けるはバラマか又はキリストと稱ふるイエスなる乎
 なんぢら誰を釋さん欲ふや十八これ娼妓に由てイエスを解したりと知
 たり十九方伯審判の座に坐りたる時その妻いひ遣しけるは此義人に
 爾干るこそ勿れ蓋われ今日夢の中に彼につきて多く憂たり二十祭司の長
 長老たちバラマを釋しイエスを殺さんことを求む民に峻む二一方伯は
 て彼等に曰けるは二人のうち孰を我なんぢらに釋さんことを望むや彼等
 言ふに答ふに三ピラト曰けるは然らばキリストと稱ふるイエスに我なにを處
 へんきか來いふ十字架に釘まき三三方伯いひけるは彼なしの惡事を行むや彼

等皆すく喊叫て十字架に釘まき曰二四ピラトその言の益なくして唯亂の
 起んずするをしり水を取て人々の前に手をあらひ曰けるは此義者の血
 に我は罪なし爾曹みづから之に當れ二五民みな答て曰けるは其血は我儕
 我儕の子孫に係るべし二六是に於てバラマを彼等に釋しイエスを鞭ちて之
 を十字架に釘ん爲に付したり二七方伯の兵卒イエスを携へ公廳に至り全
 體を其もとに集め二八彼の衣を褫て絳色の袍を着せ二九棘にて冕を編そ
 の首に冠しめ又葦を右手に持せ且その前に跪き嘲弄して曰けるはユダヤ
 人の王安かれ三十また彼に唾し其葦を取て其首を撃り三一嘲弄し畢りて其
 袍をはき故衣をきせ十字架に釘んまで彼を曳ゆく三二その出し時クレ
 子人のシモンといふ者に遇ければ強て之に其十字架を負せたり三三彼等
 三三ユダ路に即ち團體と云る處に來り三四醋に膽を和せてイエスに飲せ
 んと爲たりしに嘗て飲ことをせざりき三五斯てイエスを十字架に釘しの際
 鬮を拈て其衣を分かれ預言者の言に彼等互に我が衣を分わが裏衣を鬮

にす云しに應へり三六兵卒に坐してイエスを守れり三七また罪標に
 此はエタヤ人の王イエスなりと書して其首の上に置り三八其とき二人の
 盜賊イエスと偕に一人は其右一人は其左に十字架に釘らる○三九往來
 の者イエスを罵り首を揺て曰けるは四十殿を毀ちて三日に之を建る者よ自
 己を救へ爾も神の子ならば十字架より下り四一祭司の長學者長老等
 も亦あなじく嘲弄して曰けるは四二人を救て己の身を救めたは若イスラ
 エルの王ならば今十字架より下るべし然ば我儕かれを信せん四三彼は神に
 依頼めり神も彼を愛しまが今救ふべし蓋かれ我は神の子なりと云し也
 四四同じ十字架に釘られたる盜賊も同くイエスを罵れり○四五晝の十二時
 より三時に至るまで其地あまねく黑暗なる四六三時ごろイエス大聲にエ
 リ、エリ、ラマサバクタニと呼りぬ之を譯ば吾神わが神なんぞ我を遺たまふ
 乎と云る也四七旁らに立たる者のうち或人これを聞て彼はエリヤを呼る也
 四八その中の一人直に走り行て海抜をとり醋を合せ之を葦につけて

イエスに飲しむ四九餘人曰けるは俟エリヤ來りて彼を救ふや否試
 し○五十イエスまた大聲に呼りて氣絶たり五一殿の幔より下まで裂て二
 さなり又地ふるひ磐さけ五二墓ひらけて既に寝たる聖徒の身あはく甦へり
 イエスの甦れる後五三墓を出て聖城に入あはくの人に現れたり○五四百
 夫の長と偕にイエスを守たるもの地震あはび其有し事を見て甚く懼れ此は
 誠に神の子なりと曰り○五五此處に遙に望むたる多の婦ありし彼等はガ
 リラヤよりイエスに従ひ事し者等なり五六其中に居し者はマグダラのマリ
 アとヤコブヨセの母あるマリヤとセベダイの子等の母也○五七日くれて
 イエスの弟子なるヨセフと云るアリマタヤの富人きたりてピラトに往イ
 エスの屍を請しかば五八ピラトその屍を付せし命す五九ヨセフ屍を
 取て潔き桌布に裹み六十之を磐に鑿たる己が新しき墓におき大なる石を墓
 の門に轉して去六一マグダラのマリヤと他のマリヤと墓に對て坐し其處に
 居り○六二預備日の翌日祭司の長とパリサイの人等ピラトの所に集來り曰

けるは六三主我憐憫起せり彼の偽者いきて在しき三日のうちに
 らんと言し六四是故に命じて三日に至るまで墓を固守しめ恐くは其弟子夜
 きたりて之を竊み死より甦りたり民に言然る後の惑は先より愈勝
 るべし六五セラト彼等に曰けるは守兵は爾曹にあり往て意のまゝに固守
 しめよ六六是に於て彼等のきて石に封印し守兵をして墓を固守しめたり
 安息日終てのち七日の首の日黎明にマツダラのマリヤ
 及び他のマリヤその墓を観んきて來りしに二天なる地震ありて主の使者天
 降り降り墓の門より石を轉し其上に坐す三その容貌の閃電のごとく其衣
 服は雪のごとく白し守兵かれを懼戦死したる者の如くなりぬ五天
 使きたへて婦に曰けるは爾曹おそる勿れ我なんぢらが十字架に釘られし
 イエスを尋ることを知六彼は此に在す其言る如く甦りたり爾曹きたりて
 主の置れし處を見よ七且ゆきて其弟子に告す彼は死より甦り爾曹は先ち
 てガリラヤに往り彼處に於て爾曹かれを見よ七我これを爾曹に告入婦懼

ながらも甚く喜びて急墓をさり其弟子に告んぞ走り往り九弟子に告んきて
 往ききイエス彼等に遇て安かれと曰給ひければ婦すくみ其足を拘て拜しぬ
 十イエス彼等に曰けるは懼る勿れ去て我が兄弟にガリラヤに往き告よ
 彼處にて我を見よ十一婦の去しの際守兵のうち或者も城に至り凡
 て有し事を祭司の長等に告しかば十二彼等と長老あつまりて共に議むほく
 の銀子を兵卒に給て白けるハ十三爾曹いへ我儕が寢たる時その弟子夜きた
 りて彼を竊りし十四此事もし方伯に聞ることも我儕かれに勸て爾曹に憂慮な
 からしめん十五かれら銀子を取て囑められたる如したり是に於て此の
 如き話今日に至るまでユダヤ人の中に傳播られたり○十六十一の弟子
 ガリラヤに往てイエスの彼等に命じ給ふ所の山に至り十七イエスを見て拜
 せり然る疑へる者もありき十八イエス進て彼等に語いひけるハ天のうち地
 の上の凡の權を我に賜れり十九是故に爾曹ゆきて萬國の民にバアテスマを
 施し之を父子と聖靈の名に入て弟子とし二十且わが凡て爾曹に命ぜし言

を守れ。彼等に教へて。夫われハ世の末まで常に爾曹の備に在なり。アメン

新約全書馬太傳福音書終

新約全書馬可傳福音書

新約全書馬可傳福音書
 神の子イエスキリストの福音の始なり。二預言者の録して視
 我なんぢの面前に我使を遣さん。彼なんぢの前に其道を設くべし。三野
 野に於てバプテスマを施し罪の赦を得させんが爲に悔改のバプテスマを
 宣傳たり。五ユダヤの全國およびエルサレムの人々かれに來りて各々そ
 の罪を認へし。ヨルダンといふ河にてバプテスマを受。六ヨハ子の駱駝の毛
 衣を着腰に皮帶をつかれ。蝗蟲と野蜜を食へり。七かれ宣傳けるハ我より勝
 れる者わが後に來らん。我ハ屈て其履の紐を解にも足す。八我ハ水をもて爾曹
 にバプテスマを施し。九が彼の聖靈をもて爾曹にバプテスマを施すべし。九當
 時イエスがガラヤのナザレより來りヨルダンにてヨハ子よりバプテスマを
 受。十頓て水より上れるとき天開れ。靈鴿の如く其上に降るを見たり。十一又
 天より聲ありて云なんぢハ我が愛子がわが悦ぶ所の者なり。十二斯て靈た

だちにイエスを野に往しむ十三かれ四十日野に在てサタンに試られ獸と
 共にをれり天の使等これに事ぬ○十四ヨハ子の囚れし後イエスがガラヤ
 に至り神の國の福音を傳ひけるハ十五期ハ満り神の國ハ近けり爾曹悔
 改めて福音を信ぜよ○十六イエスがガラヤの湖の邊を歩る時シモンと其
 兄弟アンデレの湖に網うてるを見る彼等ハ漁者なり十七イエス彼等に
 曰けるハ我に従へ我爾曹を人を漁る者せせん十八彼等たづちに其網を棄
 て之に従へり十九此より少し進行せバダイの子ヤコブとその兄弟ヨハ
 子の舟に在て網つくるふを見て二十直に彼等を召給ひしかば其父セバダイ
 を傭人と共に舟に遺て彼に従へり○二十一彼等カペナウムに至るイエス即ち
 安息日に會堂に入て教を爲しに三二人々その教を駭き合り蓋學者の
 如ならず權威を有る者の如く教たまへバ也三三其會堂に汚たる鬼に憑た
 る人ありて二四喊叫ひけるハ唉ナザレのイエスよ我儕ハ爾ぞ何の與り有
 んや爾きたりて我儕を滅すか我なんぢハ誰なる乎を知すなハち神の聖なる

者なり二五イエス之を責て曰けるハ聲を發すこと勿れ其處を出よ二六汚た
 る鬼その人を拘繫させ大聲に叫びて彼を出たり二七衆人みな驚き相問て曰
 けるハ是何事ぞや是いかなる新しき教ぞや汚たる鬼さへ權威をもて命じけ
 れば從へり二八是に於てイエスの聲名漏くガリラヤの四方に播りぬ○二九
 彼等やがて會堂を出ヤコブ及ヨハ子と共にシモンアンデレの家に至し
 に三十シモンの岳母熱を病て臥めければ或人たづちに之をイエスに告三二
 イエス往て其手をさり彼を起しければ熱たちまち去ぬ斯て其婦われらに
 供事たり三三夕がた日の落さき人々すべての病を患へるもの鬼に憑たる者
 をイエスに携へ來る三三その邑こそりて門に集れり三四イエス各様の病を
 患へる多の人々を醫し又多の鬼を逐出し鬼の言ふ事を許さざりき蓋鬼が
 れを識たるに因てなり○三五味爽にイエス早く起人なき所にゆき其處に
 て祈禱せり三六シモンおよび彼と共に在し者等その跡を慕ゆき三七彼に遇
 て曰けるハ衆人みな爾を尋ぬ三八イエス彼等に曰けるハ我ハ教を宣傳る

爲に爾曹と偕に附近の鄉村へ往ん我れが爲に來れり也三九イエス偏く
 かりテヤの國を經めぐり其會堂にて教を宣且鬼を逐出せり〇四十癩病
 のもの一人かれに來りて跪き求ひ曰けるハ爾もし聖意に適さきハ我を潔
 く爲得べし四一イエス憫みて手をのべ彼に按て我意に適へり潔なれと
 四二言やいな直に癩病はなれ其人きてまされり四三イエス嚴く之を戒め
 慎みて何をも人に告る勿れ但ゆきて己が身を祭司に見せ其潔られし爲に
 モーモが命ぜし所の物を獻て彼等に證據をなせと言て去しめたり四五然と
 も彼いで先この事を大に言つたへ語り廣めければイエス此後あらハに城
 に入がたく獨人なき所に居給ひしが人々四方より彼に來れり
 四六數日の後イエス復カペナウムに來しに二彼の室に居こき聞えけ
 れば直に多の人々集きたり門に立べき場處さへもなき程なりきイエス彼
 等に教を宣三此に癩瘋を病たる者を四人に昇せイエスに來れる者ありしが
 四群集によりて近づき難かりければ彼の居こころの屋蓋を取除き癩瘋の人

を床のまく緇下せり五一イエス其信仰を見て癩瘋の人に曰けるハ子ハ爾の罪
 赦されたりハ數人の學者こゝに坐し居しハ心中に謂けるハ七斯人の何故
 かく惡口を言ハ神にあらすして誰が罪を赦すとを得ん八イエス直に彼等
 が心中に斯の如き事を論するを自ら其心に知て彼等に曰けるハ爾曹お
 んぞ心中に斯る事を論する乎九癩瘋の人に爾の罪ハ赦されたりと言て起
 て爾の床を取て行と言て孰れ易や十それ人の子地にて罪を赦すの權威ある
 こゝを爾曹に知せんさて遂に癩瘋の人に十一我なんぢに告きて床を取な
 んぢの家に歸れと曰ければ十二その人たぢに起て床をとり衆人の前にい
 つ衆人みな駭き神を崇めて曰けるハ我儕いまだ斯の如こゝを見しこゝなし
 〇十三イエスまた海邊に往しに人々みな彼に來ければ是等を教ふ十四此よ
 り進てアルパヨの子レビといふ者の稅吏の役所に坐し居けるを見て我に
 從へと曰ければ彼たちて從へり〇十五斯てイエスその家にて食する時おほ
 くの稅吏罪ある人々イエス及び弟子と共に坐せり是等の者許多ありてイ

エスを殺さん直にヘロデの黨に相謀りぬ○セイエスその弟子と共に海邊に退しに多の人々ガリラヤより彼に從へり又エダヤハエルサレム
 イドマヤヨルダンの外またツロシシドンの邊より多の人々イエスの行し
 事を聞て彼に群り來る九イエス人々の群集に因て擁なやまさる事なから
 ん爲に小舟を我に備おけ其弟子に曰り十是イエス數多の人々を愈しに
 因て凡て疾ある人々手にて彼に捫んさて擁逼しが故なり十一また汚たる
 鬼かれを見て其前に俯伏さけびて爾ハ神の子なりと曰しを十二イエス彼等
 に我を揚すこと勿れと嚴く戒めたり○十三イエス山に登て其意に適ふ所
 の者を召しかば來りて彼に就り十四是に於て十二人を立て己と偕に置また
 教を宣傳る爲に遣し十五かつ病を醫し鬼を逐出すの權威を授く十六乃ち
 シモンをペテロと名け十七セペダイの子ヤコブと其兄弟ヨハ子この二
 人をボア子ルゲと名く之を譯バ雷の子なり十八又アンデレヒリポバル
 トロマイマタイトマスアルパヨの子ヤコブタツダイカナンの子シモン十九

又イスカリオテのエダ此のイエスを賣し者なり二十此等の者家に入しに
 多の人々また來り集りければ食する暇もなかりき二二その親屬きて彼の
 狂氣せりと言て之を撃んさて來る二三又エルサレムより下れる學者等も
 彼ハベルゼブルに憑れたり且鬼の王に藉て鬼を逐出すなりと曰り二三イエ
 ス彼等を召び譬を以て曰けるはサタンハ何でサタンを逐出し得んや二四も
 し國ものれに恃て分争ハ其國立べからず二五また家ものれに恃て分
 争ハ其家立べからず二六若サタン己に恃り起て分争ハ其家入て其家具を奪ん
 可からず反て終るなるべし二七誰にても勇士の家に入て其家具を奪ん
 せば先勇士を縛らざれば奪ふこと能はじ縛て後その家を奪ふべし二八わ
 れ誠に爾曹に告ん人の凡の罪を瀆す所の聖瀆ハ赦るべけれど二九聖靈を瀆
 す者ハ限なく赦さる可からず限なき刑罰に干らん三十斯いへる人々イエ
 スを惡鬼に憑たりと言しが故也○三一その兄弟と母と來て戶外にたち人
 を遣してイエスを呼しむ三二多の人々イエスを環て坐したりしが彼に曰

けるの視る爾の母と兄弟戶外に在て爾を尋り三イエス答て曰けるハ
 我母わが兄弟の誰ぞヤ三四斯て側に坐する人々を環視して曰けるハ我母
 わが兄弟を見よ三五それ神の旨に従ふ者の是わが兄弟わが姉妹わが母
 なり

第四節 イエスまた海濱にて教訓を始しに多の人々かれに集りければ彼舟
 に乗て坐し凡の人々の海に沿て岸に立リニかれ譬をもて多の事を彼等に教
 ふ教て曰けるハ二聽ふ種播もの播んさて出四播るさ或種ハ路の傍に遺し
 空の鳥きたりて之を食へり五或種ハ土うすき瘠地に遺しが土深からねハ
 直に萌出たれ六日出しかば曝れ根なきが故に枯たり七或種ハ棘の中に遺
 しが棘そだちて之を蔽ければ實を結ぶざりき八また或種ハ沃壤に遺しが其
 苗はえいでる蕃り實を結ること或ハ三十倍或ハ六十倍あるハ百倍
 せり九また彼等に曰けるハ耳ありて聽ゆる者の聽べし〇十衆人の居ざりし
 時イエスの側に在し者十二弟子と此譬を問しかば十一イエス彼等に

曰けるハ神の國の奧義を爾曹にハ知しを賜へど他の者にハ凡て譬を以て
 す十二是がれら視てき観ても見ず聽てき聽ても聽らす心を改めて其罪の
 赦を得ざらん爲なり十三また彼等に曰けるハ爾曹の譬を知ざるハ然ハ如
 何して凡の譬を識しを得んヤ十四それ播者の教を播なり十五道の播れて
 路の傍に遺しものハ人道を聽しとき直にサタン來て其心に播れたる
 道を奪取なり十六また瘠地に播れたるものハ人道を聽き直に喜びて
 之を受十七然ども己に根なきが故たゞ暫時のみ後道の爲に患難あるハハ
 迫害に遇さきハ忽ち礙く者なり十八又棘の中に播れたるものハ人こそバ
 を聽ども十九此世の思慮と貨財の惑また各様の情欲いり來りて道を蔽
 により終に實を結ざる者なり二十沃壤に播れたるものハ人道を聽て之を
 うけ或ハ三十倍あるハハ六十倍あるハハ百倍の實を結ぶ者なり〇二一
 また彼等に曰けるハ燈を持來りて斗の下あるハハ牀の下に置もの有んヤ
 之を燭臺の上に置ならず乎二三隱て明瞭にならざるハなく藏て露れざる

リ九イエス彼に爾の名は何と問しに答けるハ我儕もほまき故に我名をレギ
 ヨシ云十切に此土地より我儕を逐出す勿れヨイエスに求たり十一竝に多
 の豕の群山に草を食むたりしが十二凡の惡鬼われに求て我儕を遣て豕に入
 せよと曰ければ十三イエス直に彼等に許せり汚たる鬼その人より出て豕に
 入しバ約そ二千疋ほどの群はげしく馳くたり山坡より海に落て海に溺ぬ
 十四牧者も逃ゆきて此事を邑また郷村に告ければ衆人其ありし事を視
 んて出十五イエスに來りて惡鬼に憑れたる者すなはちレギヨンを持たり
 し人の衣服をつけ慥なる心にて坐し居けるを見て懼あへり十六此事を見し
 者も惡鬼に憑れたりし者の事豕の事を彼等に告ければ十七頓てイエス
 に其境を出んことを求め十八イエス舟に登んさせしとき惡鬼に憑たりし
 者も居んことを求め十九イエス許すして彼に曰けるハ爾の家に
 歸り親屬に往て主の爾に行し大なる事と爾を恤みし事を告よ二十彼ゆきて
 イエスの己に行たまへる大なる事をデカポリスに言揚しければ衆人みな駭

きあへり〇二一イエス舟に乘て復海の彼岸に濟しに大勢の人々彼に集る
 イエスの海に近をれり二三會堂の宰ヤイロこいふ人きたりイエスを見
 て其足下に伏三三切々に求ひけるハ我いさげなき女死る顔になりぬ
 之を救ん爲に來りて手を彼に按たまへ然バ女の生べし二四イエス彼と共に
 往き衆多の人々彼に従ひて擁あへり二五爰に十二年血漏を患たる婦
 あり二六此婦あほくの醫者の爲に甚だ苦められ其所有をも盡く費し
 けれども何の益もなく轉て惡かりしが二七イエスの事を聞て群集の中より
 彼の後に來その衣に捫れり二八是その衣にだに捫らば愈るべしと曰ばなり
 二九斯て血の漏るこ直にさまり既に疾いえし其身に覺たり三十イエス
 自ら能力の己より出たるを知らほせいの人々を顧みて曰けるハ我衣に捫
 りし者の誰なる乎三十一弟子かれに曰けるハ群集の人々の爾に擁あふを見て
 我に捫りし者の誰ぞと曰たまふ乎三十二イエスこの事を行る婦を見ん環視
 しければ三十三婦もそれ戰慄おのが身にせられし事をまり來て彼の前に俯伏

然にして往なんぢの疾いゆべし
 三三 イエス直に其告る所の言をきき會堂の宰に曰けるハ懼る勿た
 信ぜよ三七 イエスペテロとヤコブ及その兄弟ヨハ子の外ハ誰にも共に
 往こを許さざりき三八 既に會堂の宰の家に来て人々の忙亂いたく哭
 泣を見る三九 入て彼等に曰けるハ何ぞ忙亂かつ哭や女の死るに非た
 爾等を見よ四一 彼等イエスを嘲笑ふイエス凡の人々を出し女の父母
 其の從へ
 彼ハ年十二歳なり彼等ハなはだ駭きぬ四三 イエスこの事を人に知する勿れ
 之を隠す女よ我なんぢに命ず起よといふ義なり四四 直に女あきて行めり
 之殿く戒め又女に食物を與よと命じたり
 一安息日に及

ければ會堂にて教をばしむ衆人これを聞て奇み曰けるハ如何して此人に
 斯の如き事あるか誰より此智慧を授うて如此ふしきなる事をも其手より
 行か三彼ハ木匠に非やマリアの子ヤコブヨセエダとシモン兄弟にし
 て其姊妹も此に我儕と共に在に非ずや遂に人々かれに礙けり四 イエス彼等
 に曰けるハ預言者ハその故郷その親戚その室家の外に於て尊ばれざる
 ことなし五 イエス彼處にて患者に手を按たず數人を醫し外ふしきなる事を
 行こ能ざりき六 また彼等の信ぜざるを奇み遂に諸郷を經巡て教をなせり
 七 イエス十二の弟子を召て彼等を二人づつ遣さんとして之に惡鬼を逐出
 す權威を授け八 且かれらに命じけるハ一の杖の外ハ旅の用意に何をも携な
 ず九 旅袋糧食また金をも携す九た履をはき二の衣をきる勿れ十 また
 彼等に曰けるハ何處にても人の家に入バその所を去までハ其處に居十一 凡
 て爾曹を接すなんぢらに聽ざる者にハ其處を去とせ證のため足下の塵を
 拂ハ我まことに爾曹に告ん審判の日いたらバソドムとエモラハ此邑よりも

却て易かるべし十二弟子たち出て人々に悔改む可きことを宣傳ハ十三また
 多の悪鬼を逐出し又多の病る者に膏を沃て醫しぬ○十四イエスの名播り
 ければヘロデ王これを聞て曰けるハバプテスマを施しヨハ子死より甦
 れる故に奇異なる能をなす也十五或人ハ之をエリヤなりといひ或ハ往昔の
 預言者の如き預言者なりと曰十六ヘロデ之を聞て曰けるハ是れハ首斬し
 所のヨハ子也かれ死より甦りたる也十七糞にヘロデその兄弟ピリポの
 妻ヘロデヤの事に因て人を遣しヨハ子を捕て獄に繋けり蓋ヘロデが彼の婦
 を娶した十八ヨハ子諫て爾兄弟の妻を納ハ宜からずと曰るに因て也
 十九ヘロデヤ彼を怨て殺さん欲しハ能ざりき二十ヘロデハヨハ子を義
 かつ善なる人ぞ知て彼を敬ひ彼を保護せんに聞て多の事を行ひ且喜びて
 彼に聽こさせり二一斯てヘロデその誕生の日もろくの大臣千人の
 長およびガリラヤの尊き人々に宴宴をなせる機會の日いたりければ二三ヘ
 ロデヤの女きたりて舞をなしヘロデ其席に列れる人々を樂ましむ王その

女に曰けるハ何にても我に求ヘ爾が望こころの者ハ我なんぢに與ふべし
 二三又彼に凡そ爾が求るものハ我が領分の半に至ることも爾に與ふべし
 二十四女いでて其母に何を求へべき乎と曰ければ母乃ちバプテスマのヨハ
 子の首と曰り二五女たち急ぎ王にきたり求てバプテスマのヨハ子が首
 を盆に載て即時に我に賜へと曰二六王甚だ愛けれども既に誓たるも同席
 の者の故をもて之を拒むことを欲す二七王たちヨハ子の首を携來れ
 る命じて兵卒を遣しければ彼ゆきて獄に於て之を斬二八其首を盆にのせ携
 來りて女に與ふ女ハ之を其母に與たり二九ヨハ子の弟子等この事を聞て來
 り其屍を取て墓に葬りぬ○三十使徒等イエスに集りて行へる事を教し
 事さを悉く彼に告三十一イエス彼等曰けるハ爾曹衆を避て我と偕に
 暫く寂寞こころに往て休むべし是往來のもの多くして食する暇も無ししが
 故なり三二かれら人を避舟にて寂寞こころに往り三三其往を見て衆人おほ
 くイエスを去り諸邑より歩行にて趨り彼等の往んこする所へ先ち往てイエ

三に集れり○三四イエス出て多の人を見に彼等ハ牧者なき羊の如き者なる
 に因て之を憫み許多の事を教はじめぬ三五時すでに暮景になりければ其弟
 子かれに來いひけるハ此ハ寂寞なところにして時も既晩し三六衆人の食ふべ
 き物なきが故に其自ら四周の鄉村に往てパンを市んが爲に彼等を去しめ
 給へ三七イエス答けるハ爾曹これに食を與ふ弟子かれに曰けるハ我儕ゆき
 て銀二百のパンを市ければらに與て食しむ可か三八イエス彼等に曰けるハ
 パンは幾何ある往て視よ彼等みて其數を計り五のパンと二の魚ありと答ふ
 三九イエス衆の人を組々にして青草の上に坐しめよと命じければ四十或
 ハ百人或ハ五十人づつ列坐せり四一イエスその五のパンと二の魚をこ
 り天を仰ぎ謝してパンをわり弟子に與て人々の前に陳しむ又一二の魚を毎
 人に分與ぬ四二衆人みな食て飽四三そのパンと魚の餘屑を拾しに十二の
 筐に盈たり四四パンを食たる男もはよそ五千人なりき○四五直にイエスその
 弟子を強て舟に乗むかふの岸なるベテサイダへ先わたらしめ己ハ衆人を

歸しむ四六衆人を歸しよのち祈禱の爲に山に往り四七日暮て舟ハ海の中に
 在イエスハ獨り陸に居り四八風逆ふに因て弟子等の舟を掉に勢たるを見
 て曉の四時ごろイエス海の上を履きたり彼等を過んさせしに四九弟子そ
 の海を履るを見て變化の物ならんと思ひ叫びたり五十蓋弟子みな之を見て
 懼しむ故なりイエス直に彼等に語りて曰けるハ心安かれ我なり懼るハ
 ここと勿れ五一遂に舟に登しむハ風やみぬ彼等心の中に駭き異めること甚
 だし五二是その心の愚頑に因てパンの奇跡をも覺ざりし也○五三既に濟ゲ
 子サレさいふ地に到て舟泊せり五四彼等舟より出しに頼て人々イエスを
 知て五五徧く其四方の地へ馳ゆき病る者を床の儘にて昇ひイエスの在す處
 處を聞出して之に就り五六凡そイエスの至るころ或ハ郷あるハ邑ある
 ハ村その街市に病る者を置て彼に其衣の裾にだに捫らせ給へと求り乃
 ち捫るはごの者ハみな愈たり

百十三
 馬可傳第七章
 自四十六至七章一節
 百十三

集り二彼の弟子の中に潔らざる手即ち盥ざる手にてパンを食する者ありし
 を見て之を責めたり三蓋パリサイの人とユダヤの人々みな古の人の遺
 傳を守りて其手を潔あらはざれば食せず四市より歸きたりて盥されば亦食
 せず此ほか杯碗鍋および牀を洗など多端の遺傳を受守れり五是に於て
 パリサイの人と學者等イエスに問けるハ爾の弟子ハ何ゆゑ古の人の遺
 傳に遵はずして盥ざる手を以てパンを食する乎六イエス答て彼等に曰け
 るハイザヤハ偽善者なる爾曹を指てよく預言せり其録し言に此民ハ唇
 にて我を敬へども其心ハ我に遠かり七人の誠を教を爲て徒らに我を拜
 すと曰り八夫なんぢらハ神の誠を棄て人の遺傳を守れり即ち鍋杯を
 洗ふはく此の如き事を行ふ九また彼等に曰けるハ爾曹ハ實に己の遺傳を守
 るに能も神の誠を棄る者なり十モーセ曰けるハ爾の父母を敬へ又父
 あるひハ母を嘗る者ハ殺るべし十一然も爾曹ハ曰もし人父あるひハ母に
 對て爾を養ふべき物ハコルバン即ち禮物なりと曰事すとも可也十二

而して人の其父あるひハ母の爲に何をも行事を爾曹許す十三斯なんぢら
 ハ其教る所の遺傳をもて神の道を廢す又もはく此類の事を行ふ○十四
 イエスまた衆庶を召て彼等に曰けるハ爾曹みな我言を聞て悟れ十五外よ
 り人に入ものハ人を汚すこと能はず然も人より出るものハ人を汚す也十六
 聽ゆる耳ある者ハ聽へし○十七イエス衆庶を離れて室に入しに其弟子たさ
 への意を問けバ十八彼等に曰けるハ爾曹もなほ悟ざるか凡そ外より人に
 入もの人汚し能はざる事を知ざる乎十九蓋その心に入す腹に入て厨に
 遺すなハち食ふ所のもの潔れり二十又曰けるハ人より出るものハ是人を汚
 す二一人の心より出るものハ惡念姦淫苟合兇殺三盜竊貪婪
 惡惡詭譎好色嫉妬謗讟驕傲狂妄なり二三是等の惡行ハみ
 な内より出て人を汚すもの也○二十四イエス此を去てツロミシドンの境にゆ
 き家に入て入に知れざらん事を欲しが隠れ得ざりき二十五その惡鬼に憑たる
 幼き女を有る婦イエスの事を聞て來り其足下に伏たるに因てなり二六

この婦ハサイロビニケに生れしギリシヤの者なりしが悪鬼を其女より逐出し給はん事をイエスに求めしニイエス彼に曰けるハ先兒女に飽しむべし兒女のパンを取て犬に投るハ善らすニ婦言たへて曰けるハ主よ然されど犬も案の下に在て兒女の遺屑を食ふ也ニイエス婦に曰けるハ此言に因て歸れ惡鬼ハ爾の女より出たり三十婦その家に歸しに惡鬼既に出て牀に女の臥たるを見る○三イエスツロシドンの地を去てデカポリスの地を過ガリラヤの海に至り三三人々蟹の訥る者をイエスに携來りて手を接給はん事を求めしが三イエス衆人を離れ之を外へ携ゆき指を其耳にさしいれ又唾して其舌に捫り三且天を仰て歎じ其人に對てエツパタと曰これを得の啓よとの義なり三五直に其耳ひらけ舌の絡ゆるみて正く言へり三六イエス之を人に告る勿れと彼等を戒むれば戒むるは益言揚しぬ三七衆人はなれたしく駭きて曰けるハ此人の行し所こそごとく善あるひハ聲を聲えさせ或ハ啞者を言ひしめたり

第八章

當時あつまれる人々甚だ多りしが何の食物も有ざりければイエス其弟子を召て曰ければニ我この多の人々を憐む既に三日われと共に居しゆゑ今にも食物なし三もし飢しまゝ其家に歸さば途間にて餓ん其中に遠處より來れる者あればなり四その弟子かれに答けるハ此野にて何處よりパンを得この人々を飽しめん乎五イエス彼等に問けるハパン幾何あるや七と答ふ六イエス人々に命じて地に坐せしめ七のパンを取て謝し之をわり人々の前に陳しめんが爲その弟子に與ければ即ち人々の前に陳り七また小き魚を些須もてり之をも祝して人々の前に陳さ曰八人々これを食て飽その餘屑を七の籃に拾り九之を食る者凡そ四千人なり乃ちイエス之を歸しぬ○十イエス直に其弟子と共に舟に乗てタルマヌタの方に往しに十一パリサイの人いでて彼を試んがため天よりの休徴を求めて詰はじむ十二イエス心の中に深く歎息して曰けるハ此世の人なんぞ休徴を求るや誠に我なんぢらに告ん休徴ハ此世の人に必ず與られじ十三イエス彼等を離

れて復舟に乗むるの岸に濟れり○十四さて弟子パンを携ふることを忘れたる一のパンのみ舟に有き十五イエス彼等を戒めて曰けるハ戒心してパリサイの人の麪酵をへロデの麪酵を慎めよ十六弟子たがひに論じて曰けるハ是パンを携へざりし故ならん十七イエス之を知て彼等に曰けるハ何ぞ互にパンを携へざりし事を論するや未だ悟ざるや爾曹の心なほ頑か十八目ありて視ざるや耳ありて聽えざる乎また覺ざる乎十九我五千人に五のパンを壁あたへし時その餘屑を幾筐ひるひしや答けるハ十二なり二十又四千人に七のパンを壁あたへし時その餘屑を幾筐ひるひしや答けるハ七なり二十一イエス彼等に曰けるハ何ぞ悟ざる乎○三十二イエスペテロサイダに至ければ人々警者を携來りて之に手を按たまへん事を求り三十三イエス警者の手を執て村の外へ携出その目に唾して手を彼に按きひけるハ何ぞ視るや三十四警者目を舉て曰けるハ我この人々の歩行を見に樹の如し三十五遂にイエスまた兩手を彼の目に按その目を舉させければ乃ち愈て庶物あきらかに視たり三六イエ

ス彼を其家に歸らせ曰けるハ此村に入なかれ且この村人にも告る勿れ○三十七イエスその弟子と共にカイザリヤピリビの諸村へゆく途間にて其弟子に問て曰けるハ衆人の我を曰て誰とする乎三十八答けるハ或人のバプテスマのヨハ子或人のエリヤ或人の預言者の一人なりと曰り三十九イエス彼等に曰けるハ爾曹の我を曰て誰とする乎ペテロ答けるハ爾ハキリストなり四十イエス彼等を戒めて我事を誰にも告る勿れと命じたり○三十一また人の子の必ず多の苦難をうけ長老祭司の長學者どもに棄られ且殺されて三日の後に甦ることを彼等に示し始たまへり三十二明に之を示し給しかばペテロイエスを援て諫んさせしに三十三イエス回顧その弟子を見てペテロを戒め曰けるハサタンよ我後に退け爾ハ神の情を思す反て人の情を思ふ○三四衆人其弟子を共に召て彼等に曰けるハ若し我に従はんご欲ふ者ハ己を棄その十字架を負て我に従へ三五その生命を全うせんごする者ハ之を喪ひ我ため且福音の爲に生命を喪ふ者ハ之を得べければ也三六もし人

全世界を得ても其生命を喪はざる何の益あらん乎三七 また人何をもて其生命に易んや三八 姦惡なる此世に於て我を我道を恥る者を人の子も亦聖使と共に父の榮光をもて來る時之を耻べし

第九節

イエスまた彼等に曰ける我まことに爾曹に告ん此に立ものの中に神の國の權威をもて來るを見まで死ざる者あり〇三さて六日の後イエ

スペテロヤコブヨハ子を伴ひ人を避て高山に登り給ひしが彼等の前にて其容貌がはり三其衣がどやま白き甚だしくして雪のごとく世上の布

漂も斯しるく爲能はざるべし四 エリヤとモーセと共に彼等に現れてイエ

スと語をれり五 スペテロ答てイエスに曰けるハラビ我儕ここに居る善われら

に三の處を建せ給へ一の主のため一ハモーセのため一ハエリヤの爲にせん

六此の其謂をるを知ざりしなり彼等いたく懼しに因て七 斯て雲彼等を蔽ひ

聲雲より出て曰ける此の我が愛子なり之に聽べし八 頓て弟子環視ければ

イエスと己の外一人をも見ざりき〇九 山を下る時にイエス彼等に命て人

の子の死より甦る迄ハ爾曹の見し事を人に告る勿れと曰り十 弟子等この言を守り十一 互に論じ曰ける死より甦ると云ハ何の事か 十一 彼等イエ

スに問て曰けるハエリヤの前に來るべしと學者の曰るハ何ぞや 十二 イエ

ス答て曰けるハ實にエリヤの前に來りて萬事を復振また人の子に就てハ其各

様の苦難を受かつ輕慢らるる事を書するされたり十三 然ど我なんぢらに告

んエリヤ既に來しに彼に就て録されたりし如く人々意の任に之を待へり

十四 イエス弟子等の所にきたり多の人々の彼等を環圍るる學者たちの

彼等と論じをりしを見たり十五 衆人たづちに彼を見て駭き趨りて禮をな

せり十六 イエス學者に問けるハ弟子と何事を論する乎 十七 衆人のうち一

人こたへけるハ師よ我ものいハ惡鬼に憑れたる我子を爾に携來れり 十八

惡鬼の憑時ハ彼傾跌され沫をふき齒を切て疲勞はつる也これを逐出さん

ここを我なんぢの弟子に請しき彼等能ざりき十九 イエス彼等に答て曰け

るハ臆信なき世なる哉いつまで我なんぢらと共に在んや何時まで我なんぢ

らを忍んや彼を我に携來れ 二十 彼等その子を携來りしに惡鬼イエスを見て
 忽ち彼を拘擥しむ彼地に仆れ輾轉て洗を出ぬ 二一 イエスその父に問ける
 幾何時より如此なりしや父いひける 少 時より也 二三 惡鬼去ばく
 之を火の中あるひの水の中に投入て殺んさせり爾もし爲こを得ば我儕を
 憫みて助よ 二三 イエス彼に曰ける 爾もし信する事を得ば信する者に於て
 爲あたへざる事なし 二四 其子の父たどちに聲をあげ涙を流して曰ける 主
 よ我信す我が信なきを助たまへ 二五 イエス衆人の 趨集るを見て惡鬼を
 叱いひける 啞にして難なる惡鬼よ我なんちに命す出て再び之に入なかれ
 二六 惡鬼さけびて大に彼を拘擥しめて出しかば彼死たる者の如なりぬ人々
 これを已に死り云 二七 イエスその手を執て扶ければ彼たてり 〇 二八 イエ
 ス家に入しに其弟子ひそかに問ける 我儕これを逐出こ能ざりし何
 故ぞ 二九 イエス彼等に曰ける 此族の新舊斷食に非れば逐出こ能
 ざる也 〇 三十 彼等こを去てガリラヤを過この事をイエス人の知を欲ざり

き三一 蓋その弟子に教て人の子の手に付され彼等に殺され殺されての
 ち第三日に甦るべしと曰たまふが故なり 三二 其とき弟子等この言を曉ら
 す亦問こを恐たり 〇 三三 偕イエスカペナワンに至り室に居て弟子に問け
 る 爾曹途間にて何を互に論ぜし乎 三四 弟子默然たり是途間にて互に論じ
 誰が大ならんとの争ありければ也 三五 イエス坐して其十二を召かれらに
 曰ける 若し首たらん欲ふ者の凡の人の後さなり且すべての人の使役
 とならん 三六 また孩提を取て彼等の中に立て之を抱き彼等に曰ける 三七
 凡そ我名の爲に斯のこき孩提の一人を接る者即ち我を接るなり又われ
 を接る者即ち我を接るに非ず我を遣し者接るなり 〇 三八 ヨハ子彼に
 答て曰ける 師よ我儕に従へざる者の爾の名に托て惡鬼を逐出せるを見し
 が我儕に従へざる故これを禁たり 三九 イエス曰ける 其人を禁る勿れ蓋わ
 が名により異なる能を行ひて輕易しく我を誹得る者あらじ 四十 我儕に
 敵はざる者我儕に屬者なり 四一 爾曹をキリストに屬者として我名の爲に

一杯の水にても爾曹に飲する者ハ我まこと爾曹に告ん其人ハ賞を失はざる也
 四二 また凡そ我を信する小子の一人を礙する者ハその首に磨を懸られて海に投入られん方その人の爲になほ善るべし
 四三 若し爾の一手なるちを礙さば之を斷され兩手ありて地獄すなほち滅ざる火に往んよりハ
 殘缺にて永生に入ル爾の爲に善こと也
 四四 彼處に入もの蟲つきす火きえず
 四五 若あんちの一足なんちを礙さば之を斷され兩足ありて地獄すなほち滅ざる火に投入られんよりは跛にて永生に入ル爾の爲に善なり
 四六 彼處に入もの蟲つきす火きえず
 四七 もし爾の一眼なんちを礙さば之を
 抉いだせ兩眼ありて地獄の火に投入られんよりは一眼にて神の國に入ル
 爾の爲に善なり
 四八 彼處に入もの蟲つきす火きえず
 四九 蓋すべての人の鹽をつくる如く火を以せられ凡の祭物の鹽をもて鹽つけらる
 五十 鹽ハ善ものなり然と鹽もし其味を失い何をもて之に味を加んや
 爾曹心の中に鹽を有て又たがひに睡み和ぐべし

第十節

イエス此を去ヨルダンの外を経てエダヤの境の内に来しに多の人々また彼に集りければ恒の如く彼等に教誨を爲たまへり
 二パリサイの人來て彼を試み問ける人その妻を出す可か
 三答て曰けるハモーセハ爾曹に何ぞ命ぜし乎
 四彼等曰けるハモーセハ離縁狀を書與へて之を出すことを許せり
 五イエス答て彼等に曰けるハモーセ爾曹の心つれなきに因て此命を爲たる也
 六 然と開闢のはじめ神人を男女に造り給へり
 七 是故に人のその父母を離その妻に合て二人のもの一體と成べし
 八 然ば二には非す一體なり
 九 是故に神の耦せ給へる者は人これを離すべからず
 十 室に在て弟子等また此事を問ければ
 十一 イエス彼等に曰けるハ凡そ其妻を出して他の婦を娶る者ハ其妻に對して姦淫を行ふなり
 十二 また婦もし其夫を出して他に嫁がば此婦も姦淫を行ふなり
 十三 イエスに撫れんがため人々孩提を携來ければ弟子等その携來れる者を責めたり
 十四 イエス之を見て怒を舎かれらに曰けるハ孩提を我に來せよ
 彼等を禁る勿れ神の國に居もの

ハ斯の如き者なり十五 誠に我なんぢらに告ん凡そ孩提の如くに神の國を承
 ざる者ハ之に入ることを得ざる也十六 即ち彼等を拘て手をその上に按これ
 視せり○十七 イエス途に出けるに一人はしり來りて跪き問けるハ善師よ
 我がきりなき生命を嗣ために何を行べき乎十八 イエス彼に曰けるハ何ぞ我
 善と稱や一人の外に善者ハなし即ち神なり十九 誠ハ爾が識ることナリ
 姦淫する勿れ殺なけれ盜なけれ 妾の證を立る勿れ 拐 騙 なけれ 爾の父
 母を敬へ二十 答て曰けるハ師よ是みな我が幼きより守れるもの也二一
 イエス彼を見て愛み曰けるハ爾は一を虧ゆきて其所有をうり貧者
 に施せ然ば天に於て財あらん而して來り十字架を操て我に従へ二三 彼の
 言に因て裏み盡て去め彼の大なる産業を有る者なればなり二三 イエス環
 視てその弟子に曰けるハ財を有る者の神の國に入ら如何に難かな二四 弟子
 この言を駭けりイエス復たへて彼等に曰けるハ小子よ 財を恃む者の神
 の國に入ら如何に難かな二五 富者の神の國に入ら如何に難かな

ハ却て易し二六 弟子たち甚く駭き互に曰けるハ然ば誰が救を受べき乎
 二七 イエス彼等を見て曰けるハ是人にハ能ざる所なれど神に於ては然らず神
 は能ざる所なければ也二八 是に於てペテロ彼に曰けるハ我儕一切を捨て
 爾に従へり二九 イエス答て曰けるハ誠に爾曹に告ん我と福音の爲に家
 宅あるひハ兄弟あるひハ姉妹あるひハ父あるひハ母あるひハ妻あるひハ
 兒女あるひハ田疇を舍る者ハ三十 この世にて百倍を受ざる者なし即ち家
 宅 兄弟 姉妹 母 兒女 田疇を迫害と共に受また後の世にハ窮なき生を受ん
 三十一 然ど多の先なる者ハ後になり後なる者ハ先になるべし○三二 さて彼等
 エルサレムに上る途間 イエス弟子に先ち行ければ彼等おごるき且おそれ
 て從へりイエス十二を伴ひて將に己に及んとする事を彼等に告給ひける
 ハ三三 我儕エルサレムに上り人の子ハ祭司の長と學者等に付れん彼等こ
 れを死罪に定め異邦人に付し三四 又これを嘲弄し鞭ち唾し且これを殺ん
 斯て第三日に甦るべし○三五 ぜベダイの子ヤコブとヨハ子イエスに來て

曰けるハ師よ我儕が求る事を願くハ我儕に成たまへ三六 彼等に曰けるハ爾
 曹に我が何を成人事を欲ふや三七 彼等いひけるハ 爾榮を得んとき我儕
 の一人を其右に一人を其左に坐せしめよ三八 イエス彼等に曰けるハ爾曹
 ハ求ふ所を知らず爾曹わが飲さる所の杯を飲わが受る所のパテスマを受
 得や三九 彼等いひけるハ能すべしイエス彼等に曰けるハ爾曹ハ實に我が飲
 さる所の杯を飲また我が受る所のパテスマを受べし四十 然し我が右左
 に坐する事ハ我が予ふべきに非たし備られたる者ハ予らるべし四一 十人の
 弟子これを見てヤコブとヨハ子と憤れり四二 イエス彼等を召て曰けるハ
 異邦人の君と見る者ハ其民を治また大なる者どもハ彼等の上に權を執これ
 爾曹が知さる所也四三 然し爾曹の中にてハ然す可らず爾曹のうち大ならん
 者欲ふ者は爾曹に役る者ならん四四 また爾曹のうち首たらん者欲ふ者
 ハ凡の人の僕ならん四五 蓋人の子の來るも人を役ふ爲に非ず反て人に役
 され且もほくの人の代その命を予て贖ならん爲なり四六 斯て彼等

エリコに至りイエスその弟子と大なる群集の人々と共にエリコを出る時
 テマイの子なるバルテマイといふ警者路の旁に坐して乞ひけるが四七 ナ
 ザレのイエスなりと聞て呼り曰けるハダビデの裔イエスよ我を恤み給へ
 四八 多の人々これに緘黙と戒めけれども愈よばりてダビデの裔よ我を
 恤み給へと曰ければ四九 イエス立止りて彼を召し命じければ人々警者
 を召て彼に曰けるハ心を安んぜよ起イエス 爾を召す五十 警者その表衣を棄
 ちてイエスに來れり五一 イエス答て彼に曰けるハ爾われに何を爲れん
 欲ふや警者いひけるハ主よ見なん事を欲ふ 五二 イエス彼に曰けるハ往な
 んちの信仰なんちを救へり直に彼みゆることを得イエスに従ひて路を行り
 去る時イエス二人の弟子を遣さんとして二彼等に曰けるハ爾曹對面の村に往
 かしこに入らば頼て人の未だ乗ざる所の繫ける驢馬の子を見べし其を解て牽
 來れ三もし誰が爾曹に何ゆゑ然する乎といふ者あらば主の用なりと曰さら

六直に其を此に遣るべし 四彼等ゆきて門の外の岐路に繋げる驢馬の子を見
 て之を解ければ 五其處に立る人々のうち或人かれらに曰けるハ此驢馬の子
 を解て如何する乎 六弟子イエスの命せし如く曰しかば遂に許たり 七弟子驢
 馬の子をイエスに牽きたりて己が衣を其上に置ければイエスこれに乗り入
 り 八人々もほくハ其衣を路上に布あるひは樹の枝を伐て路上に布 九かつ前に
 ゆき後に従ふ人々呼り曰けるハホザナ主の名に託て來る者ハ福なり 十
 主の名に託て來る我儕の父なるダビデの國ハ福なり 至 上處にホザナ
 十一 十二 十三 十四 十五
 十一 イエスエルサレムに至り聖殿に入て悉くみまわし時すでに暮に
 及ければ 十二 偕にベタニヤに出往り 十三 明日かれらベタニヤより出
 時イエス饑たり 十四 遙に葉ある無花果の樹を見てその樹に何か有らば
 來しに葉の他なにも見ざりき 是は無花果樹の時に非れば也 十四 イエスこの樹
 に對て今日より 永久も爾の果を食ふ人あらざれといふ弟子これを聞き 十五
 十五 彼等エルサレムに至りイエス殿に入てその中に在る賣買する者を殿よ

十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

の過を免し給へし○二七 彼等またエルサレムに至りイエスを殿を行るとき
 祭司の長學者および長老等きたりて二八 彼に曰ける何の權威を以て
 此事を行や誰が此事を行べき爲に爾に此權威を與しや二九 イエス答て彼
 等に曰ける我も一言なんぢらに問ん我に答よ然ば我なんぢらに何の權威
 を以て之を行といふ事を告べし三〇 ヨハ子のバプテスマハ天よりか人なり
 か我に答よ三一 彼等たがひに論じ曰ける若し天より云ば然らば何故かれ
 を信ぜざるかと曰ん三二 もし人より云ば彼等民を懼たる也その民みなヨ
 ハ子を預言者爲に因三三 遂に答て知ずと曰イエス答て曰ける我も何
 の權威を以て之を行や爾曹に語じ

○二七 彼等またエルサレムに至りイエスを殿を行るとき
 祭司の長學者および長老等きたりて二八 彼に曰ける何の權威を以て
 此事を行や誰が此事を行べき爲に爾に此權威を與しや二九 イエス答て彼
 等に曰ける我も一言なんぢらに問ん我に答よ然ば我なんぢらに何の權威
 を以て之を行といふ事を告べし三〇 ヨハ子のバプテスマハ天よりか人なり
 か我に答よ三一 彼等たがひに論じ曰ける若し天より云ば然らば何故かれ
 を信ぜざるかと曰ん三二 もし人より云ば彼等民を懼たる也その民みなヨ
 ハ子を預言者爲に因三三 遂に答て知ずと曰イエス答て曰ける我も何
 の權威を以て之を行や爾曹に語じ

首に傷つけ辱しめて返しむ五又ほかの者を遣しに之をも殺せり又ほか
 多遺しに或の撲あるひに殺しぬ六爰に一人の愛子ありけるが此わが子
 の敬ふならんと曰て遂に其子を遣しに七 農夫等たがひに曰ける此の嗣
 子なり率これを殺さん然らば産業の我儕の者ならん八乃ち執へて之を殺し
 葡萄園の外に棄たり九然らば葡萄園の主人なにを爲べきか彼きたりて農
 夫等を打滅し葡萄園を他の人に託ふべし十 工匠の棄たる石の屋の隅
 の首石と成り十一 これ主の成たまへる事にして我儕の目に奇とする所なり
 十二 彼等この譬の已等を指て語れり十三 知イエス
 を執んごせしかども衆人を懼てイエスを去ゆけり○十三 彼等イエスを其
 言に由て陥れんとしてパリサイの人とヘロデの黨の中より數人を遣せ
 り十四 遣されし者等イエスの所に来り曰ける師よ爾の眞なる者なり又
 誰にも偏らざる事を我儕の知その貌に依て人を取す誠を以て神の道を教れ
 ばなり眞をカイザルに納るの宜や否われら納べきか納ざる可や十五 イエス

その實ならざるを知て彼等に曰けるハ何ぞ我を試るヤデナリを携來りて我に觀よ十六 携來りければイエス彼等に曰けるハ此像と號ハ誰か答てカイザルなりと曰十七 イエス曰けるハカイザルの物ハカイザルに歸し又神の物ハ神に歸すべし彼等これを奇とせり十八 復生なしと曰なせるサドカイの人きたりてイエスに問けるハ十九 師よ我儕にモーセが書遺るハ人の兄弟もし子なくして妻を留し死ぶその兄弟の妻を娶て兄弟の裔を立べしと二十 爰に七人の兄弟ありしが長子妻をめぐり子なくして死二 第二の者これを娶また子なくして死第三もまた然す三 七人みな之を娶たれど子なく終にハ此婦も死り三 後生の時かれら甦らば此婦ハ誰の妻と爲べきヤ蓋七人あなじく之を娶たれば也 二四 イエス答て彼等に曰けるハ爾曹ハ聖書をも神の能をも知るに因て謬れるならず乎 二五 それ死より甦る時ハ娶す嫁がす天にある使者等の如し 二六 死し者の甦る事に就てハモーセの書棘中の篇に神かれに語て我ハアブラハムの神イサク

の神ヤコブの神なりと曰たまひしを爾曹讀ざる乎 二七 神ハ死し者の神に非ず生る者の神なり爾曹大に謬れり 二八 學者の一人彼等の議論を聞てイエスの善これに應しを知きたり彼に問けるハ諸 誠のうち何れ首なる乎 二九 イエス彼に答けるハ諸 誠の首ハイスラエルよ聽け主なる我儕の神ハ即ち一の主なり 三〇 なんぢ心を盡し精神を盡し 意を盡し力を盡し主なる爾の神を愛すべし 是 誠の首あり 三一 第二も亦これに同じ己の如く爾の隣を愛すべし 斯より大なる 誠なし 三二 學者イエスに曰けるハ善かな師よ 爾神ハ即ち一にして他に神なしと曰しハ誠なり 三三 また心を盡し智慧を盡し精神を盡し力を盡して之を愛し又おのれの如く隣を愛するハ諸の燔祭と禮物よりも愈るなり 三四 イエス彼が道理を知る答を見て之に曰けるハ 爾神の國より遠からず此のち敢てイエスに問者なかりき 三五 イエス殿に在て教誨を爲る時かれらに答て曰けるハ何ぞ學者ハキリストをダビデの裔といふ乎 三六 夫ダビデ聖靈に感じて自いふ主わが主に曰

けるハ我なんぢの敵を爾の足登さなすまで我右に坐せよ三七如此グビ
 テ自ら彼を主と稱たり然ハ如何で其裔ならんや多の人々喜びてイエス
 に聞ここを爲り〇三八イエス教をなせる時かれらに曰けるハ長き衣服を
 衣てあるき市上にて人の問安三九會堂の高坐筵席の上座を好四十また蔭
 婦の家を呑いつりて長き祈をする學者を謹防よ彼等の審判かること尤
 も重し〇四一イエス賽銭の箱に對て坐し人々の錢を箱に入るを見たまひし
 に多の富者の多く投入たり四二一人の貧き廢婦きたりてレプタ二を投入
 る此ハ四厘ほどに直れり四三イエスその弟子を召て彼等に曰けるハ誠に我
 なんぢらに告ん箱に投入し凡の人々よりも此貧き廢婦の多く投入たり
 四四その彼等の皆その餘れる所を以て入この婦ハその不足さるより其す
 べての所有すなりち全業を盡く入たれば也

第三十三節

イエス聖靈より出けれバ一人の弟子かれに曰けるハ師よ觀たま
 へ此石この殿宇いかに盛んならず乎イエス答て曰けるハ爾曹この大な

る殿宇を見つゝ一の石も石の上に圯れずしてハ遺じ三イエス橄欖山にて殿
 宇に對ひ坐し給しにペテロヤコブヨハネアンデレ竊に問けるハ何の時
 此事あるや又すべて此事の成ん時ハ如何なる兆あるや我儕に告たまへ五
 〇イエス答て彼等に曰けるハ人に欺かれざるやう慎めよ六蓋おほくの人わ
 が名を冒來り我ハキリストなりと曰て多の人を欺くべし七爾曹戰さ
 戰の風聲を聞き懼るる勿れ是等の事はみな有べきなり然も末期ハ未だ
 至らず八民ハ起て民をせめ國ハ國を攻また隨在地震あり饑饉變亂あり
 是等の苦難の始なり九爾曹みづから慎めよ蓋なんぢら集議所に付され又
 會堂にて撞りたれ且證を爲んため我事に因て候ふよび王の前に曳立ら
 るべし十而して福音のまづ萬民に宣傳ざるを得ず十一人なんぢらを曳解
 さるべし以前より何を言ふと慮また思煩ふ勿れ惟なんぢら其とき賜ふ所の
 言を曰へし蓋ものいふ者ハ爾曹に非ず聖靈なり十二兄弟ハ兄弟を死に
 付し父の子を付し亦子ハその父母に逆ひて之を死しめ十三又なんぢらハ我

名に縁て凡の人に憎るべし然終まで忍ぶ者ハ救るるを得ん十四 預言
 者ダニエルが言し所の殘暴にくむ可も少し立べからざる所に立を見ん(讀
 者よく思へし)其時エダヤに在る者ハ山に避れよ十五 屋上に在る者ハ室に
 下る勿れ又物を取んさて其家に入なけれ 十六 田に在る者ハ其衣服を取んさ
 て歸る勿れ 十七 其日に孕る者ハ乳を哺する婦ハ禍なる哉 十八 なんぢら
 冬にぐることを免れん爲に祈れ 十九 其日に患難あらん此の如き患難ハ神の
 物を創 造たまひし開闢より今に至るまで有ざりき亦後にも有じ 二十
 もし主その日を減少し給すべ二人だに救るる者なし然主の選たまへる所
 の選れし者の爲に其日を減少し給べし 二一 其時もしキリスト此にあり彼
 に在る爾曹にいふ者あるも信する勿れ 二三 その偽キリスト偽預言者も
 こりて休徴と奇能を行ひ選れたる者をも欺くことを得べ欺くべけれ
 ば也 二三 なんぢら慎よ我預しめ爾曹に盡く之を告 二四 厥時この患難の
 のち日ハ晦く月ハ光を失ひ 二五 天の星ハち天の勢ハ震ふべし 二六 其とき

人々ハ人の子の大なる權威と榮光を以て雲の中に現れ来るを見ん 二七 ま
 た其とき人の子その使者等を遣して地の極より天の極まで四方より其選
 れし者を集むべし 二八 夫なんぢら無花果樹に由て譬を學その枝すでに柔
 かにして葉めぐめば夏の近を知 二九 此の如く爾曹も凡て是等の事を見ん時
 ちかく門口に至るぞ知 三十 われ誠ニ爾曹に告ん是等の事 三十一 成ま
 での此民ハ逝ざるべし 三二 天地ハ廢ん然我言ハ廢じ 三三 其日その時を
 知者ハ惟わが父のみあり天にある使者も子も誰も知者なし 〇 三三 此日いつ
 れの時きたる乎を知らざれば爾曹つゝしみて目を醒し祈禱せよ 三四 それ人の
 子の遠行せんとして其權を僕等に委ね 各に爲べき事を任せ又爾曹に
 意らす守れと命じて家をさる人の如し 三五 是故に爾曹も意らすして守れ蓋
 家の主人あるひハ夕あるひハ夜半あるひハ 鷄鳴時あるひハ早晨に歸る
 かな知ざれば也 三六 恐くハ不意の時きたりて爾曹が 眠るを見ん 三七 わ
 れ意らすして守れと爾曹に告るハ即ち凡の人に告るなり

計を以てイエスを執へ殺さんとし二日ける祭の日には爲べからず恐る民の中に亂起らん○三イエスベタニヤの癩病人シモンの家にて食し居たまへる時ある婦蠟石の盒に價貴きナルドの香膏を盛て携來り其盒を裂りイエスの頭に膏を沃たり四或人々互に怒を含ひけるハ此膏を糜すハ何故や五之を糜ぶ三百有奇のデナリを得て貧者に施すことを得ん此婦を言告む六イエス曰けるハ彼に係る勿れ何ぞ此婦を擾すや我に善事を行へる也七貧者ハ常に爾曹と偕に在ハ爾曹意に隨せて彼等を濟ることを得べし我ハ常に爾曹と偕に在す八此婦の力を盡して作り蓋あらかじめ我を葬る爲わが身に膏を沃しなり九我まことに爾曹に告ん天の下いづくにても此福音を宣傳らるる處にハ此婦の行し事も亦その記念の爲に言傳らるべし十さて十二の一人なるイスカリヤテのエズイエスを付さんとして祭司の長に往しに十一彼等これを聞て

悦び銀子を予んと約せしかバエズハイエスを付さんとして機を窺へり○十二除節の首の日すなはち逾越の羔を殺すべき日弟子イエスに曰けるハ逾越の食を何處へ往て我備ふべき乎十三イエス二人の弟子を遣さんとして之に曰けるハ京城に往さらば水を盛たる瓶を挈る人に遇べし之に従へ十四その入る所の家の主人に師いふ我弟子と偕に逾越を食すべき客房ハ安に在やと曰十五然れば彼陳設たる大なる樓房を爾曹に示べし我儕の爲に其處に備ふ十六弟子ゆきて京城に入しにイエスの曰たまへる如く遇しかば逾越の備をなせり○十七日暮てイエス十二の弟子と偕に來れり十八かれら席に就て食する時イエス曰けるハ誠に我なんぢらに告ん我と偕に食する爾曹のうち一人われを賣すべし十九彼等憂て各々イエスに言出けるハ我なる乎また他の一人も曰けるハ我なる乎二十イエス答て曰けるハ十二の中の一人われと共に手を盥に着る者是なり二人の子ハ已に就て餘されたる如く逝ん然る人の子を賣す者ハ禍なる哉その人は生ざりしなら

幸なりし爲ん三三かれら食する時イエスパンを取て祝し之を擘りらに
 予て曰けるハ取て食へ此ハ我身なり三三また杯を取て謝し彼等に予けれ
 ば皆この杯より飲り二四イエス曰けるハ此ハ新約の我血にして衆の人の
 爲に流す所のもの也三五我まことに爾曹に告ん今このち新しきものを神
 の國にて飲ん日までハ葡萄にて製るものを飲じ〇二六彼等歌を詠て橄欖
 山に往り二七イエス彼等に曰けるハ今夜なんぢら皆われに就て寝かん蓋わ
 れ牧者を撃ん其とき綿羊散べしと録されたれば也二八然ぞ我よみがへり
 て後なんぢらに先ちガリラヤに往べし二九ペテロイエスに曰けるハ假令
 みな礙さとも我ハ然らず三〇イエス彼に曰けるハ我まことに爾に告ん今日
 この夜鶏二次鳴まへに爾三次われを知らざらん三一彼また力言い
 ひけるハ我ハ爾と偕に死ることも爾を知らざらん三二弟子みな如此いへり三三斯
 て彼等ケツセマ子といふ所に至りイエスその弟子に曰けるハ祈る間ここに
 坐せよ三三遂にペテロヤコブヨハ子を伴ひゆき甚しく憂へ哀を催

三四彼等に曰けるハ我心いたく憂て死るばかりなり爾曹ここに待て目
 を醒し居三五イエス少し進行て地にふし祈り曰けるハ若しなれど此時を
 去しめ給へ三六また曰けるハアバ父よ爾に於てハ凡の事能ざるなし此
 杯を我より取たまへ然ぞ我ハ欲ふ所を成んとするに非ず爾が欲ふ所に任
 せ給へ三七イエス來りて彼等の寢たるを見ペテロに曰けるハシモンなんぢ
 寢たるか一時も目を醒し居ここ能ざる乎三八誘惑に入ぬやう目を醒かつ祈
 その心神願なれど肉體よわき也三九復ゆきて同言を曰て祈れり四十返
 りて復かれらの寢たるを見る此ハ彼等その目倦たるなりイエスに何と對ふ
 可やを知らざりき四一三次きたりて彼等に曰けるハ今ハ寢て安め充分なり
 時いたれり人の子の罪人の手に賣さるる也四二起よ我儕ゆくべし我を賣す
 者近けり〇四三斯いへる時たぢに十二の一人なるユダ刃と棒を携
 たる多の人々と共に祭司の長學者および長老の所より來る四四イエス
 を賣者かれらに號をなして曰けるハ我が按助する者ハ其なり之を執て憤

四四 即ち來りてイエスに近よりラビ、ラビと曰て接吻せり 四六
 人々手なイエスに措て執ふ 四七 傍に立る者の一人刃を抜て祭司の長
 の僕を撃その耳を削り 四八 イエス 答て彼等に曰けるハ刃と棒をもち盜
 賊を執る如くして我を執に來る乎 四九 われ日々なんぢらと共に殿にて教し
 に爾曹われを執ざりき然と此ハ聖書に應せんが爲なり 五十 弟子みなイエ
 スを離て奔去ぬ 五一 一少者その身にたゞ麻の夜具を蔽てイエスに従ひ
 たりしが逮捕の者等これを執ければ 五二 かれ麻の夜具をすて裸にて逃去
 り 〇 五三 衆人イエスを祭司の長に携往けるに祭司の長長老および學者
 等こゝろく彼の所に集れり 五四 ペテロ遠く離れてイエスに従ひ祭司の長
 の庭の内まで入僕と共に坐して火に煖まり居り 五五 祭司の長および議員
 みなイエスを殺んとして證を求めども得ず 五六 多の人々イエスに
 證を言出せども其證あらず 五七 或人々たちて妄の證を言出しけ
 るハ 五八 かれ手を以て作たる此聖殿を毀ち三日の間に手を以て作さる別の

殿を建んと言しを我儕ハ聞り 五九 如此いひしが其證また符す 六十 祭司の
 長中に立てイエスに問ひけるハ 爾 答る言をき乎 この人々の爾に立る
 證據ハ如何ハ一イエス默然として何も答ざりければ祭司の長また彼に問
 て曰けるハ 爾ハ頷べき者の子キリストなる乎 六一 イエス曰けるハ 然り人の
 子大權の右に坐し天の雲の中に現れ來るを爾曹みるべし 六三 是に於て祭司
 の長その衣を裂て曰けるハ 我儕なんぞ復はかに證據を求人ヤ 六四 その褻瀆
 たる言ハ 爾曹も聞る所なり 爾曹如何に意ふヤ 彼等舉てイエスを死に當る
 べき者と擬たり 六五 或者ハ彼に唾し又その面を掩ひ拳にて撃いひけるハ 預
 言せよ亦 撲等も手の掌にて彼を批り 六六 ペテロ下庭に在しに祭司の長
 のある婢きたりて 六七 其火に煖まり居を見つらく 彼を視て曰けるハ 爾も
 ナザレのイエスと偕に在し 六八 ペテロ肯はずして曰けるハ 我これを知らず
 亦なんぢが言さるの事を識得ざるなり 斯て庭門に出ければ 鷄鳴の
 六九 その婢われを見て 傍に立る者に又いひけるハ 此人もかの黨の一人

なり七十ペテロまた背はず少頃して傍に立る者またペテロに曰けるハ爾
 誠に彼の黨の一人なり蓋爾ハガリラヤの人あり其方言これに合り
 七一是に於てペテロ警て我神の崇を受るも爾曹が曰その人を我ハ識さ
 る也と曰しが七二此とき鶏二次鳴ければペテロイエスの 鶏二次
 なく前に三次我を識すと曰んと言たまひし事を憶起し且これを思反し
 て哭悲めり

第十五章

平日に及び直に祭司の長長老學者たち凡の議員と共に議て

イエスを撃り曳携てピラトに解せりニピラト彼に問けるハ爾ハエダヤ人の
 王なるやイエス答けるハ爾が言る如し三祭司の長多端をもて彼を訟ふ
 四ピラト復イエスに問て曰けるハ何も答ざるか彼等が爾について證を立
 しこと幾何かり乎五ピラトの奇を爲すまでイエス何をも答ざりき六倍こ
 の節筵にハ彼等が求に任せて一人の囚人を救すの例なり七時にバラバと云
 る者あり己と共に謀叛せし黨と同一く繫れ居たりしが彼等ハその謀叛の

ひとを殺し者等なり八人ハ聲を揚て呼り恒例の如せん事を求り九ピ
 ラト彼等に答て曰けるハエダヤ人の王を爾曹に我が釋さん事を欲むや十是
 ピラト祭司の長等の嫉に因てイエスを解したりと知べなり十一祭司の長民
 どもにバラバを釋さん事を求と峻む十二ピラトまた答て彼等に曰けるは然
 ばエダヤ人の王と爾曹が稱る者にハ何を我が處ん事をなんぢら欲むや十三
 彼等また叫びて之を十字架に釘よと曰十四ピラト彼等に曰けるハ彼なんの
 悪事を行しや彼等ますく叫びて之を十字架に釘よと曰十五ピラト民の權
 びを取んとしてバラバを彼等に釋しイエスを鞭ちて之を十字架に釘ん爲に
 付せり十六兵卒等これを公廳に携ゆき全營を呼集め十七彼に紫の
 袍をきせ棘にて冕を編て冠しめたり十八斯て曰けるハエダヤ人の王安ハ
 十九また葦を以て其首を撃かつ唾し跪きて拜しぬ二十嘲弄し畢て
 紫の衣をばき故の衣をきせて十字架に釘んとて曳往しがニマレキサン
 デルミルフの父なるクレ子のシモンと云るもの田間より來りて其處を經

過りければ強て之にイエスの十字架を負せたり二三イエスをゴルゴタ譯ば
 即ち體饑と云る所に携來り二三汲藥を酒に和し飲せんと爲りしに之を受
 ざりき二四イエスを十字架に釘し誰か何を取んか圖を拈くその衣服を
 分てり二五朝の第九時にイエスを十字架に釘二六その罪標をエダヤ人の王
 と書つく二七二人の盜賊かれと共に一人の其右一人の其左に十字架に釘
 らる二八これ聖書に彼ハ罪人と共に算られたり云しに應り二九往來の者
 イエスを語り首を搖て曰けるハ噫聖殿を毀て之を三日に建る者よ 三十自己
 を救て十字架を下よ 三一祭司の長學者等も同く嘲弄して互に曰けるハ人
 を救て自己を救ひ能す 三二イスラエルの王キリストハ今十字架より下るべ
 し然ば我儕見て之を信ぜん又さにも十字架に釘られたる者等も彼を詭れり
 三三第十二時より三時に至るまで漏く地のうへ暗なりぬ 三四第三時にイエ
 ス大聲に呼りエリエリラマサバクヌニと曰これに譯ぐ吾神わが神何ぞ
 われを遺たまふ乎と云るなり 三五傍らに立たる者のうち或人これを聞て彼の

エリヤを呼なりと曰 三六一人はしり往て海城をどり醋を潰せ之を葦に束て
 彼に飲しめ曰けるハ俟エリヤ來りて彼を救ふや否と云るむべし 三七イエ
 ス大なる聲を發て氣絶 三八殿の幔上より下まで裂て二と爲り 三九イエス
 に對て立たる 百夫の長かく呼り氣絶しを見て曰けるハ誠に此人ハ神の子
 なり 四十また遙に望ぬたる婦ありし其中に在し者ハマгдаラのマリヤお
 よび年少ヤコブとヨセの母なるマリヤ又サロメなり 四一彼等ハイエスの
 ガリラヤに居たまひし時にこれに従ひ事し者等なり亦この他にも彼と共に
 エルサレムに上り多の婦ありき 四二是日ハ備節日にて安息日の前
 の日なり故 四三日暮るる時 四三是日ハ備節日にて安息日の前
 たり此人の神の國を慕る者なり彼ハさうらすピラトに往てイエスの屍
 を求たり 四四ピラトイエスの已に死るを奇み 百人の長を呼て彼ハ死てよ
 り時を経たるや否やを問 四五 百夫の長より聞て之をしり屍をヨセフに
 手付 四六ヨセフ桌布を買求め而してイエスを取下し之をその桌布にて裹み

磐に鑿たる墓におき石を墓の門に轉し置り 四七 マグダラの マリア 及ヨセの母なる マリア 其 屍を葬し處を見たり

安息日過て

安息日過て マグダラの マリア ミヤコブの母なる マリア 及サ

ロメ香料を買さるのヘイエスに抹んきて來れり 二七日の首の日いさ早く日の出る時われら墓に來り 三互に曰ける 誰か我儕の爲に石を墓の門より轉し取もの有んか 是の石はなばだ巨大なれば也 四斯て彼等目を舉れば石の已に轉あるを見る 五墓に入しに白 衣をきたる 少者の右の方に坐せるを見て駭き 異めり 六少者 彼らに曰ける 駭き異む勿れ 爾曹の十字架に釘られしナザレのイエスを尋ね 彼れ 甦りて此に居す 彼を葬し處を觀よ 七且ゆきて其弟子ミテロに告よ 彼の爾曹に先ちてガリラヤに往り 爾曹かしこにて彼を見べし 即ち其なんちらに言しが 如し 八彼等いでる墓より奔れり 且戦慄かつ 駭き亦一言をも人に語さりき 是 懼しが 故なり ○九イエス 七日の首の日よあけころ 甦りて先 マグダラの マリアに現る 曩にイエス 彼

より七の悪鬼を逐出せり 十イエスと共に在し者の 哭哀める時に此婦きたりて是等の事を告 十一 彼等イエスの活て此の婦に見え給ひしことを聞しが 信ぜざりき 十二 此後われらの中二人の者 郷村へ往けるが路を行き 十三 變たる貌にて 彼等に現る 十三 この二人の者ゆきて他の弟子等に告げれども亦これをも信ぜざりき ○十四 又その後十一の弟子の食しなる時に現れて 彼等が信なき其心の頑さを責め給へり 是が 彼らイエスの 甦り給るのち其を見し者の言を信ぜざりし故なり 十五 イエス 彼等に曰ける 偏く世界を廻て 凡の人に福音を宣傳よ 十六 信じて パテスマを受る者ハ 救れ 信ぜざる者ハ 罪に定らる也 十七 信する者にハ 左の如き奇跡またがふべし 我名に託て 悪鬼を逐出し 異邦の方言をいひ 十八 また 蛇を操へ 毒を飲とも害なく 又手を病の者に 按なば 即ち愈ん ○十九 斯て 主ハ 彼等に語し 的天に 擧られ 神の右に坐しぬ 二十 弟子たち 偏く福音を宣傳 主も亦われらに力を協せ 其從ふ所の奇跡によりて 道を堅うしたまへり アメン

新約全書馬可傳福音書終

新約全書路加傳福音書

我儕の中に篤く信ぜられたる事を始より親く見て道に役たる者の
 我儕に傳し如く記載ん多の人々これを手執る故に責きテヨピロよ
 我も原より諸の事を詳細に考究たれば次第を爲て爾に書おくり四
 が教られし所の確實を曉せん欲り○五ユダヤの王ヘロデの時にアピアの
 班なる祭司ザカリアと云る者あり其妻ハアロンの裔にて名をエリサベツと
 云六共に神の前にて義人あり凡て主の誠命と禮儀を虧さく行へりセエリ
 サベツ姪なまき故に彼等に子なし又二人とも年も老ぬハザカリアその班
 次に値て神の前に祭司の職を行ふ時九祭司の例に従ひ籤を抽て主の殿
 にいり香を焼くことを得十香を焼ける時に衆の人々ハみを外に居て祈れり
 十一主の使者香壇の右に立てザカリアに現れしかバ十二ザカリア之を見
 て驚懼る十三天使かれに曰けるハザカリアよ懼る勿れ爾の祈禱すでに
 聞たまへり爾の妻エリサベツ男子を生ん其名をヨハ子と名くべし十四爾に

喜ぶ樂あらん多の人も亦その生るゝに因て悦び有ん十五それ此子主の
 前に大ならん又葡萄酒と濃酒を飲じ母の胎より生出て聖靈に充さる
 十六又イスラエルの民の多の人を主なる其神に歸す可れば也十七彼エリヤ
 の心と才能を以て主の先に行ん是父の心に子を慈へせ逆れる者を義人
 の智に歸せ主の爲に新なる民を備んとなり十八ザカリヤ天使に曰ける我
 すでに年老妻もまた年進たれば何に因てか此事あるを知ん十九天使こ
 たへて曰ける我ハガブリエルさて神の前に立者あり爾に語てこの喜の
 音を告ん爲に遣されたれば二十其時いたりて必ず成べき我が言を信ぜざ
 るに因なんぢ瘡となりて此事の成日まで言ふこと能はじ二十一民ザカリヤを
 俟て其殿の内に久を異むニニザカリヤ出て言ふこと能はざりしかば彼
 等その殿の内にて異象を見たる事を曉たりザカリヤ衆人に首を以て示し
 竟に瘡さるれりニニその職事の日滿ければ家に歸りぬニ四此後その妻エリ
 サベツ孕て隠をりしこと五ヶ月にしてニ五曰けるハ主わが耻を人の中に

灑せん爲に眷顧たまふ時ハ此の如く我に爲り〇二六此六ヶ月に當りガリ
 ラヤのナザレと名たる邑のニセダビデの家のヨセフと云る人の聘定せし
 所の處女に神よりガブリエルといふ天使を遣されたり其處女の名ハマリヤ
 二七云り二八天使この處女に來いひけるハ畏たし惠る者よ主なんぢさ借に
 在す爾ハ女の中にて福なる者ありニ九處女その言を訝この間安ハ如何
 なる事ぞと思へり三十天使いひけるハマリヤよ懼るゝ勿れ爾ハ神より惠を
 得たり三一爾孕て男子を生ん其名をイエスと名べし三二これ大なる者ぞ
 爲て至上者の子と稱られん又主たる神その先祖ダビデ王の位を彼に予れ
 三三ヤコブの家を窮なく支配すべく且その國終ること有さるべし三四マ
 リヤ天使に曰けるハ我いまだ夫に適ざるに何にして此事ある可や三五天使
 二六たへて曰けるハ聖靈なんぢに臨る至上者の大能なんぢを庇ん是故に
 爾が生ごころの聖なる者ハ神の子と稱らるべし三六それ爾の親戚エリサ
 ベツ彼も年老て男子を孕り素妊なき者と稱れたりしが今すでに孕て六ヶ

月になりぬ三七 蓋神に於て能ざる事なければ也三八 マリア曰けるハ我ハ是
 主の使女なり爾の言る如く我に應じし天使つひに彼を去り〇三九 當時マリ
 ア起て亟かに山地あるエダの邑に往 四十 ザカリヤの家に入てエリサベツに
 間安したりしに 四一 エリサベツマリアの間安を聞き其胎孕腹の内
 て跳動たりエリサベツ聖靈に感され 四二 大聲に呼びひけるハ女の中にて爾
 ハ福なる者なり亦孕る所の者も福なり 四三 わが主の母われに來われ
 何に由て此事を得し 四四 夫なんちの間安の聲わが耳に入しとき胎孕よる
 こびて我腹の中に跳れり 四五 主の言を信ぜし者ハ福なり蓋主の語たまひ
 し如く必ず成べければ也 四六 マリア曰けるハ我心主を崇靈 四七 我靈ハ
 わが救主なる神を喜ぶ 四八 是の使女の卑微をも眷顧たまふが故なり
 今よりのち萬世までも我を福なる者と稱べし 四九 それ權能を有たまへる
 者われに大なる事を成り其名ハ聖五十 其の矜恤ハ世々われを畏る者に及
 ばん 五一 其臂の力を發して心の驕る者を散し 五二 權柄ある者を位より下

し卑賤者を擧 五三 飢たる者を美食に飽せ富る者を徒く返らせ給ふ 五四 ア
 ブラハム其子孫を窮なく憐むことを忘すして 五五 其僕イスラエルを扶
 持たまへり是われらの先祖に言たまひしが如なり 五六 マリアエリサベツと
 居しこと三ヶ月ばかりにて己が家に歸たりき 〇五七 偕エリサベツ産期みち
 て男子を生り 五八 その隣里の者また親戚のもの主ガエリサベツに大なる慈
 悲を垂たまひし事を聞て偕に喜べり 五九 第八日に及ければ彼等子に割禮せ
 んさて來り其父の名に因ザカリヤと名んさせしに 六十 其母たへて然す可
 らすヨハ子と名べしと曰ければ 六一 彼等エリサベツに對て曰けるハ爾が親
 戚の中にハ此名を名し者あし 六二 かれら遂に其父に頭にて示いかに名ん
 欲り問たるに 六三 ザカリヤ寫字板を請て其名ハヨハ子と書しるしよが皆
 奇めり 六四 ザカリヤの口たごちに啓て舌さけ言ひて神を頌たり 六五 その隣
 里に住たる人々みな懼め又すべて此事を漏くエダヤの山地に傳播されしか
 ば 六六 聞もの皆これな心に藏て此子の如何なる者にか成んさ曰り偕主の手

かれと共に在き六七父ザカリヤ聖靈に感され預言して曰けるハ六八主なる
 イスラエルの神の讚美へき哉これ其民を眷顧て贖を爲し六九我儕の爲に
 救の角を其僕ダビデの家に挺たまへバ也七十古より聖なる預言者の
 口を以て言たまひしが如し七一即ち我儕を敵また凡て我儕を惡む者の手よ
 り脱す救なり七二此ハ仁恵を我儕の先祖に施し又その聖約を忘じさ也
 七三是我儕の先祖アブラハムに立し所の誓にして七四我儕を敵の手より救
 ひ我儕の生涯を七五聖義に於て懼なく主に事しめんさ也七六嬰兒よ爾
 ハ至上者の預言者と稱られん盡なんち主に先ちて行その路を備んさ爲バ
 なり七七神の深き矜恤に頼その罪を赦されて救れん事を其民に示さんため
 也七八その矜恤に頼て旭の光上より七九幽暗さ死陰に往る者を照し我儕
 の足を導きて平康なる路に至せんさて臨めり〇八十斯て嬰兒ハ漸成長し
 精神ます〇强健にしてイスラエルに顯るゝの日まで野に居り
 當時天下の戸籍を査る詔命カイザルアウグストより出たり二〇

の戸籍調査ハクレニオスリヤを管理し時の初次に行へたりし也三人みな
 戸籍に登んさて各その故邑に歸たり四ヨセフもダビデの宗族また血統を
 れバ戸籍に登んさて五已に孕る其聘定の妻マリアと共にガリラヤの邑ナ
 ザレより出てエダヤに上りダビデの邑ベテレヘムといふ所に至れり六此に
 居て産期満ければ七家子を生それを布に裹て槽に臥せたり此ハ客舎に彼
 等の居處をかりしが故あり〇八近傍に羊を牧もの有けるが野に居て夜
 間その群を守たりしに九主の天使きたりて主の榮光かれらを環照けれ
 ば牧者もほいに懼たり十天使これに曰けるハ懼ること勿れわれ萬民に關り
 たる大なる喜の音を爾曹に告べし十一それ今日ダビデの邑に於て爾曹
 の爲に救主うまれ給へり是主たるキリストあり十二爾曹布にて裹し嬰兒
 の槽に臥たるを見ん是其徴あり十三候ち衆の天軍あらはれ天使と共に
 に神を讚美て曰けるハ十四天上にこころに榮光神にあらはれ地に平安人
 々に恩澤あれ十五天使等かれらを離て天に行ければ羊を牧もの互に曰ける

ハ率々テレヘムにゆき主の示し給へる其有し事を見んきて十六急ぎ至リマ
 リアとヨセフまた槽に臥たる嬰兒に尋遇り十七既に見て此子につき天
 使の話し事を傳播せられたるが故に十八聞者み羊を牧者の語る事を奇みたり十九
 マリテ凡て是等の言を心に記て思想しぬ二十羊を牧者その見聞せる
 所みも己に話し所の如あるにより神を崇め讚美て返れり〇二一子に
 割禮を行ふべき八日の日いたりければ其いまだ胎に寓する先に天の使者の
 稱し如く名をイエスと稱たり〇二二モーセの律法に循ひて潔の日滿ければ
 嬰兒を携て主に獻んが爲エルサレムに上れり二三是主の例に初に生るる
 男子の主の聖者稱べしと録されたるが如し二四また主の律法に斑鳩一
 雙あるひの雛 鴿 二を獻ふべしと語るに循ひて祭を行ん爲あり〇二五
 倍エルサレムにシメオンと云る人あり斯人の義かつ敬ありてイスラエ
 ルの民の慰められん事を俟る者なり聖靈その上に臨り二六また主のキリス
 トを見ざる間死じと聖靈にて示さる二七かれ聖靈に感じて神殿に入り兩

親その子イエスを律法の例に循ひて行へんと携來りしに二八シメオン
 嬰兒を抱き神を讚美いひける二九主よ今その言に従ひて僕を安然に世を
 ば遣せ給ふ三十我目すでに萬民の前に設たまひし救を見たり三一これ異邦
 人を照さん光なり三二また爾の民イスラエルの榮なり三三その父母の嬰子
 に就て語る事を奇をれり三四又シメオン彼等を祝て其母マリアに曰け
 るハ此嬰兒ハイスラエルの多の人の頼て且興らん事と誹駁を受ん其號
 に立らる三五これ衆の心の念の露れんが爲なり又劔なんぢが心をも刺
 透べし〇三六アセルの支派パヌエルの女にアンナと云る預言者あり彼ハ甚
 老邁なり其處女なりしとき夫に適て七年さもに居たり三七この老女の齢も
 ほよそ八十四歳の整なりしが殿を離す夜も晝も斷食と祈禱を爲て神に事
 ぶ三八此時この老女も側に立て主を讚美し亦エルサレムにて贖を望る
 すべてひとこのこと〇三九主の律法に循ひて悉く意ければガリラ
 ヤの己が邑ナザレに歸たり四十其子やう成長して精神強健に知慧みち

受んきて來り曰けるハ師ト我等ハ何を爲すべきカ 十三 答て曰けるハ定例の税銀の外に多く取ること勿れ 十四 兵卒も亦問て曰けるハ我儕ハ何を爲すべきヤ 答て曰けるハ人を強暴し或ハ誣訴すること爲なかれ得ざるの給料を以て足りざる爲べし 〇十五 民懷望し時なれば衆人みな心にヨハ子をキリストなるや否や忖度たりしに 十六 ヨハ子之に答ひひけるハ我ハ水を以てバプテスマを爾曹に施へり我より能力ある者きたらん我ハ其履帯を解にも足す彼ハ聖靈と火を以てバプテスマを爾曹に施らん 十七 手にハ箕を持て其禾場を潔め麥ハ歛て其糠にいれ穀ハ滅ざる火にて焼べし 十八 ヨハ子また多端を以て勸をなし福音を民に宣傳たり 十九 さて分封の君なるヘロデその兄弟ピリポの妻ヘロデヤの事および行ふ所の凡の悪事をヨハ子に責られければ 二十 猶も悪事を加へヨハ子を獄に囚たり 二一 民みなバプテスマを受けんにイエスも亦バプテスマを受けて祈るさき天ひらけ 二二 聖靈鴿の如き狀にて其上に降ぬ又天より聲あり云さんちハ我愛子わが喜ぶ所の者あり

〇二三 時にイエス年おほよそ三十にして福音を宣始む人々にヨセフの子と意れ給へりヨセフの父ハヘリ 二四 其父ハマツタテ其父ハレビ其父ハメルキ其父ハヤンナ其父ハヨセフ 二五 其父ハマタテヤ其父ハアモス其父ハナオム其父ハエスリ其父ハナムガイ 二六 其父ハマアツ其父ハマタテヤ其父ハセメイ其父ハヨセフ其父ハユダ 二七 其父ハヨハンナ其父ハレサ其父ハセルバペル其父ハシアテル其父ハ子リ 二八 其父ハメルキ其父ハアツテ其父ハコサム其父ハエルモダム其父ハエル 二九 其父ハヨセ其父ハエリエセル其父ハヨオレム其父ハマツタテ其父ハレビ 三十 其父ハシメオン其父ハユダ其父ハヨセフ其父ハヨナシ其父ハエリアキム 三一 其父ハメレア其父ハマイナン其父ハマタツタ其父ハナタン其父ハダビデ 三二 其父ハエツサイ其父ハオベデ其父ハボアズ其父ハサルモン其父ハナアソン 三三 其父ハアミナダブ其父ハアラム其父ハエスロン其父ハパレス其父ハユダ 三四 其父ハヤコブ其父ハイサク其父ハアブラハム其父ハテラ其父ハナコル 三五 其父ハサルケ其父ハラガチ

其父ハパレク其父ハヘベル其父ハサラ三六其父ハカイナン其父ハアバザア
 其父ハセム其父ハノア其父ハラメク三七其父ハマトサラ其父ハエノク其父
 ハヤレド其父ハマレレエレ其父ハカイナン其父ハエノス其父ハセツ其父ハ
 アダムアダムの即ち神の子あり

第四節

儲イエス聖靈に感されてヨルダンより歸り靈に導かれ野に適て二
 四十日惡魔に試らる此諸日なにも食す四十日畢てのち餓たり三惡魔
 かれに曰けるハ爾もし神の子ならば此石に命じてパンを爲せよ四イエス
 答けるハ人のパンのみにて生る者に非ず唯神の凡の言に由る録されたり
 五惡魔また彼を高山上に携ゆき一瞬間に天下の萬國を示して六曰けるハ此
 すべての權威と榮華を爾に予ん我これを委任たれば我が欲む者に之を予
 ぶべし七故に若わが前に拜跪す悉く爾の屬ならん八イエス答けるハ
 サタンよ我後に退け獨主たる爾の神に拜跪これにのみ事べしと録されたり
 九惡魔またイエスをエルサレムに携ゆき聖殿の頂に立て曰けるハ爾も

し神の子あらば此より己が身を投よ十そは神その使者等に命じて爾を護せ
 ん十一爾が足の石に觸ざるやう彼等手にて扶べしと録さる十二イエス答
 けるハ主たる爾の神を試む可らずと云おけり十三惡魔この誘試み畢て
 暫く彼を離たり十四イエス聖靈の能を以てカリラヤに歸しに其聲名あまれ
 く四方の地に廣がりぬ十五斯て彼等が會堂にて教を爲すべての人々に榮
 を得たり○十六その長育し所あるナザンに來り常例の如く安息日に會堂
 に入て聖書を讀んきて立ければ十七預言者イザヤの書を予しにイエス其書
 を展て斯録れたる所を見出せり十八主の靈われに在す故に貧者に福音
 を宣傳ん事を我に膏を沃て任じ心の傷る者を醫し又囚人に釋ん事と醫
 者に見させん事を示し又壓制らるる者を離ち十九主の禧年を宣播
 んが爲に我を遣せり二十イエス書を捲その役者に予て坐しければ會
 堂に在者みな目を注て視をせり二一イエス彼等に曰けるハ此録れたる事
 の今日もんちらの前に應り二三衆かれを稱讚その口より出る所の恩惠の言

を奇み曰けるハ此ハヨセフの子に非ヤ二三イエス彼等に曰けるハ爾曹が
 らず我に諺を引て醫者みづからを醫せ我儕が聞し所のカペナウシにて行
 し事を自己の家郷なる此土にも行へしと云んニ四また曰けるハ我まこと
 に爾曹に告ん預言者その家郷にてハ敬重る者に非ずニ五われ誠を以て爾
 曹に告んエリヤの時三年と六ヶ月天さちて漏地もほいなる龜鐘なりし
 其時イスラエルの中に多の瘡ありしかニ六エリヤハ其一人へだに遣さ
 れず只シドンなるサレバタの一人の瘡に遣されたりニ七また預言者エリシ
 ヤの時にイスラエルの中に多くの癩者ありしかニ八一人だに潔られず
 惟スリヤのナーマンのみ潔られたりニ八會堂に在し者これを聞て大に憤
 ほりニ九起てイエスを邑の外に出し投下さんとて其邑の建たる山の崖にま
 で曳往りニ十然にイエス彼等の中を徑行て去ぬニ一ガリラヤのカペナウシ
 云る邑に至りて安息日そこに衆人を教じに二三その言懣威有ければ衆
 人その教に驚けりニ三三會堂に汚たる鬼の靈に憑れたる人あり大聲に喊

叫いひけるハ三四噫ナザレのイエスよ我儕なんぢの何の與あらんや爾等
 たりて我儕を裏す我なんぢの誰なる乎を知すなハ神の聖ある者なり
 三五イエス之を責て曰けるハ聲を出すこと勿れ其處を出よ惡鬼つひに其人
 を衆の中に仆し傷おして出ニ三六衆人みな驚き互に語いひけるハ權威
 能力を有て汚たる鬼に命ぜしかば出去り是いかなる道ぞや三七是に於て
 イエスの聲名徧く此四方の地に揚りぬニ三八イエス會堂を出てシモ
 ンの家に入しにシモンの妻母おもき熱病を患ひ居たりきニ三九衆人之が
 爲にイエスに求ければ其傍に立て熱を斥しに熱退けり婦直に起
 て彼等に事たり四十日の入さき各様の病を患たる者をもてる人々皆其
 をイエスに携來ければ一々其上に手を按て醫せり四一惡鬼も亦多の
 人々を出さり喊叫て爾ハ神の子キリスト也と云り然に之を斥て言ふこと
 を容ざりき惡鬼其キリストなるを識べ也四二明日イエス出て人なき
 處に往ければ衆人尋來て其離去を止む四三イエス曰けるハ我又

他の郷村にも神の國の福音を宣傳さるを得ず蓋我之が爲に遣るれば也 四 斯てカリライヤの諸會堂にて道を宣傳たり

衆人神の道を聽んて擠擁ける時イエスが子サレの湖の濱に立て二磯に二艘の舟あるを見る漁の者の舟を離て網を洗をれり三其一艘

ハシモンの舟なりしがイエス之にのり請て岸より少許はなれ坐して舟中より衆人を教ふ四 教竟てシモンに曰けるハ澳へいで網を下して漁れ

五シモン答けるハ師よわれら終夜はたらきしが所得なかりき然る爾の言に従ひて網を下さん六既にして魚を圍ること甚だ多く網さけかり

ければ七いま一艘なる舟の侶を招きて來り助しめしに彼等が來し時其魚二艘の舟に切て沈んばかりなりしハシモンパテロ之を見てイエスの足下に

俯て主よ我を離たまへ我ハ罪人なりと曰り九是シモンおよび僭に在し者みな漁し所の魚の夥しきに驚ける也十シモンの侶なるセバダイの子ヤコ

ナミヨハ子も亦然りイエスシモンに曰けるハ懼るる勿れなんぢ今より人を

獲べし十一 彼等舟を岸に寄らば一切を捨てイエスに従へり十二 イエ

スある邑に居しとき身こさぐく癩病を患る者ありイエスを見て俯伏し

がひ曰けるハ主もし聖旨にかなふとき我を潔なし得べし十三 イエス手を

伸彼に按て我心にかなへり潔なれと曰ければ直に癩病愈たり十四

イエス彼を戒めて曰けるハ人に告ること勿れたる往て己を祭司に示かつ潔

られし爲にモーセが命ぜし如く獻物をなし證據を彼等に爲よ十五 然れども

イエスの聲名ますます揚りて許多の人々或ハ教を聽んこし或ハ病を醫

れんきて集り來れり十六 イエス常に人あき處に退きて祈り給ひき十七 一

日イエス 教を爲せる時パリサイの人と教法師がカリライヤの諸郷エダヤエ

ルサレムより來て此に坐しぬ彼等の病を醫すべき主の能顯はれたり十八

者に人々爾の罪赦さるるを曰ければ二三學者とパリサイの人々心に思
 出けるは此の言を言者誰ぞ神より外に誰か罪を赦すことを得ん二三
 イエスその意を知て答ひひける何れを爾曹心中に論ずるや二三爾の
 罪赦さるるをいふと起て行と言と執り易き三四それ人の子地にて罪をゆるす
 の權威あることを爾曹に知せんとして遂に癡癡の人に我あんちに告あきて牀
 をごり家に歸れと曰ければ三五その人衆の前にて直に起て臥居たる牀
 をごり神を崇て己が家に歸ぬ二六衆人みな該きて神を崇つ大に畏懼て曰
 ける我儕今日奇異なる事を見たり〇二七此後イエス出てレビと云る税
 吏の税關に坐し居けるを見て我に從へと曰ければ二八レビ一切を捨て
 起て從へり二九レビ己の家にてイエスの爲に豊盛なる筵を設しに税
 吏また他の人々も共に筵に坐したる者多かりければ三十其所の學者と
 パリサイの人イエスの弟子に怨言曰ける爾曹税吏また罪ある人々
 と共に食飲するの何故ぞ三一イエス答て曰ける康強なる者の醫者の助

を請す惟病ある者これを請む三二わが來るの義人を召く爲に非ず罪
 ある人を召て悔改させんが爲なり三三彼等イエスに曰けるヨハネの
 弟子は屢斷食また祈禱をなすパリサイの弟子も亦然り然るに爾の弟子
 飲酒食肉を爲すの何故ぞ三四イエス曰ける新耶の朋友その新耶と一
 處に居間之に斷食なさしむる事を得んや三五將來新耶と別る日いたら
 ば其日に斷食すべきなり三六譬を以て曰ける新衣を裁取て舊
 衣を補ふ者あらじ若然せば新衣をも壞し且新より取たる
 布の舊とのと合す三七また新酒を舊革袋に盛る者あらじ若し
 せの新酒の其袋をばりて漏れ出りつ革袋も壞るべし三八新
 酒の新革袋に盛べき者ぞ斯てこそ兩方から存なれ三九舊酒を飲
 て立刻に新酒を飲者有じ是舊の尤も好む云がなり
 逾越節の二日ののち首の安息日イエス麥の畑を徑行しに其弟子
 麥の穂を摘これを手にて擲くらひしかば二或パリサイの人かれらに曰ける

ハ爾曹安息日に行まじき事を行ハ何故ぞ三イエス答て曰けるハ夕
 テもよび從に在し者の饑しき事行たる事を未だ讀ざる乎四即ち神の殿に入
 たゞ祭司の外ハ食まじき供物のパンを取て食かつ從に在し者にも予たり
 五又曰けるハ人の子の安息日にも主たる也六また一の安息日にイエ
 ス會堂に入て教ふ此に右の手枯たる人ありければ七學者とパリサイの人
 イエスこれを安息日に醫ならんか親ひの蓋かれを訴ん欲ばなり八イ
 エスその意を知て手なへたる人にて中て立よと曰ければ其人あきて立り
 九イエス曰けるハ我なんぢらに問ん安息日に善を行と惡を行と又生を
 救るに殺と執を行べきと遂に衆人を環視て其人に手を伸よと曰ければ彼
 その如せしに手すなへち愈て他の手の如くなれり十一彼等大に怒て如何
 にイエスを處んご互に議あへり十二當時イエス祈禱の爲に山に往て終
 夜神に祈れり十三夜明てイエス弟子を呼その中より十二人を選て之を使
 徒と稱く十四即ちペテロと名給ひしシモンその兄弟アンデレ及ヤコ

ブとヨハネピリポとバルトロマイ十五またイシトマスアルバイの子なる
 ヤコブとセロテと云るシモン十六ヤコブの兄弟のエダとイスカリオテの
 エダなり此エダハイエスを賣たる者あり十七イエスは等と共に下て平かな
 る地に立しに許多の弟子と夥しき人々エダヤの四方またエルサレム及
 ヅロシドンの海邊より來集りて或ハ其教を聽んごし或ハ病を醫され
 る事を異へり十八又惡鬼に難されたる者あり成く醫されたり十九衆
 みなイエスに捫らんごせり是能力の其身より出て彼等を成く醫せば也
 二十イエス目を舉弟子を見て曰けるハ爾曹貧者ハ福なり神の國は
 即ち爾曹の所有なれば也二爾曹いま餓たる者ハ福なり飽ことを得べ
 ければなり爾曹いま哭者ハ福なり笑ことを得べければ也三三人の子の
 爲に人なんぢらを憎また絶け罵り爾曹の名を惡しきして棄なば爾曹福な
 り二三其日に欣び踊れ爾曹天に於て賞賜大なれば也その先祖が預言
 者に行たりしも是の如し二四爾曹富者ハ福なる哉すてに安樂を受べ

なり二五爾曹飽者ハ禍なるかな餓んすればなり爾曹いま笑者ハ
 福なるかな哀み哭んす爲ばなり二六凡の人なんぢらを譽なば爾曹
 なる哉その先祖が偽の預言者に行たりしも是の如し二七我に聽こころの
 爾曹に告ん其仇を愛し爾曹を憎者を善し二八詛者を祝し虚遇者の爲
 に祈禱せよ二九人なんぢの頬の右方を撃つ亦左方の頬を向ふ爾の外服を奪
 ば裏衣をも禁され三十凡て爾に求む之に與へ爾の物を奪む其をまた索る勿
 れ三一己人に施れんさする事ハ亦人にも其如く施よ三二己を愛する者を愛
 するハ何の賞賜あらんや惡人にて己を愛する者ハ愛する也三三己に善を
 行者に善を行ハ何の賞賜あらんや惡人もまた是の如く行なり三四爾曹償
 る事を得んさもふ人に借ハ何の賞賜あらんや惡人も其こく償を得ん
 さて亦惡人に借なり三五爾曹仇を愛し又善をなし何をも望すして借
 與ふ然ハ其賞賜ハ大なり且至上者の子と爲ん夫上者ハ恩を忘る者
 及び不善者にまで慈愛を施せば也三六是故に爾曹の父の憐憫の如く亦憐

憫を爲べし三七人を議するこ勿れ然ハ爾曹も議せられん人を罪するこ
 勿れ然ハ爾曹も罪せられん人を恕せ然ハ爾曹も恕さるべし三八人に與ふ然
 ハ爾曹も予らるべし彼等量を量して搖いれ撼いれ溢るゝ迄にして爾曹の
 懐に納ん爾曹量る所の其量にて亦人に量るべし三九また譬を彼等
 に曰けるハ譬ハ譬の相者をなし得るや相共に溝壑に陥らざらん乎四十弟子
 ハ其師に諭す凡そ全備なる者ハ其師の如なるべし四一なんぢ兄弟の目
 にある物屑を見て己の目にある梁木を知ざるハ何ぞや四二如何で己の目
 にある梁木を見ずして兄弟に對ひ兄弟ハ爾の目にある屑物を我に取せ
 よと云こを得んや偽善者よ先ものれ目より梁木をされ然ハ兄弟の目
 にある物屑を取こ明かに見へし四三それ惡果を結ハ善樹に非ず又善果を
 結ハ惡樹に非ず四四凡の樹ハその果に因て識る荆棘より無花果を採す亦
 蒺藜より葡萄を採し四五善人ハ心の善庫より善を出し惡人ハその惡庫
 より惡を出す蓋心に充るより口に言るゝ也四六爾曹わが言こを行ハす

して何ぞ我を主よ主よと稱るや四七 凡て我に就り我言を聞て行者を
 警て爾曹に示さん 四八 其人の家を建るに土を深く掘て基礎を磐上に置
 るが如し洪水のとき横流その家を衝きも動すこと能す是基礎を磐上に
 置ばなり 四九 聽て行のざる者の基礎なく家を土の上に建たる人の如し横流
 これを衝き其家たうち傾れ其根壞また甚だし

イエス此すべての言を民に 教畢てカペナウンに入しに二ある百
 夫の長その愛する僕やみて死べかりなりければ三 イエスの事を聞ユダヤの
 長老等を遣して來り僕を助け給んことを求り 四 彼等イエスに就り切に
 勸いひけるハ此事を 求める人の善人なり 四 我民を愛し我儕の爲に會堂を
 建たり六 イエス彼等と共に往て既や其家に近けるとき 百 夫の長朋友を
 遣して曰せけるハ主よ自己を勞動し勿れ我が家裏に入奉るハ 憚多
 し七 故に我なんらの前にも亦憚あり第一言を發たまハ 我僕ハ愈
 ん 八 蓋われ人の權威の下に屬る者なるに我下に亦兵卒ありて此に往し命

往かれに來し命を來る我僕に之を行し命が即ち行む故をり九 イエス聞
 て之を奇み從へる人々を顧て曰けるハ我あんぢらに告んイスラエルの
 中にて未だ斯る篤信に遇ざりき十 遣されたる者家に歸て病たりし僕
 を見ば已に全快をなせり 〇 十一 翌日 イエス ナインと云る邑に往けるに
 許多の弟子および許多の人々も共に往り 十二 邑の門に近づきしとき昇出さ
 るる死人あり其母の 妾にて此の獨の子なり 邑の人々 多これに伴ふ 十三
 主妾を見て憫み哭なかれ曰て 十四 近より其眼に手を按ければ昇る者
 ども止れり イエス曰けるハ 少者よ我あんぢに命おき十五 死たる者起て
 且言ひ始む イエス之を其母に子せり 十六 衆人みな懼て神を崇いひけるハ
 大なる預言者われらの中に興る神その民を眷顧たまへり 十七 イエスの此聲
 名ユダヤの全國また徧く四方に揚り 〇 十八 ヨハ子の弟子すべて是等の
 事を彼に告げれば 十九 ヨハ子の弟子を召て言遣しけるハ 來るべき者
 ハ爾なるが亦われら他に俟べき乎 二十 その二人イエスに來り曰けるハ ヲ

テスマのヨハ子我儕を爾に遣して言しむ來るべき者の爾あるか亦われら
 他に俟へきか二此時イエス多の疾あるひ病むよび惡鬼に憑たる者を
 騎し且おはくの警に見ることを賜たり三イエス彼等に答曰ける爾曹
 が見ざるを聞ざるをヨハ子に往て告ふ夫警者ハ見跛者ハ行み癩者ハ
 潔り癩者ハきく死し者ハ復活され貧者ハ福音を聞せらる二三凡そ我爲
 に贖がざる者ハ福なり二四ヨハ子の使者さりし後イエスヨハ子の事を
 衆人に曰ける何を見んて野に出しや風に動さるく葦なる乎二五然爾
 曹なにを見んて出しや美服を衣たる人あるか文繡を衣て者
 者ハ王の宮に在二六然何を見んて出しや預言者なるか然われ爾曹に告
 ん是預言者よりも卓越たる者あり二七それ爾に先ちて道を備る我使者を爾
 の前に遣んて縁されたるハ即ち此あり二八我あんぢらに告ん婦の生る者の
 うち未だバプテスマのヨハ子より大なる預言者ハ無されし神の國の至徴
 者も彼よりハ大なる也二九ヨハ子に聞る庶民また税吏ハ其バプテス

マを受て神を義とせり三十パリサイの人また教法師ハ其バプテスマを受す
 自ら暴びて神の旨に背たり三十一然此世の人々を何に比へ又何に譬んや
 三二童子市に坐し互に呼て我儕給ふけども爾曹踊す悲歌をすれども爾曹
 哭す云に似たり三三蓋バプテスマのヨハ子來りてパンをも食す酒をも飲
 されば惡鬼に憑たる者ありと爾曹いへり三四人の子きたりて食ふ事をし飲
 り三五然と知慧の知慧の子に義と爲らる〇三六或パリサイの人イエスを請
 て共に食せん事を願ければイエスパリサイの人の家に入て食に就り三七邑
 の中に悪行を爲る婦ありけるがイエスがパリサイの人の家に坐せるを知て
 巖石の盆に香膏を携來り三八イエスの後にたち足下に哭き涙にて其足
 を濡し首の髪をもて之を拭かつ其足に口を接また香膏を之に抹り三九
 イエスを請たるパリサイの人これを見て心の中に謂けるハ此人もし預言者
 ならんば捫し者ハ誰ある乎又如何なる婦ある乎を知ん此婦ハ悪行を爲る

者より四十イエス之に答て曰けるハシモン我なんぢに言事あり答けるハ師
 と言たまへ四一イエス曰けるハ或債主に二人の負債人ありて一人ハ金五
 百一人ハ五十を貸しに四二債方ありければ債主この二人を免たり
 然ハ二人の者その債主を愛するハ孰カ多キ我に聞せよ四三シモン答け
 るハ我ももふに免る事多キ者あらんイエス曰けるハ爾が意こころ違
 ざる也四四遂に婦を顧みてシモンに曰けるハ此婦を見や我なんぢの家
 に入に爾ハ我足に水を給す此婦ハ涙にて我足を濡し首の髪をもて拭り
 四五爾ハ我に口を接す此婦ハ我に口に入し時より我足に口を接て已す
 四六爾ハ我首に膏を抹す此婦ハ我足に香膏を抹り四七是故に我を
 んぢに言ん此婦の多の罪ハ赦れたり之に因て其愛も亦多なり赦るハこ
 少キ者ハ其愛も亦少し四八是に於て其婦に曰けるハ爾の罪赦さる
 四九同に坐せる者も心の中に謂けるハ是人ハ是何人なれば罪をも赦す乎
 五十イエス婦に曰けるハ爾の信爾を救り安然にして往

第八

此後イエス郷邑を周遊て神の福音を宣傳ふ十二の弟子も借
 に従ひぬ二また前に悪鬼を患たりし者病を塗れたる婦等も従ひたり即
 ち七の悪鬼を逐出れたるマгдаラと稱マリヤ又ヘロデの家令クレーザの
 妻ヨハンナ又スザンナ此は多の婦ありて皆その所有を以てイエスに供
 事たりき四衆の人々諸邑より出てイエスの所に集りければ譬をもて曰
 り五種まく者種を播んさて出ぬ播るとき路旁に遺し種あり踏踏られ且天
 空の鳥これを食へり六また石上に遺し種あり萌出て稿たり是潤なきが
 故あり七また棘の中に遺し種あり棘も同に生長て之を蔽り八また沃壤に遺
 し種あり生出て實を結べるこも百倍せり是を言畢て呼びけるハ耳あり
 て聽ゆる者ハ聽べし九其弟子もふて曰けるハ是いかにある譬ぞ十答けるハ神
 の國の奧義を爾曹にハ知こも賜と他の者にハ譬を以てす此ハ視ても見す
 聽ても悟ざる爲なり十一夫この譬の釋種ハ神の道なり十二路の旁に遺し
 ハ聽し後惡魔の爲に其心より道を奪る者なり彼ハ人の信じて救れんこ

心を恐るおそ 十三石上いはのうへに遺しおち 聽きき喜よろこびて道みちを受けうけども根ねなければ信しんずる
 暫しばしのみ患わざはひ難あやまに遇あひ時ときの道みちに背そむく者ものなり 十四 棘いばらの中なかに遺おちし 聽きて往まる世よ
 の諸しよ 慮かひと貨財たからと宴樂たのしみとに蔽おほはれて實みざる者ものなり 十五 沃壤よそらに遺おちし 正ただかつ
 善よき心こころにて道みちを聽きこれを守まもり忍しのびて實みを結むすぶ者ものなり 十六 燈あかりを燃もし器うつはにて
 之これを覆おほひ或あるの味あじ下したにおく者ものをいり來きたる者ものの其その光あかりを見みん爲ために臺たいの上うへに置おく
 べし 十七 隱かくれて現あらはざる者ものをいり藏かくて知しれず露あはれいで出でざる者ものなし 十八 是この故ゆゑに爾曹なんぢら
 聽きこゝを慎つしめ有ある者もののなほ予あたへられ無な有ある者ものの有あり意おもふ所ところの物ものをいり奪とるべし
 十九 此時このときイエスの母ははと兄弟きやうだいきたりければ群集ぐんじふに因より近ちかくこゝ能あたりし
 廿 或ある人ひとこれをイエスに告つげて曰いひけるの 爾なんぢ母ははと兄弟きやうだいなんぢに遇あは
 て外そとに立たて 廿一 イエス 答こたへて曰いひけるの 神かみの道みちを聽きて之これを行おふ者ものの乃すなはち我母わがはは
 わが兄弟きやうだいなり 廿二 一日いちにちイエス弟子でしと共ともに舟ふねに登のり 彼等かれらに湖うみの前まへ岸べ
 渡わたべしと曰いひければ即すなはち漕出こぎだせり 廿三 舟ふねの走はる時ときイエス寢いねたり 颶風おほかぜみづらみ
 吹下ふきおり舟ふねに水みづ満みんとして危あやかりしが 廿四 弟子でしきたりてイエスを醒さし曰いひけ

るの 師しと師しと我儕われらとなんとすイエス起おきかせなみ浪なみを斥いめければ止やみ平穩おだや
 廿五 互たがひに曰いひけるの 此この何人たれあるのぞや風かぜと水みづとに命めいせしが 廿六 亦また順したがへり 廿七 斯かく
 かりラヤを對むかへカタラ人ひとの地ちに着つき 廿七 岸かたに登あがり時ときある一人ひとり邑むらより出いてイ
 エスに遇あひこの者ものの久ひさく惡鬼あくまに憑つかれ衣きをきす家いへに住す 惟ただ家いへにのみ居ゐたりき
 廿八 イエスを見てみて喊叫さけぶの 前まへに俯伏ひれよし大聲おほきこゑを呼よりけるの 至いたかかみ神の子こイエ
 スよ我われなんぢと何なにの與あらんや 爾なんぢに 求もとむ我を苦むると勿なか二九此惡
 鬼あくまに人ひとより出いでイエスが命めいじたるに因より彼かれの憑つかれたる事ことすでに久ひさし
 鐘かねまた極格がせ守りも其そのを打碎うちくだき惡鬼あくまの爲ために野のに逐おはれ 三十 イエス之これ
 問とて曰いひけるの 爾なんぢ名な何なにと稱いふや 答こたへるの レギオンれぎよん是これもほくの惡鬼あくまの入いたる
 故ゆゑなり 三十一 惡鬼あくまイエスに求ねがひの 命めいじて底そこをき所ところに往まる勿れ 三三 此
 多おほくの豕ぶたの羣ぐん山やまに草くさを食くひたりしが 彼等かれらその豕ぶたに入いらんこを許ゆるせと求ねがひ
 之これを許ゆるせり 三三 惡鬼あくまその人ひとより出いて豕ぶたに入いりしが 其群そのぐんはげしく馳下かけくだり山

坡より湖に落て溺る三四牧者ども其有し事を見て逃ゆき之を邑また諸村
 に告たり五三衆人その有し事を見んきて出てイエスの所に來れば惡鬼の離
 れし人衣を着たし心にてイエスの足下に坐せるを見て懼あへり
 三六惡鬼に憑れたりし人の救れし狀を見たる者この事を彼等に告ければ
 三七ガダラ四方の多くの衆庶イエスに此を去んことを求り是に懼しが
 故よりイエス舟に登て返ぬ三八惡鬼の離たる人イエスと共に居んことを求
 けるにイエス之を去しめて三九家にかへり神の爾に行し大なる事を人に告
 げよと曰ければ遂に去てイエスの已に行たまひし大なる事を遍邑に傳たり
 四〇イエス返たるとき衆人みな仰望て之を喜び接ふ四二ヤイロと云る
 人あり此の會堂の宰より年をばよそ十二歳ある一人の女ありて瀕死を
 りければ來イエスの足下に伏て我家に來り給んことを求りイエスの往さ
 ぎ衆人これに擁あへり四三婦あり十二年血漏を患ひ醫者の爲に其業を
 盡く耗しければ誰にも痊れ得ざりしが四四イエスの後に來て其衣の裾

に押ければ直に血の漏れと止め四五イエス曰ける我に押る者の誰ぞや衆
 人のみも特に押れる者さしと曰りペテロあよび僭に在者ども曰ける師よ
 衆人あんちに擁擠せまるに我に押る者の誰ぞと曰たまふ乎四六イエス曰け
 る我に押る者あり能力の我身より出るを覺れば也四七その婦みづから隠
 せぬを知をのき來て前に伏さりし故を其たちちに愈たるを衆人の
 前に告四八イエス曰ける女よ心安かれ爾の信あんちを救へり安然にし
 て往四九かく言る時に會堂の宰の家より人きたりて宰に曰ける爾が
 女はや死たり師を勞はす勿れ五〇イエス之をきき答て宰に曰ける懼る
 勿たれ信せよ女の痊べし五一イエス家に入にペテロヤコブヨハ子あよび
 女の父母の外たれにも僭に入を許さりりき五二衆人みな女の爲に哭
 哀しめかイエス曰ける我の哭あかれ死たるに非ず寢たる耳五三彼等その死
 たるを知べ之を笑へり五四イエス人々を皆いたして女の手をとり女起よ
 と呼曰ければ五五其魂かへりて忽ち起たりイエス命じて食を予しかば

され第三日に甦るべし二三又イエス衆人に曰けるハ若われに従へんこ
 欲ふ者の己に克て日々その十字架を買て我に従へ三四その生命を保全せん
 欲者の之を棄ひ我ために生命を棄ふ者ハ之を保全すべし三五人もし全世
 界を利することも自己を棄ひ自ら亡なば何の益あらん乎二六我我道を
 耻る者をば人の子も亦もの榮光を父と聖使の榮光をもて來る時
 これを耻べし二七われ誠に爾曹に告ん此に立者の中に神の國を見までハ死
 ざる者のあり○二八此事を言けるのち八日がかり過てイエスペテロヨハネ
 ヤニヲを携ひ祈禱せんさて山に登れり二九祈れる時其顔の貌つれと異
 り其衣服白く輝きぬ三十三人の人ありて之を言へり即ちモーセとエリヤ
 あり榮光の中に現れて三二イエスのエルサレムにて既や世を逝んとする
 事を語る三三ペテロあはび偕に在し者等いたく寢たりしが已に醒てイエス
 の榮光また偕に立る一人を見たり三三この二人のイエスを別る時ペテ
 ロイエスに曰けるハ師よ此に居の喜われらに三の廬を建せ給へ一ハ爾の

ため一ハモーセのため一ハエリヤのため
 三三 かく言るを雲きたりて彼等を蓋へり其雲に入しとき弟子たち懼ぬ
 三五 聲雲より出て曰けるハ此ハ我愛子あり之に聽べし三六 聲寂たれば惟イ
 エス一人を見たり弟子たち口を緘て見たりし事を當時誰にも告ざりき○
 三七 翌日山より下りければ許多の人々イエスを迎ふ三八 其中の或一人よハ
 ばりて曰けるハ師よ願くハ我子を眷顧たまへ此ハ我獨子なるに三九 惡鬼
 の爲に憑れてハ忽然さけび泡をふき拘擧られて傷み離るること實に難し
 四十 我これを逐出す事を爾の弟子に求し能き四一 イエス答て曰
 けるハ噫信なき悖逆世ある哉われ爾曹の中に爾曹を忍て幾何時あらんや爾
 が子を此に携來れ四二 來ば惡鬼これを傾跌て拘擧ぬイエス汚たる鬼を斥
 て其子を醫し父に予へたり四三 衆人みな神の大なる能を駭きイエスの行し
 事を異める時にイエス弟子に曰けるハ四四 此言を爾曹耳に藏めよ夫人の
 子の人の手に付されん四五 彼等この言を悟ざりて悟ざるやう隠されたる也

彼等もまた懼て此事を問ざりき○四六弟子等のうち互に誰が大あらんとの
 争論ありければ四七イエス其心の念を知て孩子をさり側にたてて四八彼
 等に曰けるハ我名の爲に此孩子を接る者ハ即ち我を接る者なり我を接る者
 ハ我を遣しよ者接る者あり凡て爾曹がうち最も小者こそ是大あらん四九
 ヨハ子答て曰けるハ師ハ爾の名に托て鬼を逐出せる者を見たりしが我儕
 と共に従はざる故これを禁たり五〇イエス曰けるハ禁るこそ勿れ我儕に敵
 抗ざる者ハ我儕に屬者なり○五一イエス天に升るの期いたりければエルサ
 レムに往こことを確定めたり五二使者等を先に遣しければ彼等ゆきてイエ
 スに備んが爲サマリヤ人の郷に入しに五三郷人そのエルサレムに向行さ
 まるるが故にイエスを納ざりき五四弟子のヤコブヨハ子此事を見て曰け
 るハ主よ我儕エリヤの行し如く天より火を召降し彼等を滅さんこそす可か
 五五イエス顧みて之を責め曰けるハ爾曹の心如何なる乎を自ら知ざる
 あり五六人の子ハ人の命を滅す爲に來す惟これを救ふ爲なり遂に他の郷に

往り○五七路を行き或人イエスに曰けるハ主よ何處に往たまふとも我
 從へん五八イエス彼に曰けるハ狐ハ穴あり天空の鳥ハ巢あり然ども人の子
 ハ枕する所なし五九又ある一人に曰けるハ我に従へ彼いひけるハ主よ先ゆ
 きて父を葬る事を我に容せ六〇イエス曰けるハ死たる者に其死し者を葬ら
 せ爾ハ往て神の國を宣ふ六一又ある一人曰けるハ主よ爾に従へん先ゆき
 て家人に別を告ることを容せ六二イエス曰けるハ手を犁に着て後を願
 る者ハ神の國に當ざる者也

此後主また七十人を立て之を兩個づくに分ち自ら至んとする
 諸邑諸地へ前に遣さんにて二彼等に曰けるハ收稼ハ多く工人ハ
 少し故にその稼主に工人を收稼所に遣んことを求べし三往われ爾曹を
 遣すハ羔を狼のなかに入るが如し四爾また旅袋覆をも携こし勿れ途
 にて人に問候をもする勿れ五人の家に入らば先其家の安全ならん事を求へ
 六若こゝに安全の子あらば爾曹が祈る安全ハ其家に留らん若しからず其

祈る安全さんぢらに歸へし其家に居りて供る所のものハ之を飲食せよ
 蓋工人の其工錢を獲り宜さればなり家より家に移ることを爲され入邑
 に入んに接る者あらば其さんぢらの前に供る者を食せよ九邑の中ある病の
 者を醫せ亦衆人に神の國ハ爾曹に近けりと言ふもし邑に入んに接る者
 くハ爾曹に出で曰ハ一我儕に沾たる爾曹の塵ハ爾曹に對て拂ん然も神
 の國の近けるを知十二われ爾曹に告ん其日いたらバソドム刑罰ハ此邑よ
 りも却て易かるべし十三ある禍ある哉コラシンよ噫禍ある哉ベテサ
 イダ爾曹の中に行し異能を若ソロシンドンに行しあらバ彼等ハ早く
 麻を灰を蒙り坐して悔改しあるべし十四審判にハソロシンドンの刑
 罰ハ爾曹よりも却て易からん十五已に天にまで擧られたるカペナウソ
 陰府に落さるべし十六爾曹に聽者ハ我に聽き爾曹を棄る者ハ我を棄る者
 り我を棄る者ハ我を遣し去る者を棄るなり十七七十人喜び返りて曰け
 るハ生ハ惡鬼さへも爾の名に因て我儕に服せり十八イエス曰けるハわれ

電の如くサタンの天より隕るを見し十九我さんぢらに蛇蠍を踐また敵
 の諸の權を制ふる權威を賜たり必ず爾曹を害ふ者なし二十然も惡鬼の爾
 曹に服し去る事の喜びとする勿れ爾曹が名の天に録されしを喜びすべし二一
 此時イエス心に喜びて曰けるハ天地の主ある父よ此事を智者と達者
 とに隠して赤子に顯し給ふを謝す父よ然それ等の如きは意旨に適るあり
 二三父ハ萬物を我に賜ふ父の外に子ハ誰あると識者なく亦子もよび子の顯
 す所の者の外に父ハ誰あると識者なし三三イエス弟子を顧て竊に曰ける
 ハ爾曹の見ごころの事を見るその目の福なり三四我さんぢらに告ん多の
 預言者もよび王も爾曹が見ごころの事を見んさせしごと見す爾曹が聞ご
 こころの事を聞んさせしごと聞ざりき〇三五爰に一個の教師あり起て彼
 を試み曰けるハ師よ我まにを爲す永生を受べき乎三六イエス曰ける
 ハ律法に録されしハ何ぞ爾に讀むニ七答て曰けるハ爾心を盡し精神
 を盡し力を盡し意を盡して主ある爾の神を愛すべし亦己の如く隣を